

Altova MobileTogether Server

ユーザーマニュアル

Altova MobileTogether Serverユーザーマニュアル

All rights reserved. No parts of this work may be reproduced in any form or by any means - graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or information storage and retrieval systems - without the written permission of the publisher.

Products that are referred to in this document may be either trademarks and/ or registered trademarks of the respective owners. The publisher and the author make no claim to these trademarks.

While every precaution has been taken in the preparation of this document, the publisher and the author assume no responsibility for errors or omissions, or for damages resulting from the use of information contained in this document or from the use of programs and source code that may accompany it. In no event shall the publisher and the author be liable for any loss of profit or any other commercial damage caused or alleged to have been caused directly or indirectly by this document.

発行日: 2018

(C) 2018 Altova GmbH

目次

1	はじめに	3
1.1	MobileTogether 概要	4
1.2	MobileTogether Server の使用方法	6
2	MobileTogether Server のセットアップ	10
2.1	SSL 暗号化のセットアップ	11
3	サーバーの手順	16
3.1	Altova LicenseServer の開始	17
3.2	MobileTogether Server の開始	19
3.3	SSL 暗号化のセットアップ	21
3.4	管理者とモバイル クライアントポートの設定	25
3.5	ユーザーとロール	29
3.6	使用可能な特権	31
3.7	ファイアウォールの構成	34
3.8	サービスの構成	35
3.8.1	タイマーのトリガー	37
3.8.2	ファイルシステムのトリガー	38
3.8.3	HTTP トリガー	39
3.9	ソリューション使用の統計	40
3.10	クライアントの情報	44
3.11	MobileTogether Server のバックアップと復元	45
3.12	よくある質問	47
4	Web UI リファレンス	50
4.1	ワークフロー	52
4.2	ユーザーとロール	57
4.2.1	ユーザー	59
4.2.2	ロール	63
4.2.3	パスワードポリシー	66
4.2.4	レポート	68

4.3	ユーザーライセンス	69
4.4	ログ	71
4.5	キャッシュ	73
4.6	設定	75

5 Altova LicenseServer 86

5.1	ネットワーク情報	88
5.2	LicenseServer の更新	90
5.3	インストール (Windows)	91
5.4	インストール (Linux)	92
5.5	インストール (macOS)	94
5.6	Altova ServiceController	95
5.7	ライセンスの割り当て方法	96
5.7.1	LicenseServer の開始	97
5.7.2	LicenseServer の構成ページの開きかた (Windows)	99
5.7.3	LicenseServer の構成ページの開きかた (Linux)	102
5.7.4	LicenseServer の構成ページの開きかた (macOS)	104
5.7.5	ライセンスの LicenseServer へのアップロード	106
5.7.6	製品の登録	109
	Altova デスクトップ製品の登録	109
	FlowForce Server の登録	110
	MapForce Server の登録	114
	MobileTogether Server の登録	116
	RaptorXML(+XBRL) Server の登録	116
	StyleVision Server の登録	118
5.7.7	登録された製品へのライセンスの割り当て	120
5.8	構成ページ レファレンス	125
5.8.1	ライセンスプール	126
5.8.2	クライアント管理	132
5.8.3	クライアントの監視	136
5.8.4	設定	137
5.8.5	メッセージ、ログアウト	143
5.9	パスワードのリセット	144

インデックス

チャプター 1

はじめに

1 はじめに

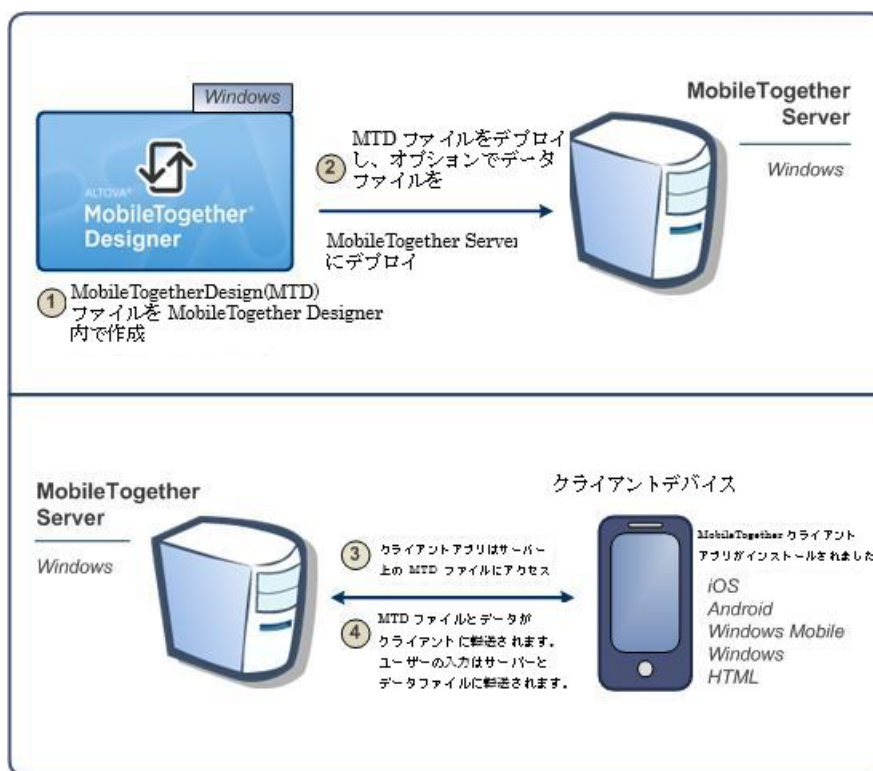
はじめに

- [MobileTogether 概要](#)はMobileTogether システムとシステム内のMobileTogether Server について紹介します。
- [MobileTogether Serverの使用方法](#) セクションは MobileTogether Client アプリと使用される MobileTogether Server のセットアップに必要な手順を大まかに紹介します。

1.1 MobileTogether 概要

MobileTogether は以下のモジュールにより構成されています:

- *MobileTogether Designer*: モバイルクライアントのための MobileTogether ソリューションが作成され MobileTogether Server へデプロイされます。 [MobileTogether Designer ユーザーマニュアル](#) を参照してください。
- *MobileTogether Server*: MobileTogether ソリューションをモバイルデバイスにインストールした MobileTogether Client アプリにサーブします。サーバー管理タスクの [サーバーの手順](#) のセクションを参照してください。
- *MobileTogether Client アプリ (モバイルデバイス)*: MobileTogether Server に接続して、そのサーバーにデプロイされた MobileTogether ソリューションにアクセスします。 [MobileTogether Client App ユーザーマニュアル](#) を参照してください。



システム必要条件

▼ MobileTogether Designer

Windows	プラットフォーム更新済みの Windows 7 SP1、Windows 8、Windows 10
Windows Server	プラットフォーム更新済みの Windows Server 2008 R2 SP1 または以降

▼ MobileTogether Server

Windows	プラットフォーム更新済みのWindows 7 SP1、 Windows 8、Windows 10
Windows Server	プラットフォーム更新済みのWindows Server 2008 R2 SP1 まなほ以降
Linux	- CentOS 6 まなほ以降 - RedHat 6 まなほ以降 - Debian 7 まなほ以降 - Ubuntu 12.04 まなほ以降
(Mac) OS X, macOS	OS X10.10、10.11、macOS 10.12 まなほ以降

▼ MobileTogether Client

iOS	Apple モバイルデバイスには9 以上
Android	Android モバイルデバイスには4.0 以上
Windows Mobile	Windows Phone にはWindows Phone 8.1
Windows RT、 Metro	Windows 8.1、10; Windows RT タッチが有効化されているPC とタブレットコンピューター
HTML	その他すべてのモバイルデバイスにはHTML ブラウザー

1.2 MobileTogether Server の使用方法

MobileTogether クライアントと使用するための MobileTogether Server のセットアップ

- MobileTogether Server のインストールと構成
- MobileTogether Designer から MobileTogether Server への MobileTogether ソリューションのデプロイ
- MobileTogether Server 上のソリューションにアクセスするための (モバイルデバイス上の) MobileTogether Client アプリの構成

更に詳しい手順

1. MobileTogether Server のインストール方法

MobileTogether Server は Windows、Linux、および macOS システムで動作します。MobileTogether Server の最新バージョンをインストールする前に、前のバージョンをアンインストールします。Windows へのインストール、Linux へのインストール、および macOS へのインストールを参照してください。

2. MobileTogether Server のライセンス

MobileTogether Server のライセンスを供与するためには、ネットワーク上で LicenseServer に接続可能である必要があります。MobileTogether Server を開始して、MobileTogether Server を LicenseServer で登録します。LicenseServer から MobileTogether Server へライセンスを割り当てます。Windows でのライセンス、Linux でのライセンス、および macOS でのライセンスを参照してください。

3. SSL 暗号化のセットアップ

MobileTogether Server のサーバーとクライアント間のコミュニケーションの SSL 暗号化を希望する場合、暗号化をセットアップすることができます。([SSL 暗号化のセットアップ](#) 参照) 更に、MobileTogether Client アプリと SSL を介して通信するよう構成する必要があります。 [MobileTogether Client アプリユーザーマニュアル](#) を参照してください。

4. 基本設定の定義

基本設定は [管理者とクライアントポート](#) と他の [コミュニケーション設定とセキュリティ設定](#) を説明します。

5. ユーザーアカウントの設定

MobileTogether Server は常に [ユーザーアカウント](#) を介してアクセスすることができます。ですので、ユーザーアカウントを適切にセットアップする必要があります。アクセスには 2 通りの方法があります。

- 管理者のアクセス Web UI 介しての管理者のアクセスは管理タスク実行するために使用されます。管理アクションはコミュニケーション設定、セキュリティ設定、およびユーザーの管理を含みます。
- エンドユーザーのアクセス エンドユーザーはモバイルデバイスを介してアクセスすることができます。MobileTogether ソリューションをクライアントにダウンロード時に使用されます。サーバー上のソリューションへのアクセスはクライアントがログインするユーザーアカウントにより決定されます。

6. MobileTogether ソリューションの MobileTogether Server へのデプロイ

MobileTogether ソリューションは MobileTogether Designer アプリケーション内でデプロイされます。[MobileTogether Designer ユーザーマニュアル](#) を参照してください。

7. MobileTogether Server にアクセスするための MobileTogether Client アプリの構成

モバイルデバイス上の MobileTogether Client アプリは MobileTogether Server へ接続できるよう構成されてはいませんが、MobileTogether Client アプリの構成に必要な MobileTogether Server 情報は [クライアントの情報](#) のセクションで説明されています。また、[MobileTogether Client アプリユーザー マニュアル](#) も参照ください。

サーバー IP アドレスとネットワーク ファイアウォールの設定

使用中のサーバーは (インターネットを介してアクセスすることできる) 公開された IP アドレス および/または (例えば、企業内ネットワーク内の WiFi など、プライベートのネットワーク内でアクセスすることできる) プライベートの IP アドレスを持つことができます。もし、モバイルクライアントデバイスがインターネットにサーバーのプライベートの IP アドレスを使用して、アクセスした場合、アクセスはできません。これは、プライベートの IP アドレスは、インターネット上で知られておらず、解決することができないからです。クライアントデバイスが、プライベートの IP アドレスを使用する場合、クライアントデバイスはプライベートネットワークへのアクセスを既に取得している必要があります。

サーバーへのアクセスを確実にするために、以下を行ってください。

- インターネットを介してアクセスできるように、サーバーに公開された IP アドレスを与えます。クライアントデバイスでは、この公開された IP アドレスを使用してサーバーにアクセスします。
- ファイアウォールを使用しており、MobileTogether Server をサーバーにプライベート IP アドレスを使用して (プライベートのネットワーク内に) インストールする場合、ネットワークのファイアウォールを使用して、公開された IP アドレスポートの組み合わせに送信されたリクエストを使用中の MobileTogether Server サーバーに転送します。クライアントデバイスでは、公開された IP アドレスを使用してください。

MobileTogether Client 通信のために使用されるサーバーポートが使用されてサーバーへのアクセスが許可されるようにファイアウォールが構成されていることを確認してください。MobileTogether Server で使用されるポートは MobileTogether Server の Web UI の設定ページで指定することができます。(MobileTogether Server ユーザーマニュアルを参照してください)。クライアントデバイスでは、これはアクセスするサーバーポートとして指定されている必要があります。

ヒント: ポート 80 はデフォルトで通常ほとんどのファイアウォールに対して開かれています。ですから、ファイアウォールの設定で問題があり、ポート 80 が他のサービスにバインドされていない場合、ポート 80 をクライアントとの通信用の MobileTogether Server ポートとして指定することができます。

チャプター 2

MobileTogether Server のセットアップ

2 MobileTogether Server のセットアップ

このセクションはインストール、ライセンスの供与および他のセットアップ手順について説明します。このセクションは以下のセクションにより整理されています:

- Windows でのセットアップ
- Linux でのセットアップ
- macOS でのセットアップ
- [SSL 暗号化のセットアップ](#)

2.1 SSL 暗号化のセットアップ

MobileTogether Server と MobileTogether Client デバイスの通信が暗号化された SSL プロトコルの使用を必要とする場合、以下の手順が必要です:

- SSL 秘密キーを生成し、SSL 公開キー証明書ファイルを作成する
- SSL 通信のため MobileTogether Server をセットアップする

手順は以下に説明されています。

MobileTogether はオープンソースの [OpenSSL toolkit](#) を使用して、SSL 暗号化を管理します。したがって、[OpenSSL](#) が利用可能なコンピュータで以下のステップは実行される必要があります。[OpenSSL](#) は通常、Linux と macOS コンピューターでは既にインストールされています。また、[Windows で動作するコンピュータにインストール](#)することもできます。バイナリインストーラのダウンロードのリンクに関しては [OpenSSL Wiki](#) を参照してください。

1. 秘密キーの生成

SSL MobileTogether Server に **秘密キー** がインストールされることを必須とします。この秘密キーは MobileTogether Client アプリへ送信されるすべてのデータを暗号化するために使用されます。秘密キーを作成するには、以下の OpenSSL コマンドを使用します:

```
openssl genrsa -out private.key 2048
```

これにより **private.key** という秘密キーを含むファイルが作成されます。ファイルの保存場所をメモしてください。秘密キーは以下で必要です (i) 証明書署名要求 (CSR) の生成、および (ii) MobileTogether Server へインストールする際 (以下ステップ8 参照)。

2. 証明書の署名要求 (CSR)

証明書署名要求 (CSR) は [VeriSign](#) または [Thawte](#) などの証明機関 (CA) に送信されます。CSR は秘密キーに基づき、組織の情報を含みます。以下の OpenSSL コマンド (ステップ1 でパラメータの1 つとして作成された秘密キーファイル) の手順を踏んで CSR を作成します:

```
openssl req -new -nodes -key private.key -out my.csr
```

CSR の生成中、以下にリストされる所属組織の情報を提供する必要があります。この情報は企業のアイデンティティを検証するために使用されます。

- 国名
- 地域 (ビジネスが位置する都市)
- 組織 (企業名)。特殊文字を使用しないでください。証明書が無効になります
- 共通名 (サーバーの DNS 名)。サーバーの公式名、つまりクライアントアプリがサーバーに接続する際使用する DNS 名、と一致する必要があります。
- チャレンジパスワード。このエントリは空白にしてください!

3. SSL 証明書の購入

SSL 証明書は [VeriSign](#) または [Thawte](#) などの認識された証明機関 (CA) から購入してください。ここらの手順に関しては、VeriSign 手順に従ってください。他の証明機関での手順も類似しています。

- [VeriSign Web サイト](#) に移動します。
- **SSL 証明書の購入** をクリックします。

- 異なる種類の SSL 証明書が使用可能です。MobileTogether Server には Secure Site または Secure Site Pro 証明書で十分です。拡張検証 (EV) は、ユーザーが閲覧できる 緑のアドレスバーが存在しないため必要ありません。
- 署名手続きの手順に従い、注文に必要な情報を入力してください。
- (ステップ2 で作成された) CSR がプロンプトされた場合、**my.csr** ファイルのコンテンツを注文フォームにコピーして貼り付けてください。
- クレジットカードで証明書の支払をしてください。

証明書の取得には時間がかかる場合があります

キー証明書を SSL 証明機関 (CA) から取得するには、通常 **2~3営業日** かかります。MobileTogether Server セットアップの際この点に留意してください。

4. 証明機関からの再帰的公開キー

証明機関は 2 ~ 3 営業日で登録プロセスを完了します。この間、電子メールまたは電話で DNS ドメインで SSL 証明書をリクエストする許可があるかの認証が行われます。このプロセスを完了するために関連機関は協力してください。

認証と登録プロセスが完了すると SSL 証明書の**公開キー**を含む電子メールが送信されます。公開キーは書式なしテキストフォームまたは添付された **.cer ファイル** で送信されます。

5. 公開キーをファイルに保存する

MobileTogether Server との使用の場合、公開キーは **.cer** ファイルで保存される必要があります。公開キーがテキストで提供された場合、以下の範囲の全てのラインをコピーして

```
--BEGIN CERTIFICATE--
...
--END CERTIFICATE--
```

mycertificate.cer と呼ばれるテキストファイルに貼り付けてください。

6. CA の中間証明書をファイルに保存する

SSL 証明書を完了するには、追加証明書が必要になります: **プライマリとセカンダリ中間証明書**。証明機関 (CA) は Web サイトに中間証明書をリストしています。

- Verisign の中間証明書: https://knowledge.verisign.com/support/ssl-certificates-support/index?page=content&id=AR657&actp=LIST&viewLocale=en_US
- Verisign の Secure Site 製品の中間証明書: <https://knowledge.verisign.com/support/ssl-certificates-support/index?page=content&id=AR1735>

両方の (プライマリとセカンダリ) 中間証明書をコピーして貼り付け、使用するコンピュータに個別のテキストファイルとして保存します。

7. 1 つの公開キー証明書ファイルに証明書をまとめる

3 つの証明書ファイル:

- 公開キー (mycertificate.cer)
- セカンダリ中間証明書
- プライマリ中間証明書

各証明書は以下のような括弧のついたラインのテキストブロックを含みます:

```
--BEGIN CERTIFICATE--
...
--END CERTIFICATE--
```

3 つすべての証明書を1 つのファイルに順番にコピーして貼り付けます。シーケンスの順番は重要です: (i) 公開キー、(ii) セカンダリ中間証明書、(iii) プライマリ中間証明書。証明書同士の間には空白が無いよう注意してください。

```
--BEGIN CERTIFICATE--
公開キー from mycertificate.cer (ステップ5 参照)
--END CERTIFICATE--
--BEGIN CERTIFICATE--
セカンダリ中間証明書 (ステップ6 参照)
--END CERTIFICATE--
--BEGIN CERTIFICATE--
プライマリ中間証明書 (ステップ6 参照)
--END CERTIFICATE--
```

結合された証明書テキストに **publickey.cer** というファイル名を与えます。これが SSL 証明書の公開キー証明書ファイルです。このファイルは CA による証明書を証明する際に使用される公開キー証明書と中間証明書の書式の完全な信頼チェーンを含みます。公開キーファイルは秘密キーと共に MobileTogether Server にインストールされます。(ステップ8 参照)。

8. MobileTogether Server に SSL 証明書をインストールする

SSL 証明書は、以下のファイルに保存された証明書のセットです:

- private.key: 秘密キー証明書を含みます
- publickey.cer: 公開キー証明書および証明機関の(プライマリとセカンダリ) 証明書を含みます。

MobileTogether Server に SSL 証明書をインストールするには、以下の手順に従います:

- MobileTogether Server UI にログインします(デフォルトではサーバーのポート 8085)。
- 設定タブに移動します。
- SSL 証明書 (下部スクリーンショット参照) から2 つの証明書ファイルをアップロードします。

SSL 証明書:

セキュリティ保護付き (SSL) 通信に必要な秘密キーと証明書を選択してください。
セキュリティ保護付き (HTTPS) ポートを使用するため有効な秘密キーと証明書が必要です。
秘密キー/証明書は PEM フォーマットでなければなりません。

秘密キー:

ファイルが選択されていません。

証明書:

ファイルが選択されていません。

- 秘密キーには(ステップ1 で作成済み) **private.key** を選択します。
- 証明書には(ステップ7 で作成済み) **publickey.cer** を選択します。

- 一般設定セクション下部にある **保存** をクリックして変更を保存します。

9. サーバーのHTTPS ポートを設定する

SSL 証明書をインストールした後、SSL クライアント通信のサーバーポートを指定することができます。以下の手順を踏みます。

- MobileTogether Server UI にログインします(デフォルトでは、サーバーのポート8085 使用)。
- 設定タブに移動します。
- モバイルクライアントポート(下部スクリーンショット参照) でHTTPS ポートが指定できます。

モバイル クライアント ポート:

モバイルクライアントが利用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュリティ保護付き (HTTPS) を選択してください。
これらのポートは管理のために使用できません!

☒ HTTP バインドアドレスを有効化する

☒ 全てのインターフェイス ☐ ポート: 8083

☐ HTTPS バインドアドレスを有効化する

☒ 全てのインターフェイス ☐ ポート: 8084

☒ 匿名で自動的にログイン

☐ カスタム化されたログインとインデックスページを使用

☐ /mt-login を使用して MobileTogether のログインを許可する

HTTPS から MobileTogether Server へアクセスできるようにファイアウォールの設定を許可してください。

10. SSL 通信のテスト

SSL テストツールを使用して、HTTPS を介したサーバーからの安全な通信が作動しているかテストしてください。例えば、ブラウザを使用する場合、以下の SSL テストサイトを使用することができます: <https://sslttools.websecurity.symantec.com/checker/views/certCheck.jsp>

これにより以下が把握できます: (i) 公開キーファイルが適切にステップ7 の中間信頼チェーンと共に構築されているか、および(ii) サーバーが適切にファイアウォールを介して接続できるか。

11. MobileTogether ClientのSSL の使用を有効化する

SSL-有効化された MobileTogether Server と通信する MobileTogether Client アプリでは SSL 暗号化 チェックボックスをチェックすることで SSL 通信が有効となります。このチェックボックスを検索するには MobileTogether Client ドキュメンテーションを参照してください。

チャプター 3

サーバーの手順

3 サーバーの手順

このセクションは重要なサーバーの手順について説明します。MobileTogether Server は既にライセンスが供与されていると仮定します。メモ しかし、MobileTogether Server にアクセスするには、LicenseServer と MobileTogether Server の両方が開始され、サービスが作動していなければなりません。

- [Altova LicenseServer の開始](#)
- [MobileTogether Server の開始](#)
- [SSL 暗号化のセットアップ](#)
- [管理者とモバイルクライアントポート](#)
- [ユーザーとロール](#)
- [使用可能な特権](#)
- [ファイアーウォールの構成](#)
- [サービスの構成](#)
- [ソリューション使用の統計](#)
- [クライアントの情報](#)
- [MobileTogether Server のバックアップと復元の方法](#)

3.1 Altova LicenseServer の開始

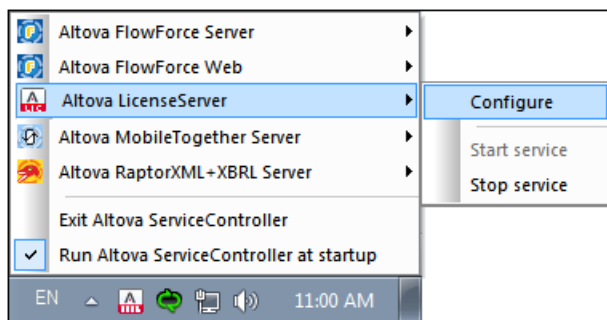
Altova サーバ製品 (i) FlowForce Server; (ii) RaptorXML(+XBRL) Server; (iii) MobileTogether Server; (iv) MapForce Server; (v) StyleVision Server, のインストールを実行する場合、ネットワーク上の Altova LicenseServer によりインストールがライセンスされていない場合があります。接続された MobileTogether Server のインストールが実行されるためには、LicenseServer はサービスとして、常時作動している必要があります。LicenseServer を停止すると、すべての接続された MobileTogether Server インストールが停止されます。この状態が発生した場合、LicenseServer を再起動する必要があります。

LicenseServer の開始および停止は以下の通りです:

▼ Windows

システムトレイにある Altova ServiceController から LicenseServer を開始することができます。

最初に **スタート | すべてのプログラム | Altova LicenseServer | Altova ServiceController** をクリックして Altova ServiceController を開始すると、システムトレイにアイコンが表示されます (下部スクリーンショット参照)。スタートアップ時に Altova ServiceController を作動する (Run Altova ServiceController at Startup) オプションを選択すると、Altova ServiceController はシステム起動時に開始され、以降システムトレイで使用可能となります。



LicenseServer を開始するには、システムトレイのサービスコントローラ (ServiceController) アイコンをクリックします。ポップアップしたメニューの **Altova LicenseServer** をポイントして、(下部スクリーンショット参照)、LicenseServer サブメニューからサービスの開始 (**Start Service**) を選択します。LicenseServer が既に作動している場合、Start Service オプションは無効化されます。

LicenseServer を停止するには、LicenseServer サブメニューから **サービスの停止** (Stop Service) を選択します (上部スクリーンショット参照)。

▼ Linux

LicenseServer を Linux システムでサービスとして開始する場合、ターミナルウィンドウで以下のコマンドを実行します:

```
[Debian]:      sudo /etc/init.d/licenseserver start
[Ubuntu]:      sudo initctl start licenseserver
[CentOS 6]:    sudo initctl start licenseserver
[CentOS 7]:    sudo systemctl start licenseserver
[RedHat]:      sudo initctl start licenseserver
```

(LicenseServer を停止する場合、上記コマンドで **start** を **stop** に置換えてください)

▼ macOS

LicenseServer をmacOS システムでサービスとして開始する場合、ターミナルウィンドウで以下のコマンドを実行します:

```
sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.altova.LicenseServer.plist
```

LicenseServer を停止する場合以下を使用します:

```
sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/  
com.altova.LicenseServer.plist
```

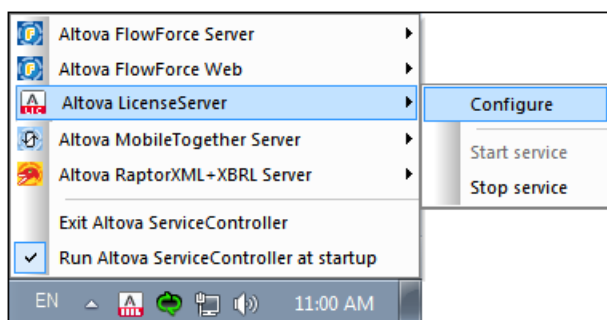
3.2 MobileTogether Server の開始

MobileTogether Server を作動するには、MobileTogether Server はサービスとして開始されなければなりません。手順は以下の通りです。

▼ Windows

システムトレイにある Altova ServiceController から MobileTogether Server を開始します。

最初に **スタート | すべてのプログラム | Altova LicenseServer | Altova ServiceController** をクリックして Altova ServiceController を開始すると、システムトレイにアイコンが表示されます（下部スクリーンショット参照）。スタートアップ時に Altova ServiceController を作動する (Run Altova ServiceController at Startup) オプションを選択すると、Altova ServiceController はシステム起動時に開始され、以降システムトレイで使用可能となります。



MobileTogether Server を開始するには、システムトレイのサービスコントローラ (ServiceController) アイコンをクリックします。ポップアップしたメニューの MobileTogether Server をポイントして、（下部スクリーンショット参照）、MobileTogether Server サブメニューからサービスの開始 (**Start Service**) を選択します。MobileTogether Server が既に作動している場合、Start Service オプションは無効化されます。

MobileTogether Server を停止するには、MobileTogether Server サブメニューから **サービスの停止 (Stop Service)** を選択します（上部スクリーンショット参照）。

▼ Linux

MobileTogether Server を Linux システムでサービスとして開始する場合、ターミナルウィンドウで以下のコマンドを実行します：

```
[Debian]:      sudo /etc/init.d/mobiletogetherserver start
[Ubuntu]:      sudo initctl start mobiletogetherserver
[CentOS]:      sudo initctl start mobiletogetherserver
[RedHat]:      sudo initctl start mobiletogetherserver
```

(MobileTogether Server を停止する場合、上記コマンドで **start** を **stop** に置換えてください。)

▼ Mac OS X

MobileTogether Server を Mac OS X システムでサービスとして開始する場合、ターミナルウィンドウで以下のコマンドを実行します：

```
sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/
```

```
com.altova.MobileTogetherServer.plist
```

MobileTogether Server を停止する場合以下を使用します:

```
sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/  
com.altova.MobileTogetherServer.plist
```


3.3 SSL 暗号化のセットアップ

MobileTogether Server と MobileTogether Client デバイスの通信が暗号化された SSL プロトコルの使用を必要とする場合、以下の手順が必要です:

- SSL 秘密キーを生成し、SSL 公開キー証明書ファイルを作成する
- SSL 通信のため MobileTogether Server をセットアップする

手順は以下に説明されています。

MobileTogether はオープンソースの [OpenSSL toolkit](#) を使用して、SSL 暗号化を管理します。したがって、[OpenSSL](#) が利用可能なコンピュータで以下のステップは実行される必要があります。[OpenSSL](#) は通常、Linux と macOS コンピューターでは既にインストールされています。また、[Windows で動作するコンピュータにインストール](#)することもできます。バイナリインストーラのダウンロードのリンクに関しては [OpenSSL Wiki](#) を参照してください。

1. 秘密キーの生成

SSL MobileTogether Server に秘密キーがインストールされることを必須とします。この秘密キーは MobileTogether Client アプリへ送信されるすべてのデータを暗号化するために使用されます。秘密キーを作成するには、以下の OpenSSL コマンドを使用します:

```
openssl genrsa -out private.key 2048
```

これにより `private.key` という秘密キーを含むファイルが作成されます。ファイルの保存場所をメモしてください。秘密キーは以下が必要です (i) 証明書署名要求 (CSR) の生成、および (ii) MobileTogether Server へインストールする際 (以下ステップ8 参照)。

2. 証明書の署名要求 (CSR)

証明書署名要求 (CSR) は [VeriSign](#) または [Thawte](#) などの証明機関 (CA) に送信されます。CSR は秘密キーに基づき、組織の情報を含みます。以下の OpenSSL コマンド (ステップ1 でパラメータの1 つとして作成された秘密キーファイル) の手順を踏んで CSR を作成します:

```
openssl req -new -nodes -key private.key -out my.csr
```

CSR の生成中、以下にリストされる所属組織の情報を提供する必要があります。この情報は企業のアイデンティティを検証するために使用されます。

- 国名
- 地域 (ビジネスが位置する都市)
- 組織 (企業名)。特殊文字を使用しないでください。証明書が無効になります
- 共通名 (サーバーの DNS 名)。サーバーの公式名、つまりクライアントアプリがサーバーに接続する際使用する DNS 名、と一致する必要があります。
- チャレンジパスワード。このエントリは空白にしてください!

3. SSL 証明書の購入

SSL 証明書は [VeriSign](#) または [Thawte](#) などの認識された証明機関 (CA) から購入してください。ここらの手順に関しては、VeriSign 手順に従ってください。他の証明機関での手順も類似しています。

- [VeriSign Web サイト](#) に移動します。
- SSL 証明書の購入をクリックします。

- 異なる種類の SSL 証明書が使用可能です。MobileTogether Server には Secure Site または Secure Site Pro 証明書で十分です。拡張検証 (EV) は、ユーザーが閲覧できる 緑のアドレスバーが存在しないため必要ありません。
- 署名手続きの手順に従い、注文に必要な情報を入力してください。
- (ステップ2 で作成された) CSR がプロンプトされた場合、**my.csr** ファイルのコンテンツを注文フォームにコピーして貼り付けてください。
- クレジットカードで証明書の支払をしてください。

証明書の取得には時間がかかる場合があります

キー証明書を SSL 証明機関 (CA) から取得するには、通常 **2~3営業日** かかります。MobileTogether Server セットアップの際この点に留意してください。

4. 証明機関からの再帰的公開キー

証明機関は 2 ~ 3 営業日で登録プロセスを完了します。この間、電子メールまたは電話で DNS ドメインで SSL 証明書をリクエストする許可があるかの認証が行われます。このプロセスを完了するために関連機関に協力してください。

認証と登録プロセスが完了すると SSL 証明書の**公開キー**を含む電子メールが送信されます。公開キーは書式なしテキストフォームまたは添付された **.cer ファイル** で送信されます。

5. 公開キーをファイルに保存する

MobileTogether Server との使用の場合、公開キーは **.cer** ファイルで保存される必要があります。公開キーがテキストで提供された場合、以下の範囲の全てのラインをコピーして

```
--BEGIN CERTIFICATE--
...
--END CERTIFICATE--
```

mycertificate.cer と呼ばれるテキストファイルに貼り付けてください。

6. CA の中間証明書をファイルに保存する

SSL 証明書を完了するには、追加証明書が必要になります: **プライマリとセカンダリ中間証明書**。証明機関 (CA) は Web サイトに中間証明書をリストしています。

- Verisign の中間証明書: https://knowledge.verisign.com/support/ssl-certificates-support/index?page=content&id=AR657&actp=LIST&viewLocale=en_US
- Verisign の Secure Site 製品の中間証明書: <https://knowledge.verisign.com/support/ssl-certificates-support/index?page=content&id=AR1735>

両方の (プライマリとセカンダリ) 中間証明書をコピーして貼り付け、使用するコンピュータに個別のテキストファイルとして保存します。

7. 1 つの公開キー証明書ファイルに証明書をまとめる

3 つの証明書ファイル:

- 公開キー (mycertificate.cer)
- セカンダリ中間証明書
- プライマリ中間証明書

各証明書は以下のように括弧のついたラインのテキストブロックを含みます:

```
--BEGIN CERTIFICATE--
...
--END CERTIFICATE--
```

3 つすべての証明書を1 つのファイルに順番にコピーして貼り付けます。シーケンスの順番は重要です: (i) 公開キー、(ii) セカンダリ中間証明書、(iii) プライマリ中間証明書。証明書同士の間にラインが無いよう注意してください。

```
--BEGIN CERTIFICATE--
公開キー from mycertificate.cer (ステップ5 参照)
--END CERTIFICATE--
--BEGIN CERTIFICATE--
セカンダリ中間証明書 (ステップ6 参照)
--END CERTIFICATE--
--BEGIN CERTIFICATE--
プライマリ中間証明書 (ステップ6 参照)
--END CERTIFICATE--
```

結合された証明書テキストに **publickey.cer** というファイル名を与えます。これが SSL 証明書の公開キー証明書ファイルです。このファイルは CA による証明書を証明する際に使用される公開キー証明書と中間証明書の書式の完全な信頼チェーンを含みます。公開キーファイルは秘密キーと共に MobileTogether Server にインストールされます。(ステップ8 参照)。

8. MobileTogether ServerにSSL 証明書をインストールする

SSL 証明書は、以下のファイルに保存された証明書のセットです:

- private.key: 秘密キー証明書を含みます
- publickey.cer: 公開キー証明書および証明機関の(プライマリとセカンダリ) 証明書を含みます。

MobileTogether Server にSSL 証明書をインストールするには、以下の手順に従います:

- MobileTogether Server UI にログインします(デフォルトではサーバーのポート8085)。
- 設定タブに移動します。
- SSL 証明書 (下部スクリーンショット参照) から2 つの証明書ファイルをアップロードします。

SSL 証明書:

セキュリティ保護付き (SSL) 通信に必要な秘密キーと証明書を選択してください。
セキュリティ保護付き (HTTPS) ポートを使用するため有効な秘密キーと証明書が必要です。
秘密キー/証明書は PEM フォーマットでなければなりません。

秘密キー:

ファイルが選択されていません。

証明書:

ファイルが選択されていません。

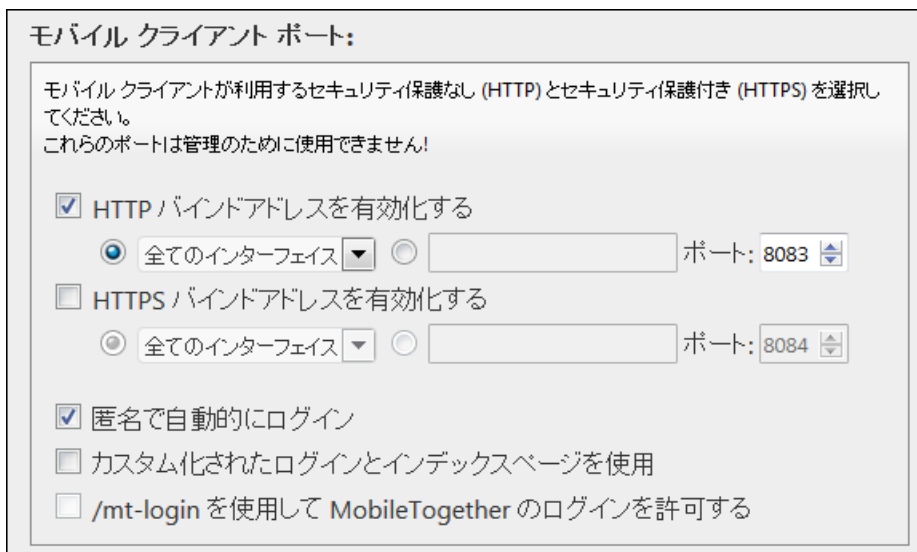
- 秘密キーには(ステップ1 で作成済み) **private.key** を選択します。
- 証明書には(ステップ7 で作成済み) **publickey.cer** を選択します。

- 一般設定セクション下部にある **保存** をクリックして変更を保存します。

9. サーバーのHTTPS ポートを設定する

SSL 証明書をインストールした後、SSL クライアント通信のサーバーポートを指定することができます。以下の手順を踏みます。

- MobileTogether Server UI にログインします(デフォルトでは、サーバーのポート8085 使用)。
- 設定タブに移動します。
- モバイルクライアントポート(下部スクリーンショット参照) でHTTPS ポートが指定できます。



HTTPS からMobileTogether Server へアクセスできるようファイアウォールの設定を許可してください。

10. SSL 通信のテスト

SSL テストツールを使用して、HTTPS を介したサーバーからの安全な通信が作動しているかテストしてください。例えば、ブラウザを使用する場合、以下のSSL テストサイトを使用することができます: <https://sslttools.websecurity.symantec.com/checker/views/certCheck.jsp>

これにより以下が把握できます: (i) 公開キーファイルが適切にステップ7 の中間信頼チェーンと共に構築されているか、および(ii) サーバーが適切にファイアウォールを介して接続できるか。

11. MobileTogether ClientのSSL の使用を有効化する

SSL-有効化されたMobileTogether Server と通信するMobileTogether Client アプリでは SSL 暗号化 チェックボックスをチェックすることで SSL 通信が有効となります。このチェックボックスを検索するには MobileTogether Client ドキュメンテーションを参照してください。

3.4 管理者とモバイル クライアントポートの設定

管理者ポートは MobileTogether Server の Web UI に接続するために使用されますが、モバイルクライアントポートはモバイルデバイスが MobileTogether Server のサービスに接続するために使用されます。

管理者ポートの設定

管理者ポートは以下の目的のためにアクセスを提供します:

- サーバーの Web UI に接続して、[ユーザーとロール](#)などの設定などの管理機能を実行します。
- MobileTogether デザインを (MobileTogether ソリューションとして) サーバルにデプロイします。 MobileTogether Designer はデザインをデプロイするための MobileTogether Server のアドレスとポートを指定する設定があります。

管理者ポート:

管理者が使用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュリティ保護付き (HTTPS) ポートを選択してください。
これらのポートはサーバーの構成、ユーザー、ロール、ユーザーライセンス管理、ワークフロー配置、とワークフロー シミュレーションに使用されます。
Altova ServiceController から管理ページを開くにはホスト名を指定してください。これにより、URL に不一致の証明書に関するブラウザ警告を回避することができます。

☒ HTTP バインドアドレスを有効化する

☒ 全てのインターフェイス

☐

ポート: 8085

☐ HTTPS バインドアドレスを有効化する

☒ 全てのインターフェイス

☐

ポート: 8086

ホスト名:

HTTP ポートはセキュリティ保護なしポート、HTTPS は保護付きポートです。HTTPS を使用する場合は [SSL 暗号化](#) をセットアップする必要があります。HTTPS ポートを設定し、URL に一致しない SSL 証明書に関する警告を回避するには、MobileTogether Server 構成ページが開かれるコンピュータのホスト名を指定します。

サーバーが特定の IP アドレス または、全てのインターフェイスと IP アドレスを使用するのを指定することができます。単一の IP アドレスが使用される場合、ラジオボタンの 2 番目のフィールドに入力してください。

モバイル クライアント ポートの設定

モバイルクライアントがサーバーに接続するために使用するポートです。HTTP ポートはセキュリティ保護なしポート、HTTPS は保護付きポートです。HTTPS を使用する場合は [SSL 暗号化](#) をセットアップする必要があります。サーバーが特定の IP アドレス または、全てのインターフェイスと IP アドレスを使用するのを指定することができます。単一の IP アドレスが使用される場合、ラジオボタンの 2 番目のフィールドに入力してください。

モバイル クライアント ポート:

モバイルクライアントが利用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュリティ保護付き (HTTPS) を選択してください。
これらのポートは管理のために使用できません!

☒ HTTP バインドアドレスを有効化する

☒ 全てのインターフェイス ☐ ポート: 8083

☐ HTTPS バインドアドレスを有効化する

☒ 全てのインターフェイス ☐ ポート: 8084

☒ 匿名で自動的にログイン

☐ カスタム化されたログインとインデックスページを使用

☐ /mt-login を使用して MobileTogether のログインを許可する

匿名として自動的にログインする

選択された場合、クライアント自動的に [anonymous](#) としてログインされます。ログインページがスキップされるとサーバーの最初のページが直接表示されます。最初のページはルートフォルダーを表示する基準のページ または定義されたカスタムページを表示します(次の点参照)。このオプションが選択されていない場合、クライアントは適切な資格情報必要とするデフォルトのログインページにログインします。もし、匿名のログインが選択されている場合、対応する [特権](#) を [anonymous](#) のために設定してください。

ユーザーによりカスタム化されたログインとインデックスページ

カスタム化されたログインページと最初のページが使用される場合このオプションを選択します。これにより、自身のエンドポイントをクライアントのためにデザインすることができます。カスタム化されたページを以下のようにセットアップします:

- 2つのHTML ページを作成します。それぞれ `login.html` と `index.html` 名前をつけます。
- MobileTogether Server **アプリケーションデータフォルダー** 内にある **インデックス** フォルダーにこれ2つのファイルを保存します(下のテーブル参照)。イメージファイルとCSS ファイルなどの追加ファイルは **インデックス** フォルダーのサブフォルダーに保存することができます(例えば `static` と呼ばれる仮定しましょう)。

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Mac	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows 7, 8, 10	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

サンプルログインページとサンプルの最初(index)のページのコードのリストは以下に表示されています。リストは基本的かつ変更する事が可能です。

login.html

```
<html>
  <header>
    <title>Customized Login</title>
  </header>
  <head>
    <meta http-equiv="Cache-Control" content="no-store" />
  </head>
  <body>
```

```

<div>
  <h1>Sign in</h1>
  <p>A bare-basics custom page for client logins to MobileTogether
  Server. Modify this page as required, and use the Static sub-folder to
  save CSS stylesheets, images, etc.</p>
  <form method="post" action="/do_login" name="loginform">
    <table>
      <tbody>
        <!-- The user to login -->
        <tr><td>Username:</td></tr>
        <tr><td><input type="text" name="username" size="30"></
td></tr>
        <!-- The password of the user -->
        <tr><td>Password:</td></tr>
        <tr><td><input type="password" name="password" size="30"></
td></tr>
        <!-- The Active Directory domain details -->
        <tr><td>&nbsp;</td></tr>
        <tr><td>Active Directory Login:</td></tr>
        <tr>Domain suffix: <td><input type="providernamesuffix"
name="providernamesuffix" value=""></td></tr>
        <tr>Domain prefix: <td><input type="providernameprefix"
name="providernameprefix" value=""></td></tr>
        <!-- The Sign-In button -->
        <tr><td><input type="submit" value="Sign in"></td></tr>
      </tbody>
    </table>
    <!-- The page to redirect to after a successful login. -->
    <input type="hidden" name="from_page" value="/index"></
input><br>
  </form>
</div>
</body>
</html>

```

index.html

```

<html>
  <header>
    <title>Custom Index</title>
  </header>
  <head>
    <meta http-equiv="Cache-Control" content="no-store" />
    <title>Custom Index</title>
  </head>
  <body>
    </img><hr/>
    <a href="/do_logout">Logout</a>
    <p>MobileTogether Custom Login</p>
    <div><a href="/run?d=/public/About">Start the About app</a></div>
    <div><a href="/run?d=/public/DateCalc">Start the Date Calculator
app</a></div>
    <div><a href="/run?d=/public/WorldPopulation">Start the World
Population Statics app</a></div>
  </body>
</html>

```

/mt-login を使用してログインすることを許可する

このオプションは、ログインがカスタマイズされたログインとインデックスページを使用せずに、デフォルトのログインページと最初のページを使用して行われることを指定します。このオプションにより `login.html` と `index.html` ファイルを保存先に保管しつつ、デフォルトページを使用することができます。クライアントまたはブラウザー設定は、この設定の効果を有効にするために、ブラウザーのキャッシュを削除することを必要とするかもしれないことに注意してください。

3.5 ユーザーとロール

ユーザーアカウントはログイン名とパスワードで定義され、関連したアクセスの権利を持ちます。ユーザーは MobileTogether Server に管理のためにまたはクライアントのエンドユーザーとしてアクセスします。アクセスの権利はユーザーに与えられる特権により決まります。ユーザーは以下の方法で特権を得ることができます: (i) ユーザーがメンバーであるロールから継承された特権、(ii) ユーザーに直接割り当てられた特権。ロールは特権のセットからなっています。ロールは特権を直接割り当てられるか、メンバーである他のロールから継承されます。特権は多種の MobileTogether Server 管理機能およびサービスにアクセスする権利です。特権の例: サーバー設定の管理、ユーザーのパスワード設定、サーバーでのシミュレーションの実行。

ロールの使用により、ユーザー特権は階層的に定義されます。例えば、SimpleAdmin のロールはサーバー設定の管理の特権を許可できません。AdvancedAdmin が SimpleAdmin のメンバーの場合、サーバー設定の管理を継承し、追加的にユーザーの管理、ロールと特権などの特権を割り当てることができます。階層的なチェーンは更に展開できます。特権のリスト [使用可能な特権](#) を参照してください。

▼ ユーザーに関して

ユーザーは名前とパスワードの組み合わせにより定義されます。MobileTogether Server のユーザーアクセスには2つの方法があります:

- **Web UI アクセス** Web UI は MobileTogether Server の管理インターフェイスです。Web UI にログインするには名前とパスワードの組み合わせが必要です; このため、ユーザーとして実行されます。
- **サービスインターフェイス** HTTP サービスインターフェイスにより、MobileTogether Server のサービス通常モバイルデバイスの MobileTogether Client アプリが公開されます。ユーザーは、名前とパスワードを使用してサービスインターフェイスにアクセスします。公開されるサービスは通常 MobileTogether のシミュレーションと関連したデータのアクセスです。

2つの特別なユーザーは定義済みです:

root	root 最初の管理者ユーザーです。このユーザーは最も有力なユーザーで、すべての特権を持ち、他のユーザーの追加やロールの設定を行うことができます。このユーザーの最初の名前とパスワードは root-root です。パスワードはいつでも変更することができます。
anonymous	anonymous は匿名のユーザーのアカウントで、HTTP サービスインターフェイスを介してサービスにアクセスします。このユーザーは、最初のパスワードがないため、トップレベルの Web UI にはログインすることができません。

▼ 特権に関して

特権はユーザーが実行を許可されたアクティビティです。MobileTogether Server 特権には定数があり、ユーザーにはゼロから利用可能なすべての特権を割り当てることができます。ですが、ユーザーに直接特権を割り当てるよりも、ロール別の特権を割り当てること推奨されます(以下のセクション参照)。特権とロールの割り当ては最初にこの特権を割り当てられたユーザーにより実行されます。最初にはユーザーがこの特権を有します。

以下のスクリーンショットにすべての利用可能な特権が表示されています。

特権

- ☐ ユーザー、ロール、特権の管理
- ☐ 独自のパスワードをセット
- ☐ セキュリティの制限を無視
- ☐ クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。)
- ☐ フィルター処理なしのログの表示
- ☐ 概要のキャッシュの表示
- ☐ ユーザーライセンス概要の表示
- ☐ ユーザーとロールの読み取り
- ☐ サーバー設定の管理

- ☐ ワークフローのトレース
 ("ファイルヘログ" オプションが有効化されている場合、ファイルへ(作業中 XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する)
- ☐ グローバルリソースの読み取り
- ☐ グローバルリソースの書き込み
- ☐ デザイナーからワークフローを開く
- ☐ デザイナーからのワークフローの保存
- ☐ サーバー シミュレーションの起動

タブ [ユーザーとロール](#) | [レポート](#) | [特権レポート](#) ですべての特権がリストされています。各特権はその特権を有するすべてのユーザー・ロールと共にリストされています。

▼ ロールに関して

ロールは特権のセットです。ロールは他のロールまたはユーザーに割り当てることができます。ロールの特権は自動的に他のロールまたはそのロールを割り当てられたユーザーに与えられます。ユーザーはいくつでもロールを割り当てることができます。その結果、ユーザーは、割り当てられたロールに定義されたすべての特権を有することができます。

以下のロールは定義済みです:

- **authenticated** は **anonymous** 以外のすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。つまり、名前とパスワードを持つユーザーには **authenticated** ロールが割り当てられます。
- **all** は **anonymous** を含む全てのユーザーに自動的に割り当てられます。
- **workflow-designer** は MobileTogether Designer 内のワークフローをデザインするユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、ワークフローの開始や保存、またサーバーからのシミュレーションの実行ができます。
- **workflow-user** はモバイルデバイスでワークフローを実行しているユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、サーバーにログインし、クライアントでシミュレーションを開始することなく、サービスインターフェイスにアクセスできます。
- **admin** は使用することのできるすべての特権を持ち、管理者としてのユーザーによる使用が想定されています。

3.6 使用可能な特権

特権は多種の MobileTogether Server 管理機能およびサービスにアクセスする権利です。ユーザーが Web UI または サービスインターフェイスを介して MobileTogether Server にログインすると、ユーザーのアクセス権利がユーザーの特権によって決められます。特権はユーザーに直接的にまたは ユーザーとロール タブのロールを介して割り当てられます。

特権

- ☐ ユーザー、ロール、特権の管理
- ☐ 独自のパスワードをセット
- ☐ セキュリティの制限を無視
- ☐ クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。)
- ☐ フィルター処理なしのログの表示
- ☐ 概要のキャッシュの表示
- ☐ ユーザーライセンス概要の表示
- ☐ ユーザーとロールの読み取り
- ☐ サーバー設定の管理
- ☐ ワークフローのトレース
(“ファイルヘログ” オプションが有効化されている場合、ファイルへ(作業中 XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する)
- ☐ グローバルリソースの読み取り
- ☐ グローバルリソースの書き込み
- ☐ デザイナーからワークフローを開く
- ☐ デザイナーからのワークフローの保存
- ☐ サーバー シミュレーションの起動

使用可能な特権は以下に説明されています。

■ ユーザー、ロール、と特権の管理

この特権を有するユーザーは、ユーザーとロール、特権の割り当て、パスワードの作成、削除、および編集することができます。これは管理特権で MobileTogether の管理者のみに割り当てられます。デフォルトでは、ユーザー "root" のみがこの特権を持ちます。

■ 自身のパスワード設定

この特権を持つユーザーは自身のパスワードを変更できます。この特権を持たないユーザーのパスワードは MobileTogether 管理者が設定します。デフォルトでは、認証された"ロールと"しかがって、"anonymous" 以外のすべてのユーザーアカウントがこの特権を持ちます。

■ セキュリティのオーバーライド

この特権を持つユーザーは、セキュリティ書き込みリパーミジンを必要とせず、コンテナの階層内のパーミジンを変更することができます。これにより、MobileTogether 管理者は間違っアクセス不可のユーザーに与えられてしまったリソースを取り戻すことができます。これは管理特権で MobileTogether 管理者に割り当てられます。デフォルトでは、"root" のみがこの特権を持ちます。

■ クライアントに保存されたパスワードの使用の許可

ユーザーにクライアントに保存されたパスワードを使用することを許可します。ユーザーは認証が必要ありません。

- ❑ フィルターされていないログの表示
デフォルトでは、ユーザーは特定の構成に関連していないログエントを含む「読み込み」アクセスのある構成に関連したログエントのみを閲覧することができます。デフォルトでは、「root」のみがこの特権を持ちます。
- ❑ キャッシュ概要のビュー
ユーザーにサーバーでのキャッシュの概要の閲覧を許可します。
- ❑ ユーザーライセンスのビュー
ユーザーにサーバーでのライセンスの概要の閲覧を許可します。
- ❑ ユーザーとロールの読み込み
デフォルトでは、ユーザーは自身およびロールのメンバーであるユーザーアカウントを閲覧することができます。この特権を供与することにより、ユーザーは定義されたすべてのユーザーとロールを読み込むことができます。デフォルトでは、「root」のみがこの特権を持ちます。
- ❑ サーバー設定の管理
ユーザーに [サーバーの設定](#) の編集を許可します。
- ❑ ワークフローのトレース
ログレベルを設定ダイアログボックスの「ファイルディレクトリへのログ」オプションが有効化されている場合、ファイルヘログする詳細付きワークフローを許可します。
- ❑ 統計の読み取り
サーバーの統計は、内部データベースでトラックされており、`statistics.mtd` ソリューションを開くことにより読み取ることができます。この特権によりユーザーはサーバーの統計の読み取りを許可されます。[統計がトラックされる期間をゼロではなく数字に設定すること](#)によりこの機能を有効化します。詳細に関しては[統計設定の説明](#)を参照してください。
- ❑ グローバルリソースの読み込み
この特権を持つユーザーにサーバーからグローバルリソースエイリアス構成の読み込みを許可します。
- ❑ グローバルリソースへの書き込み
この特権を持つユーザーにサーバーからグローバルリソースエイリアス構成に書き込み保存することを許可します。
- ❑ デザイナーからワークフローを開く
ユーザーに MobileTogether デザイン ファイルをサーバーから開くことを許可します。ホストログイン詳細はメニューオプション「ファイル | MobileTogether サーバーから開く」を選択します。
- ❑ デザイナーからワークフローを保存する
ユーザーに MobileTogether デザインファイルをサーバーへ保存、デプロイすることを許可します。ホストログイン詳細はメニューオプション「ファイル | MobileTogether サーバーから開く」を選択します。
- ❑ サーバーシミュレーションの実行
この特権を持つユーザーはブラウザからシミュレーションを実行し(結果をレビュー)することができます。ブラウザを戻すことによりコンテナービューに戻ることができます。

3.7 ファイアーウォールの構成

サーバー IP アドレスとネットワーク ファイアーウォールの設定

使用中のサーバーは(インターネットを介してアクセスすることできる) 公開されたIP アドレス および/または(例えば、企業内ネットワーク内のWiFi など、プライベートのネットワーク内でアクセスすることできる) プライベートのIP アドレスを持つことができます。もし、モバイルクライアントデバイスがインターネットにサーバーのプライベートのIP アドレスを使用して、アクセスした場合、アクセスはうまくいきません。これは、プライベートのIP アドレスは、インターネット上で知られておらず、解決することができないからです。クライアントデバイスが、プライベートのIP アドレスを使用する場合、クライアントデバイスはプライベートネットワークへのアクセスを既に取得している必要があります。

サーバーへのアクセスを確実にするために、以下を行ってください。

- インターネットを介してアクセスできるように、サーバーに公開されたIP アドレスを与えます。クライアントデバイスでは、この公開されたIP アドレスを使用してサーバーにアクセスします。
- ファイアーウォールを使用しており、MobileTogether Server をサーバーにプライベートIP アドレスを使用して(プライベートのネットワーク内に) インストールする場合、ネットワークのファイアーウォールを使用して、公開されたIP アドレス/ポートの組み合わせに送信されたリクエストを使用中のMobileTogether Server サーバーに転送します。クライアントデバイスでは、公開されたIP アドレスを使用してください。

MobileTogether Client 通信のために使用されるサーバーポートが使用されてサーバーへのアクセスが許可されるようにファイアーウォールが構成されていることを確認してください。MobileTogether Server で使用されるポートは MobileTogether Server のWeb UI の設定ページで指定することができます。(MobileTogether Server ユーザーマニュアルを参照してください)。クライアントデバイスでは、これはアクセスするサーバーポートとして指定されている必要があります。

ヒント: ポート80 はデフォルトで通常ほとんどのファイアーウォールに対して開かれています。ですから、ファイアーウォールの設定で問題があり、ポート80 が他のサービスにバインドされていない場合、ポート80 をクライアントとの通信用の MobileTogether Server ポートとして指定することができます。

3.8 サービスの構成

サーバーサービスは、ソリューションとして **MobileTogether Server Advanced Edition** にデプロイされる MobileTogether アクション(.mtd ファイル)のセットです。サービス内で定義されるアクションは、MobileTogether Server 条件(または、トリガー)のセットが満たされると実行されます。このセクションは、トリガーの定義方法について説明しています。サービスのために複数のトリガーを作成することができ、定義済みのトリガーを有効化、または無効化することができます。

※ サービスのソリューションファイル(.mtd ファイル)は、MobileTogether Designer 内で作成される必要があります。詳細に関しては [MobileTogether Designer ドキュメント](#) を参照してください。

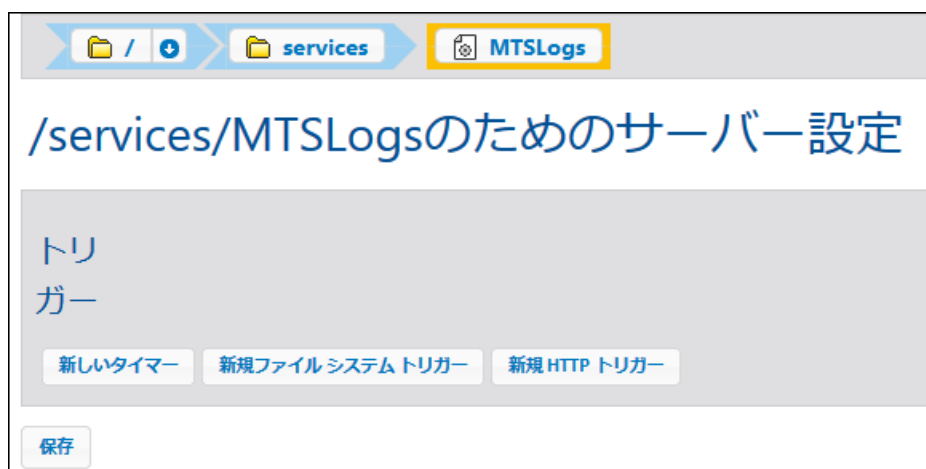
サーバーの構成 インターフェイスへのアクセス

サービスが(MobileTogether Designer から)デプロイされている場合、他のソリューション同様、ワークスペース内に表示されます。ブラウザ内で実行列内の **サービス構成** ボタンにより他のソリューションからサービスを区別します(下のスクリーンショットを参照)。下のスクリーンショットでは、MTSLogs という名前のサービスが /services コンテナにデプロイされています。サーバーの構成 (または設定) インターフェイスにアクセスするには、**サービスの構成** をクリックします。



サービスの構成 (設定) インターフェイス

サーバーの構成 (または設定) インターフェイスより、サービスを実行するトリガーを定義し管理することができます (下のスクリーンショットを参照)。



次の種類のトリガーを作成することができます。

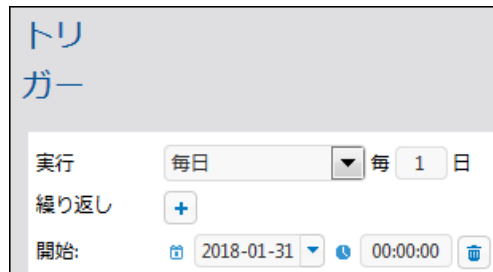
- [タイマーのトリガー](#) によりサービスを実行する指定されている期間内でのトリガーの時刻と頻度を指定することができます。

- [ファイルシステムのトリガー](#)により、サーバー上のファイルまたはディレクトリの変更をチェックすることによりサービスをトリガーすることができます。
- [HTTP トリガー](#)により、指定されているURI ロケーションで、リソースの変更をチェックすることによりサービスをトリガーすることができます。

トリガーを追加するには、トリガーの種類に対応するボタンをクリックします。トリガーの各種類に関しては、このセクションのサブセクションで詳細に説明されています。トリガーの作成後、トリガーの右側にあるボタンを使用して管理してください。

	トリガーの削除。
	トリガーの複製。
	前の削除アクションを元に戻します。

トリガーフィールドの一部では、 と  ボタンが横に表示されています。これらのボタンを使用して、トリガーフィールドの値を設定、または、クリアすることができます。ページ内で表示されていると値は設定されているものとして扱われます。例えば、下のスクリーンショット内では、**繰り返し**の値は、設定されていませんが、開始の値は **2018-01-26, 00:00:00** に設定されています。



サービスの設定の保存方法

サービスのトリガーを設定すると、ページの下にある **保存** をクリックして設定を保存します。

3.8.1 タイマーのトリガー

タイマーのトリガーにより、指定されている期間内でどの頻度、どのタイミングでトリガーが実行されるかを定義することができます。下のスクリーンショットは、タイマーのトリガーの設定の定義方法を表示しています。

トリガー

実行: 連の日で 毎 1 連

連の日期: 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日 日曜日

繰り返し: 毎 60 分 全日、または 開始時間 08:00:00 終了時間 20:00:00

開始: 2018-01-31 00:00:00

終了: 2018-12-31 23:59:59

タイムゾーン: Europe/Berlin

☒ が有効化されました

トリガーは次のパラメータの手助けにより定義されています:

- **実行**: トリガーが1度、または 毎 N 日ごとに実行されるかを定義します。
- **繰り返し**: サービスの頻度を定義します: 指定された期間内で毎 x 分ごと
- **開始、終了**: サービスが実行される期間の開始、および 終了をそれぞれ定義します。
- **タイムゾーン**: 開始と有効期限フィールドの値のタイムゾーンを指定します。
- **有効化済み**: このチェックボックスによりトリガーを有効化、無効化することができます。

3.8.2 ファイルシステムのトリガー

ファイルシステムのトリガーにより、追加されたファイル、または、変更されたファイルなどの変更のために、ファイル、または、ディレクトリを監視することができます(削除されたファイルを監視できないことに注意してください)。ポーリング間隔を構成することができます。トリガーの開始、及び、終了の日付を任意で設定することができます。ワイルドカードを使用して、ディレクトリ内の特定のファイルをフィルターすることもできます。下のスクリーンショットはファイルシステムのトリガーの設定の定義方法を示しています。

トリガーは次のパラメータの手助けにより定義されています:

- **コンテンツのチェック** 指定されているファイル、または、ディレクトリ内のファイルのハッシュコードを計算し保管します。ポーリング間隔がパスされると、ハッシュコードは再度計算され、保管されている値と比較されます。差分が生じるとトリガーが実行されます(ディレクトリがチェックされると、サーバーに多量のロードが課されることに注意してください)。トリガーはまた、新規のファイルがディレクトリに追加される場合、または、日付が変更される場合トリガーが実行されることに注意してください。
- **変更された日付のチェック** 最後に変更されたタイムスタンプをチェックします。変更されている場合、トリガーが実行されます。
- **ポーリング間隔** ファイル、または、ディレクトリがポーリングされる際に使用される頻度を秒数で指定します。
- **解決するまでN 秒待つ** 次のサービスが開始する前にサーバーが待つ時間を秒数で定義します。
- **開始、終了 (任意)** サービスが実行される期間の開始、および、終了をそれぞれ定義します。
- **タイムゾーン** 開始と有効期限フィールドの値のタイムゾーンを指定します。
- **有効化済み** このチェックボックスによりトリガーを有効化、無効化することができます。

3.8.3 HTTP トリガー

HTTP トリガーにより **Last-Modified** と **Content-MD5** HTTP ヘッダー フィールドへの変更をチェックすることにより 変更のための URI を監視することができます。ポーリング間隔を構成することができ トリガーの開始と終了の期間を任意で設定することができます。下のスクリーンショットでは HTTP トリガーの設定の方法が表示されています。

トリガーは次のパラメータの手助けにより定義されています:

- **コンテンツのチェック** 任意のHTTP ヘッダー **Content-MD5** をチェックします。これはメッセージの整合性チェックとして使用される128-ビット "ダイジェスト"です。ヘッダーがポーリング間隔が過ぎた後に変更されると トリガーが実行されます。ヘッダーがHTTP ロケーションのサーバーで提供されていない場合、コンテンツが抽出され、ローカルでハッシュされます。ハッシュは次のポーリングの際に比較されます。
- **変更された日付のチェック** HTTP ヘッダー **Last-Modified**. ヘッダーが不足している場合、**Content-MD5** ヘッダーがチェックされます (上記を参照)。
- **ポーリング間隔** URI がポーリングされる際に使用される頻度を秒数で指定します。
- **解決するまでN 秒待つ** 次のサービスが開始する前にサーバーが待つ時間を秒数で定義します。
- **開始, 終了 (任意)**: サービスが実行される期間の開始、および 終了をそれぞれ定義します。
- **タイムゾーン**: 開始と有効期限フィールドの値のタイムゾーンを指定します。
- **有効化済み**: このチェックボックスによりトリガーを有効化、無効化することができます。

3.9 ソリューション使用の統計

ソリューション使用の統計はデフォルトで `/admin` コンテナ内にある **Statistics** ソリューションで確認することができます。 **Statistics** ソリューションは、ユーザーにより選択された期間の個々のソリューションについての統計を表示します。ユーザーの数、デバイスまたはオペレーティングシステムの種類、ピークタイムの使用状況など多種のフィルターを使用することができます。

下のスクリーンショットは **Statistics** ソリューションの紹介ページを表示しています。

統計 ソリューション: セットアップ

MobileTogether Server バージョン 4.0 以降から **Statistics** ソリューションは MobileTogether Server にデプロイ済みでソリューションは `/admin` コンテナ内に存在します。

MobileTogether Server の古いバージョンが使用されている場合、**Statistics** ソリューションを使用する場合、以下を行う必要があります。

1. MobileTogether Server ソフトウェアをバージョン 4.0 または以降にアップグレードします。
2. URL: <http://<serverIPAddressOrName>:8085/> を入力して、Web ブラウザーから MobileTogether Server [管理者インターフェイス](#) にアクセスします。
3. ログイン情報を入力し、[ワークスペース](#) に移動します。
4. [コンテナの作成](#) をクリックして、コンテナ名として `admin` を入力し、[保存して移動する](#) をクリックします。
5. MobileTogether Designer 内で **Statistics.mtd** ファイルを開きます。このファイルは MobileTogether Server AppData フォルダの **ソリューション** フォルダ内にあります (下のテーブル参照)。
6. ファイル **Statistics.mtd** が MobileTogether Designer 内で開かれると、MobileTogether Server の `/admin` コンテナにデプロイします。MobileTogether Designer のメニューコマンド **ファイル | MobileTogether Server にデプロイする** を使用して行います。
7. MobileTogether Server [管理者インターフェイス](#) 内で [設定](#) タブに移動し、[統計ページ](#) 内で `set 統計の制限` を正の整数に設定し、統計データのトラッキングを有効化します。

8. ソリューション統計を今後確認するには **Statistics** ソリューションを開始し以下を行います:
MobileTogether Server 内で、[ワークフロー](#)に移動し、**/admin** コンテナを開き **Statistics** ソリューションを開始します。または、以下のURL を入力します: **http://<serverIPAddressOrName>:8085/run?d=/admin/Statistics/**。

✖ **Statistics** ソリューションを希望するコンテナにデプロイすることができます。ソリューションを実行するには、正確なコンテナに移動するためにソリューションのURL を変更します。

異なるオペレーションシステム上のMobileTogether Server AppData フォルダの場所

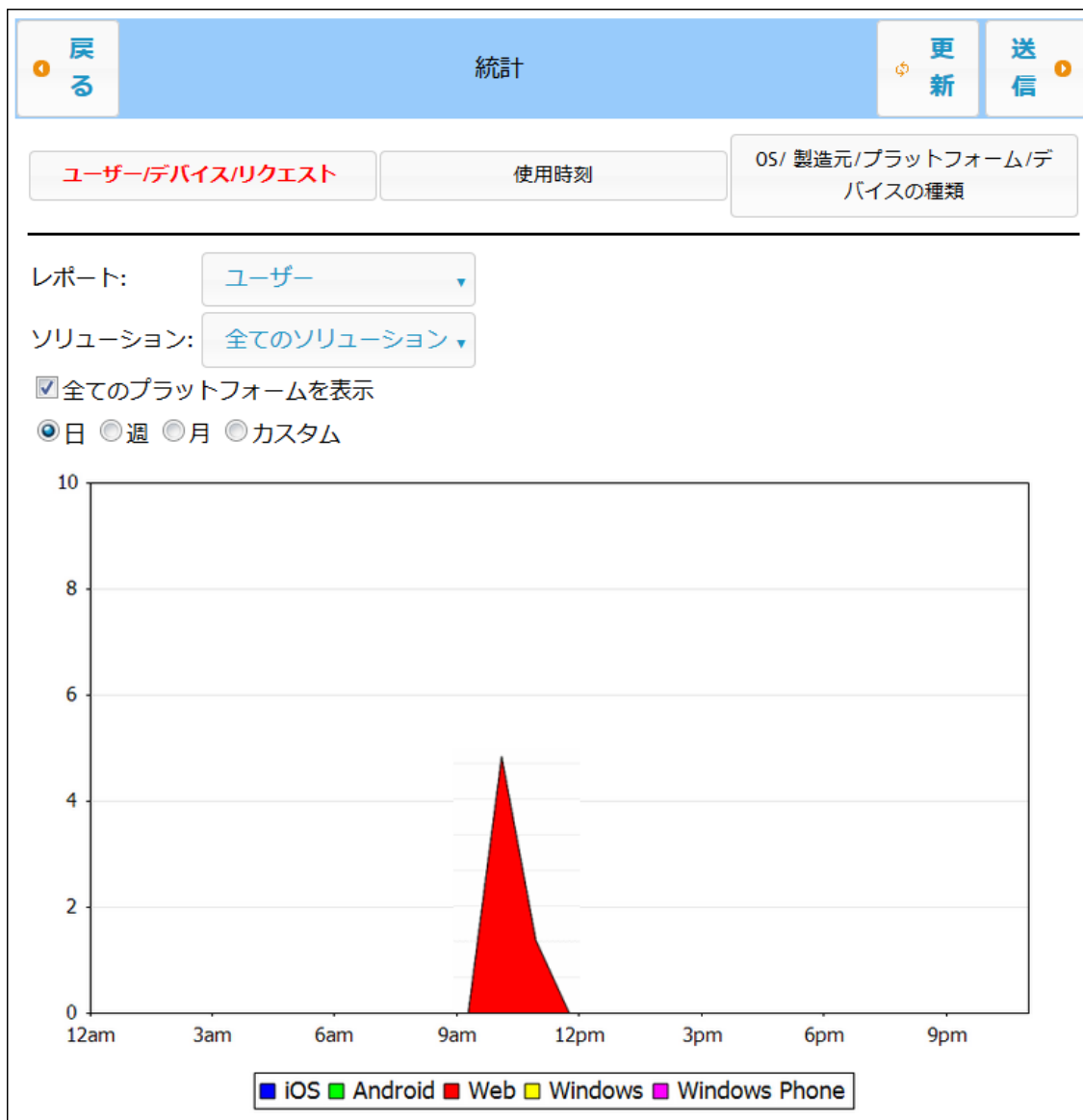
Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Mac	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows 7, 8, 10	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

統計 ソリューション: 詳細

Statistics ソリューションインターフェイス(下のスクリーンショット) は3つのタカから構成されています:

- ユーザーデバイス/リクエスト
- 時間別の使用状況
- OS/製造元 /プラットフォームデバイスの種類

アクティブなタカが赤い色で表示されます (スクリーンショット参照)。



各タブには2つまたは3つのフィルターが存在します。各タブ内のフィルターの一つは、常にソリューションフィルターです。これにより、サーバーにデプロイされている全てのソリューションから単一のソリューションを選択することができます。または、全てのソリューションを選択することができます。他のフィルターにより表示される統計のカテゴリを選択することができます。統計が表示される時間の間隔を選択することもできます。

ユーザー/デバイス/リクエスト

レポートフィルター内では、次から選択することができます。

- ユーザー: プラットフォーム別に分類されたユーザーの数。
- デバイス: プラットフォーム別に分類されたデバイスの数。
- リクエスト: プラットフォーム別に分類されたリクエストの数。
- 開始するソリューション: プラットフォーム別に分類された開始するソリューションの数。

すべてのプラットフォームを同時に表示する を選択した場合、すべてのプラットフォーム(iOS、Android、Web、Windows、およびWindows Phone) が一つのイメージ内に表示され、各プラットフォームが異なる色で表示されます。プラットフォームを同時に表示する オプションの選択が解除されている場合、各プラットフォームのためのイメージはプラットフォーム フィルター内で対応するプラットフォームを個別に選択することにより表示されます。

時刻別の使用量

前の週のそれぞれの曜日のために24時間の期間で選択されたソリューションの使用状況を表示することができます。プラットフォーム フィルターは選択するプラットフォーム(iOS、Android、Web、Windows、およびWindows Phone) を選択します。レポートフィルター内では、次から選択することができます:

- ユーザー: 異なるセグメントのためのユーザーの数
- デバイス: 異なるセグメントのためのデバイスの数
- リクエスト: 異なるセグメントのためのリクエストの数
- 開始するソリューション: 異なるセグメントのために開始するソリューションの数

OS/製造元/プラットフォーム/デバイスの種類

各必要条件 (OS、製造元、プラットフォーム およびデバイスの種類) は、必要とされるインスタンスの選択されたソリューションの使用状況について表示します。例えば、プラットフォームの必要条件のために、各プラットフォームは総合の使用状況に対して表示されます。それぞれのケースにつき、円グラフで表示され、必要条件のインスタンスは円グラフの一部として表示されます。レポートフィルター内では、次から選択することができます:

- OS: 各 OS は異なる色で表示されます。
- 製造元: 各製造元は異なる色で表示されます。
- プラットフォーム: 各プラットフォームは異なる色で表示されます。
- デバイスの種類: 各デバイスの種類は異なる色で表示されます。

3.10 クライアントの情報

モバイルデバイス上の MobileTogether Client アプリは MobileTogether Server に接続されていなければならない、以下のサーバー情報は MobileTogether Client アプリにより必要とされています。

IP アドレス	MobileTogether Server の IP アドレス
ポート	モバイルクライアントポート により指定されている HTTP または HTTPS ポート
SSL	通信を SSL 暗号化 するしない
ユーザー名	ユーザーのログインに使用され、アクセス権利を決定する。 ユーザーとロール を参照。
パスワード	ユーザーアカウントのパスワード

✖ ウェブクライアントに保存されているデータは (Web ストレージとして知られる) ブラウザのローカルストレージに保存されています。 HTML 5.0 ローカルストレージは以下のブラウザでサポートされています。

IE 8.0 +	Firefox 3.5+	Safari 4.0+	Chrome 4.0+	Opera 10.5+	iPhone 2.0+	Android 2.0+
-------------	-----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	-----------------

クライアントデバイス上でサーバー設定の更新を行う

クライアントデバイスがソリューションを実行するには、サーバーへのアクセスの設定がそのデバイスで構成される必要があります。サーバーの設定が変更されると、例えば、MobileTogether Server が異なる IP アドレスを有する他のマシンに移動されると、クライアントデバイス上のサーバー設定は必要に応じて変更される必要があります。MobileTogether Designer では、MobileTogether 関数 `mt-server-config-url` を使用して、新しいサーバー設定を含む URL を生成することができます。例: `mobiletogether://mt/change-settings?settings=<json encoded settings>`。この URL は、電子メールリンクとしてクライアントユーザーに送信されます。クライアント上のリンクがタップされると、設定は自動的に更新されます。URL 生成に関する詳細は、[MobileTogether Designer ユーザーマニュアル](#) を参照してください。

3.11 MobileTogether Server のバックアップと復元

このセクションでは MobileTogether Server のバックアップおよび復元の方法が説明されます。

- MobileTogether Server のバックアップは、重要なアプリケーションデータファイルとデータファイルを安全な場所にコピーすることにより構成されています。
- MobileTogether Server の復元は、バックアップされたファイルを新しいインストールされた場所にコピーすることにより構成されています。
- クライアントからサーバーへの接続をアップデートします。

これらの手順は下で説明されています。

MobileTogether Server のバックアップ

バックアップする前に、MobileTogether Server を停止する必要があります。(作業中のファイルとバックアップファイル間のDB の状態の不整合を防ぐためこの手順は必要です。) バックアップする必要がある MobileTogether Server ファイルは、デフォルトでアプリケーションデータフォルダーに保存されます(下を参照)。`.cfg` 構成ファイルは [Web 管理インターフェイス](#) または コマンドラインインターフェイスを使用して設定を変更する代わりにテキストエディターで編集することができます。

アプリケーションデータフォルダーの場所は、オペレーティングシステムとプラットフォームによります。デフォルトは次の通りです。

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Mac	/var/Altova/MobileTogetherServer
Windows 7, 8, 10	C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

次のテーブルは、アプリケーションデータフォルダーの主なファイルとフォルダーのリストです。

cache	ソリューションのキャッシュのデフォルトのディレクトリ。キャッシュが使用できない場合は、ランタイムに自動的に作成されます。
logs	ログファイルのためのデフォルトのディレクトリは ファイル ディレクトリエクスポート ショックが有効化されている場合、一般 MobileTogether Server ログのために作成されます。
SolutionFiles	デプロイされたソリューションが参照されたXML またはイメージファイルのデフォルトのディレクトリ
cert.pem	安全な(SSL) 通信に必要な PEM ファイル。
key.pem	安全な(SSL) 通信に必要な秘密キーを持つ PEM。
mobiletogether.db	これは、MobileTogether Server オブジェクトシステム ユーザーデータ デプロイされたソリューション、ファイル およびそれを保管する、主なデータベース ファイル (SQLite) です。
mobiletogetherlog.db	MobileTogether Server ログを保管するデータベース ファイル (SQLite) です。
mobiletogetherserver.cfg	(ポート番号、ソリューションディレクトリなどの) MobileTogether Server グローバル 構成設定 を保管します。
mobiletogetherserver.licsid	LicenceServer クライアントに登録されたID を持つファイル。

<code>mobiletogetherserver.li csvr</code>	指定されている場合、 LicenseServer とフェールオーバーのアドレスを含むファイル。
---	---

✖ MobileTogether Server の各バージョンのインストールの前に、上記のファイルとフォルダーは、デフォルトで アプリケーションデータフォルダー内のバックアップフォルダーにコピーされます (上を参照)。新規インストールの前の自動的なバックアップを無効化するには、[設定](#) タブを使用します。

MobileTogether Server の復元

バックアップファイル(上を参照) から前の MobileTogether Server 構成を復元するには以下を行います:

1. バックアップしたバージョンの MobileTogether Server をインストールします (上を参照)。
 2. [MobileTogether Server を停止します。](#)
 3. バックアップされたファイルを新しくインストールされた正しいフォルダーにコピーします (上を参照)。
 4. [MobileTogether Server を開始します。](#)
-

クライアントからサーバーへの接続のアップデート

MobileTogether Server を他のマシンに新しい IP アドレスなどの新規文字列などと共に移動した場合、MobileTogether Server に接続する際クライアントデバイスの設定をアップデートする必要があります。詳細に関しては[クライアントの情報](#)を参照してください。

3.12 よくある質問

- ▼ サーバー上に複数のワークフローが存在します。IBM DB2 データベースに接続するための、ADO 接続が新しいソリューションが追加されました。クライアントがソリューションにアクセスしようと試みると、MobileTogether Server がクラッシュします。ワークフローの削除を行っても改善されません。サーバーを再起動しない限り問題は解決されません。しかし、クライアントがソリューションにアクセスを試みる都度、同じ問題が発生します。どう対応したらよいのでしょうか？

これは既知の問題であり、IBM DB2 または Informix データベースに関する問題です。ADO 接続を含むワークフローは、ワークフローが最初にサーバーにデータベースへの接続を命じるとクラッシュを起こす可能性があります。問題がワークフローの削除後も発生する場合は、サーバーのメモリ内に接続データの一部が保管されているからです。この接続データはサーバーが再起動された後にのみ削除されます。

チャプター 4

Web UI リファレンス

4 Web UI リファレンス

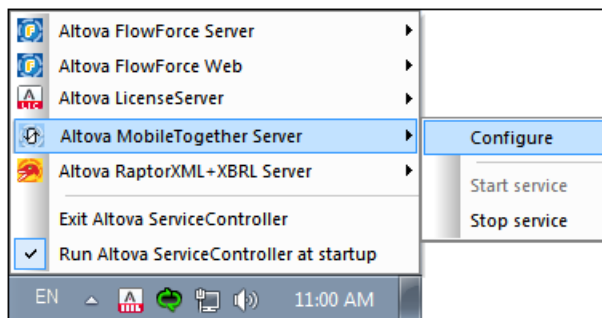
MobileTogether Server **Web ユーザーインターフェイス**(Web UI) によりMobileTogether Server を簡単に構成することができます。Web UI はすべてのインターネット ブラウザーで開くことができ、[サポートされるオペレーティングシステム](#)で作動します。

MobileTogether Server の Web UI へのアクセス

Web UI へのアクセスは MobileTogether Server がインストールされているオペレーティングシステムによります。

▼ Windows

Web UI にアクセスするにはシステムトレイの **ServiceController** アイコンをクリックします。(下のスクリーンショット参照)。メニューの **Altova MobileTogether Server** をポイントしたときに表示される MobileTogether Server サブメニューポップアップから **Configure** を選択します。もし、MobileTogether Server が作動していない場合、**Start Service** オプションを選択して MobileTogether Server を開始してください。



サインインするには、パスワードとユーザー名を入力します。デフォルトの設定は次のとおりです。username/password は root/root。 [アクティブディレクトリログイン](#) を介して 1 つ以上のドメインが定義されている場合、(i) 定義されたドメインから選択、または(ii) (ドメインを介さず) 直接ログインを選択することのできるログインコボボックスを使用することができます。

▼ Linux

Web UI にアクセスするには、ブラウザーのアドレスバーに URL を入力して、**Enter** を押します。(管理アクセスのためのデフォルトは、Web UI ページの URL です: **http://<serverIPAddressOrName>:8085/**)

サインインするには、パスワードとユーザー名を入力します。デフォルトの設定は次のとおりです。username/password は root/root。 [アクティブディレクトリログイン](#) を介して 1 つ以上のドメインが定義されている場合、(i) 定義されたドメインから選択、または(ii) (ドメインを介さず) 直接ログインを選択することのできるログインコボボックスを使用することができます。

▼ Mac OS X

Web UI にアクセスするには、ブラウザーのアドレスバーに URL を入力して、**Enter** を押します。(管理アクセスのためのデフォルトは、Web UI ページ URL のです:

http://<serverIPAddressOrName>:8085/

サインインするには、パスワードとユーザー名を入力します。デフォルトの設定は次のとおりです。username/password は root/root。 [アクティブディレクトリログイン](#) を介して 1 つ以上のドメインが定義されている場合、

(i) 定義されたドメインから選択、または(ii) (ドメインを介さず) 直接ログインを選択することのできるログインコボボックスを使用することができます。

Web UI タブ

Web UI は MobileTogether Server の管理者インターフェイスです。多種の管理機能は以下の Web UI タブで使用可能です。

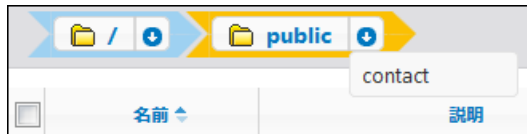
- [ワークフロー](#): サーバーのコンテナ構造とコンテナのパーミションを管理するインターフェイス。
- [ユーザーとロール](#): ユーザーアカウントとロール、ユーザーとロールに関連した特権をセットアップします。ユーザーのアクセス権はこのタブで定義されます。
- [ユーザーライセンス](#): 現在ライセンスを取得しているモバイルデバイスおよびライセンスの詳細を表示します。
- [ログ](#): 選択されたフィルターに基づき、ログされたサーバーアクションを表示します。
- [キャッシュ](#): このタブはサーバー上で現在使用可能なキャッシュの詳細を表示します。キャッシュはアクティブ化/非アクティブ化および削除することができます。
- [設定](#): アクセスポート、ログ設定、とサーバーセッションのタイムアウトなどの MobileTogether Server 設定がこのタブでできます。

4.1 ワークフロー

(以下のスクリーンショットに表示されている **ワークフロー** タブより MobileTogether Server の **root** フォルダのコンテナ構成および各コンテナのアクセス権(パーミッション)を管理するインターフェイスが表示されます。コンテナはサブコンテナおよびまたはデザインファイルまたは .mtd ファイルとして知られるソリューションを含むフォルダです。MTD ファイルはサーバーの Web UI からコンテナに追加することはできず、MobileTogether Designer からサーバーにデプロイされます。デプロイ時、完全一致するコンテナへのバグ指定されなければなりません。これにより MobileTogether Designer 内の必要とされるコンテナを参照することが容易になります。



- ワークフロー タブは、最初に "/" 文字により表示される **root** コンテナを表示します。
- コンテナ名の横の「**下向き**」矢印をクリックし、そのコンテナのサブコンテナを表示します。ポップアップリスト内のサブコンテナをクリックし、サブコンテナに移動します。
- コンテナに移動する場合、クリックします。
- コンテナの階層内でレベルを掘り下げると、階層リンクとしてウィンドウの上の部分で表示されます。各レベルの「**下向き**」矢印により、異なるコンテナに簡単に移動できるよう、そのコンテナのサブコンテナが表示されます。



- コンテナを**選択**するには、コンテナのチェックボックスを選択します。コンテナの名前の変更、移動、削除のために選択を使用することができます (記の機能の説明を参照してください)。

▼ 機能

タブには以下の機能があります:

コンテナの作成	現在のフォルダにコンテナを作成する。コンテナをクリックして開く。
保存	詳細の修正などの変更を保存する。
選択されたオブジェクトの移動、または、名前の変更	1つのオブジェクトが選択されると、以下を行うことができる。名前の変更と移動」ダイアログが開かれます (i) 名前の変更 (ii) 新規のコンテナに対するオブジェクトの移動。複数のオブジェクトが選択されている場合、移動先のコンテナを選択することできる移動ダイアログが開かれます。
選択項目の削除	選択されたコンテナまたはファイルを削除する。
選択項目のロック	新規のデプロイはロックされているソリューションを上書きすることはできません。試みの場合、エラーメッセージが MobileTogether Designer に表示されます。
選択項目のロックの解除	ロックされたソリューションのロックを解除します。
パーミッション	ユーザー ロールが個々のコンテナにアクセスできるか、おアクセスのレベルを設定する。
検索	入力された用語を検索する。再帰 をチェックして子孫コンテナを検索する。

他の利用可能なアクション:

- コンテナの階層を上向きにナビゲートする場合、ワークフロー タブのパス内の必要とされる先祖フォルダをクリックします。
- コンテナの階層を下向きにナビゲートする場合、コンテナをクリックして開きます。

- ソリューションファイルのURL をクリックしてソリューションを実行します。

▼ コンテナ /public/

public コンテナをクリックして、コンテナを開きコンテンツを表示します。public は既定定義のコンテナでサンプルのデザインファイル(ソリューション)を含み、プログラムに含まれています。ソリューションのURL をクリックして実行します。



▼ コンテナのコンテンツの表示

コンテナはサブコンテナおよびまたは(デザインファイルまたは .mtd ファイルとして知られる)ソリューションを含むフォルダーです。各コンテナのコンテンツは表形式リストとして表示されます。テーブルの列はソリューションの属性を表示します:

- **名前:** MobileTogether Designer で保存されたソリューションの名前
- **アプリ アプリアージョン:** アプリとアプリバージョンの列はAppStore App がサーバーにデプロイされた場合のみ表示されます ([MobileTogether Designer ユーザーマニュアル](#)参照)。
- **説明:** フィールドをクリックすることで入力できる、ソリューションの短い説明
- **デザインのバージョン:** ソリューションが作成された MobileTogether Designer のバージョン
- **前回のデプロイ:** ソリューションが前回最後にデプロイされた日時。
- **グローバルリソース構成:** ソリューションのために定義されたサーバーにデプロイされたグローバルリソース。グローバルリソースが指定されていない場合、Default が表示されます。
- **永続データ:** ソリューションを実行中にデータを変更された場合、**データをクリア** ボタンがこの列に表示されます。変更を元に戻したい場合このボタンをクリックします。
- **自動化されたテスト:** 青色のアイコンは、そのソリューションの自動化されたテストが、アクティブではありませんが、少なくとも1つ存在することを示しています。赤いアイコンは、使用することのできるテストの少なくとも1つのテストがアクティブであることを示しています。デザインのテストのアクティブ化、または クライアント上でテストがどのように実行されるか決定するには、ソリューションのアイコンをクリックしてください(上のスクリーンショット内で表示されています)。これは、そのソリューションの自動化されたテストを表示するページを表示します(次のセクション参照)。自動化されたテストの情報に関しては [MobileTogether Designer ドキュメント](#)を参照してください。
- **ブラウザでの試行:** ソリューションファイルがデプロイされるサーバー。クリックしてソリューションを実行します。ソリューションが、[サーバーサービス](#)を定義する場合、[サーバーの構成 インターフェイス](#)にアクセスするためこの列内の **サーバーの構成** ボタンをクリックします。

▼ 自動化されたテスト

ソリューションの自動化されたテストの列のアイコンをクリックすると、そのソリューションの自動化されたテストを表示ページが表示されます(下のスクリーンショット)。

/public/CityTimesViaSOAPのために自動化されたテスト									
名前	クライアント	開始	長さ (秒)	アクティブ	実行の種類	ログアクション	各ステップ前後で自動的に スナップショットを生成する	スナップショット インポート	スナップショット スタイル
☒ CityTimes01-Cities	emulating Samsung Galaxy S3	2016-10-14 14:11:21	57.965	☒	元の速度	☒	☒	☒	☒
☒ CityTimes02-UTC	emulating Samsung Galaxy S3	2016-10-14 14:19:49	61.562	☒	元の速度	☒	☒	☒	☒
☒ CityTimes03-Refresh	emulating Samsung Galaxy S3	2016-10-14 14:20:02	944.117	☒	元の速度	☒	☒	☒	☒

自動化されたテストのページは、選択されたソリューションのためにデプロイされたテストの実行のすべてを表示します。クライアント上での再生のためのこのテストの実行を以下のようにセットアップすることができます。

1. 「アクティブ」の列から、アクティブ化するテストの実行をチェックします。これらのテストの実行は、ユーザーがソリューションを開始するとクライアント上で再生されます。複数のテストの実行が選択されると、選択されたすべてのテストの実行が再生されます。ソリューションのテストの実行がアクティブ化されると、ワークフローのページでデザインの「自動化されたテスト」の列のホイールのアイコンが赤で表示されます。
2. 実行の種類でテストの実行の速度を設定します。
3. 再生中にログする詳細を設定します。希望する列をチェックして選択します。これらのオプションに関する詳細は、[MobileTogether Designer ドキュメント](#)内の自動化されたテストのセクションを参照してください。
4. **保存** をクリックして、完了します。

テストの実行を削除する場合は、左端の列内のチェックボックスをチェックして、**選択項目の削除** をクリックしておこないます。

パーミッション

自動化されたテストページの下の部分で次の指定することができます (下のスクリーンショット): (i) (セキュリティタブ内) ユーザーとロールが実行することができる選択されたソリューションのために自動化されたテスト、(ii) (デバイスタブ内で選択することのできるテストを実行することのできるデバイス。

Security

Devices

Assign Users/Roles

Users/Roles available

☐ Name
 ☐ Deploy
 ☐ authenticated
 ☐ workflow-designer
 ☐ workflow-user
 ☒ TechWriter-01
 ☐ anonymous
 ☐ newuser
 ☐ root

☐ Name
 ☒ Tech
 ☐ all

Assign >>

<< Remove

- ユーザーとロールはセキュリティタブ内で選択され、デバイスタブ内でデバイスが選択されます (上のスクリーンショットを参照)。
- 許可済みのリストにユーザー・ロール または デバイスを割り当てるときは、左側のペイン内で選択し、**割り当て** をクリックします (上のスクリーンショットを参照)。
- 許可済みのリストからユーザー・ロール または デバイスを **削除** をクリックすることにより、削除することができます。
- 1度に複数の選択を割り当て、または、削除することができます。
- 許可済みのリストにデバイスが割り当てられていない場合、ソリューションのためのテストは**すべての**デバイス上で実行することができます。

▼ パーミッション

パーミッションはアクセス権で、各コンテナに個別に設定することができます。パーミッションはコンテナにアクセスできるユーザーおよびロール、ユーザー・ロールなどの種のアクセス（読み込み、書き込み、使用）を持つかを決定します。アクセス権はコンテナ、ワークフロー（またはノード）、セキュリティへの書き込み、読み込みを設定します。

[/ public / contactsのパーミッション](#)

ユーザーまたはロール名	パーミッション	
anonymous	コンテナ: 読み取り, 書き込み ワークフロー: 読み取り, 書き込み, 使用 セキュリティ: 読み取り	変更
authenticated	コンテナ: 読み取り ワークフロー: 読み取り, 書き込み, 使用 セキュリティ: 読み取り	変更
root	コンテナ: 読み取り, 書き込み ワークフロー: 読み取り, 書き込み, 使用 以下から継承 authenticated セキュリティ: 読み取り, 書き込み	変更

[パーミッションの追加](#)

□ パーミッションの継承ルール

- コンテナのパーミッションは親コンテナから継承されます。
- ユーザーのパーミッションはユーザーがメンバーのロールすべて、または直接ユーザーに割り当てられたパーミッションから継承されます。
- ユーザーのロールの継承は前例をコンテナ階層ルールは先優先します
- ユーザーがメンバーであるロールのパーミッションが再定義された場合、この特定のパーミッションのコンテナ階層の継承はオーバーライドされます。

パーミッションはすべてのユーザーインタラクションで確認されます。全ての必要なパーミッションが与えられている場合、ユーザーはアクセスおよび/または編集をすることができます。

コンテナ

- **読み込み** ユーザーはコンテンツをリストし、コンテナ内のオブジェクトを検索することができます。
- **読み込み 書き込み** 読み込みに追加して、適応されるパーミッションにより、新しいオブジェクトを作成（そして既存のオブジェクトを削除）することができます。

ワークフロー

- **読み込み** ユーザーはノードを実行できます。
- **読み込み 書き込み** ユーザーは自動的にノードデータを書き込むことができます。ファイルデータを変更するためにはコンテナに書き込みアクセスが与えられる必要があります。

セキュリティ

- **読み込み** ユーザーはコンテナの子オブジェクトのパーミッションリストを読み込むことができます。
- **読み込み 書き込み** ユーザーはコンテナの子オブジェクトのパーミッションリストを助動的に変更することができます。
- デフォルトでは、ユーザーに割り当てられたまたはロールのメンバーであるパーミッションを読み込むことを許可されています。ユーザーの読み込みとロールの特権が与えられている場合、ユーザーはすべてのパーミッションエントリを読み込むことができます（[ユーザーとロール](#)を参照）。

□ コンテナのパーミッションの編集

1. コンテナの **パーミッション** ボタンをクリックします。これによりコンテナのパーミッションページに移動します（下部のスクリーンショット）。

/ public / contactsのパーミッション

ユーザーまたはロール名	パーミッション	
anonymous	コンテナ: 読み取り, 書き込み ワークフロー: 読み取り, 書き込み, 使用 セキュリティ: 読み取り	変更
authenticated	コンテナ: 読み取り ワークフロー: 読み取り, 書き込み, 使用 セキュリティ: 読み取り	変更
root	コンテナ: 読み取り, 書き込み ワークフロー: 読み取り, 書き込み, 使用 セキュリティ: 読み取り, 書き込み	変更

以下から継承: authenticated

パーミッションの追加

2. 既に許可されているユーザー・ロールアクセス権を編集するには、**変更** ボタンをクリックします。新しいユーザー・ロールパーミッションを追加するには、**パーミッションの追加** をクリックしてください。これらのボタンにより「パーミッションの変更」ページが開かれます。

パーミッションの編集

すべてに対してセット:

コンテナ:

ワークフロー:

セキュリティ:

3. パーMISSIONの編集ページ内で、チェックボックスをチェックして、ユーザー・ロールを選択します。パーMISSIONを追加する場合、ユーザー・ロールがこのコンテナの許可済みのユーザー・ロールに追加されます。
(MobileTogether Server または Windows をコンボボックス内で選択し) 検索 コンボボックス内で MobileTogether Server または 有効化済みのドメインのために定義されている ユーザー と ロール を選択します。ドメインのユーザーとロールはドメインの管理者により定義されます。設定 タブ内で アクティブディレクトリログイン設定 が既に有効化されている場合、ページ内で使用することができます。
4. 必要に応じてパーMISSIONを変更します。継承オプションはパーMISSIONが親コンテナから継承されるパーMISSIONです。

4.2 ユーザーとロール

ユーザーとロール タブ(下部のスクリーンショット) には4つのサブタブがあります。これらのサブタブはユーザーアカウントを管理するために共に使用されます。ユーザーアカウントは特権のためにセットアップされ構成されます。レポートサブタブでアカウントのサマリーが閲覧できます。サブセクションで詳細を確認してください。



▼ ユーザーに関して

ユーザーは名前とパスワードの組み合わせにより定義されます。MobileTogether Server のユーザーアクセスには2つの方法があります:

- **Web UI アクセス** Web UI は MobileTogether Server の管理インターフェイスです。Web UI にログインするには名前とパスワードの組み合わせが必要です; このため、ユーザーとして実行されます。
- **サービス インターフェイス** HTTP サービスインターフェイスより MobileTogether Server のサービス通常モバイルデバイスの MobileTogether Client アプリが公開されます。ユーザーは、名前とパスワードを使用してサービスインターフェイスにアクセスします。公開されるサービスは通常 MobileTogether のノーションと関連したデータへのアクセスです。

2つの特別なユーザーは定義済みです:

root	root 最初の管理者ユーザーです。このユーザーは最も有力なユーザーで、すべての特権を持ち、他のユーザーの追加やロールの設定を行うことができます。このユーザーの最初の名前とパスワードは root-root です。パスワードは随時変更することができます。
anonymous	anonymous は匿名のユーザーのアカウントで、HTTP サービスインターフェイスを通じてサービスにアクセスします。このユーザーは、最初のパスワードがないため、トップレベルの Web UI にはログインすることができません。

▼ 特権に関して

特権はユーザーが実行を許可されたアクティビティです。MobileTogether Server 特権には定数があり、ユーザーにはゼロから利用可能なすべての特権を割り当てることができます。ですが、ユーザーに直接特権を割り当てるよりも、ロール別に特権を割り当てるのが推奨されます(以下のセクション参照)。特権とロールの割り当ては最初にこの特権を割り当てられたユーザーにより実行されます。最初にはユーザーがこの特権を有します。

以下のスクリーンショットにすべての利用可能な特権が表示されています。

特権

- ☐ ユーザー、ロール、特権の管理
- ☐ 独自のパスワードをセット
- ☐ セキュリティの制限を無視
- ☐ クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。)
- ☐ フィルター処理なしのログの表示
- ☐ 概要のキャッシュの表示
- ☐ ユーザーライセンス概要の表示
- ☐ ユーザーとロールの読み取り
- ☐ サーバー設定の管理

- ☐ ワークフローのトレース
(“ファイルヘログ” オプションが有効化されている場合、ファイルへ(作業中XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する)
- ☐ グローバルリソースの読み取り
- ☐ グローバルリソースの書き込み
- ☐ デザイナーからワークフローを開く
- ☐ デザイナーからのワークフローの保存
- ☐ サーバー シミュレーションの起動

タブ [ユーザーとロール](#) | [レポート](#) | [特権レポート](#) ですべての特権がリストされています。各特権はその特権を有するすべてのユーザー・ロールと共にリストされています。

▼ ロールに関して

ロールは特権のセットです。ロールは他のロールまたはユーザーに割り当てることができます。ロールの特権は自動的に他のロールまたはそのロールを割り当てられたユーザーに与えられます。ユーザーはいくつでもロールを割り当てることができます。その結果、ユーザーは、割り当てられたロールに定義されたすべての特権を有することができます。

以下のロールは定義済みです:

- **authenticated** は **anonymous** 以外のすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。つまり、名前とパスワードを持つユーザーには **authenticated** ロールが割り当てられます。
- **all** は **anonymous** を含む全てのユーザーに自動的に割り当てられます。
- **workflow-designer** は MobileTogether Designer 内のワークフローをデザインするユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、ワークフローの開始や保存、またサーバーからのシミュレーションの実行ができます。
- **workflow-user** はモバイルデバイスでワークフローを実行しているユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、サーバーにログインし、クライアントでシミュレーションを開始することなく、サービスインターフェイスにアクセスできます。
- **admin** は使用することのできるすべての特権を持ち、管理者としてのユーザーによる使用が想定されています。

4.2.1 ユーザー

ユーザーとロール | ユーザー タブ(下部スクリーンショット) では(ユーザー名をクリックすることにより)すべてのユーザーを表示、新しいユーザー作成、ユーザーのプロパティアクセス、ユーザーの削除が行えます。



▼ ユーザーに関して

ユーザーは名前とパスワードの組み合わせにより定義されます。MobileTogether Server のユーザーアクセスには2つの方法があります:

- **Web UI アクセス** Web UI は MobileTogether Server の管理インターフェイスです。Web UI にログインするには名前とパスワードの組み合わせが必要です; このため、ユーザーとして実行されます。
- **サービスインターフェイス HTTP** サービスインターフェイスにより MobileTogether Server のサービス通常モバイルデバイスの MobileTogether Client アプリが公開されます。ユーザーは、名前とパスワードを使用してサービスインターフェイスにアクセスします。公開されるサービスは通常 MobileTogether のノユーザーに関連したデータへのアクセスです。

2つの特別なユーザーは定義済みです:

root	root 最初の管理者ユーザーです。このユーザーは最も有力なユーザーで、すべての特権を持ち、他のユーザーの追加やロールの設定を行うことができます。このユーザーの最初の名前とパスワードは root-root です。パスワードは随時変更することができます。
anonymous	anonymous は匿名のユーザーのアカウントで、HTTP サービスインターフェイスを介してサービスにアクセスします。このユーザーは、最初のパスワードがないため、トップレベルの Web UI にはログインすることができません。

▼ 特権に関して

特権はユーザーが実行を許可されたアクティビティです。MobileTogether Server 特権には定数があり、ユーザーにはゼロから利用可能なすべての特権を割り当てることができます。ですが、ユーザーに直接特権を割り当てるよりも、ロール別に特権を割り当てることが推奨されます(以下のセクション参照)。特権とロールの割り当ては最初にこの特権を割り当てられたユーザーにより実行されます。最初にはユーザーがこの特権を有します。

以下のスクリーンショットにすべての利用可能な特権が表示されています。

特権

- ☐ ユーザー、ロール、特権の管理
- ☐ 独自のパスワードをセット
- ☐ セキュリティの制限を無視
- ☐ クライアントで保存されたパスワードの使用を許可する (アプリケーション開始時に認証を必要としない。)
- ☐ フィルター処理なしのログの表示
- ☐ 概要のキャッシュの表示
- ☐ ユーザーライセンス概要の表示
- ☐ ユーザーとロールの読み取り
- ☐ サーバー設定の管理

- ☐ ワークフローのトレース
(“ファイルヘログ” オプションが有効化されている場合、ファイルへ(作業中XML ファイルを含む)の詳細ワークフロー実行ログを有効化する)
- ☐ グローバルリソースの読み取り
- ☐ グローバルリソースの書き込み
- ☐ デザイナーからワークフローを開く
- ☐ デザイナーからのワークフローの保存
- ☐ サーバー シミュレーションの起動

タブ [ユーザーとロール](#) | [レポート](#) | [特権レポート](#) ですべての特権がリストされています。各特権はその特権を有するすべてのユーザー・ロールと共にリストされています。

▼ ロールに関して

ロールは特権のセットです。ロールは他のロールまたはユーザーに割り当てることができます。ロールの特権は自動的に他のロールまたはそのロールを割り当てられたユーザーに与えられます。ユーザーはいくつでもロールを割り当てることができます。その結果、ユーザーは、割り当てられたロールに定義されたすべての特権を有することができます。

以下のロールは定義済みです:

- **authenticated** は **anonymous** 以外のすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。つまり、名前とパスワードを持つユーザーには **authenticated** ロールが割り当てられます。
- **all** は **anonymous** を含む全てのユーザーに自動的に割り当てられます。
- **workflow-designer** は MobileTogether Designer 内のワークフローをデザインするユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、ワークフローの開始や保存、またサーバーからのシミュレーションの実行ができます。
- **workflow-user** はモバイルデバイスでワークフローを実行しているユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、サーバーにログインし、クライアントでシミュレーションを開始することなく、サービスインターフェイスにアクセスできます。
- **admin** は使用することのできるすべての特権を持ち、管理者としてのユーザーによる使用が想定されています。

▼ ユーザーの作成

新しいユーザーは root ユーザーまたは、管理ユーザー、ロールおよび特権を持つユーザーにより作成されます。新しいユーザーは以下の手順で作成されます:

1. ユーザーとロール | ユーザータブで**ユーザーの作成**をクリックします。(下部スクリーンショット参照)。これによりユーザーの作成ページが表示されます。

2. ユーザーの作成ページで、ユーザー名とパスワードを入力します。
3. ユーザーに特権を割り当てる場合、特権を(チェックボックスを)チェックして直接、および/またはユーザーにロールを割り当てることができます。(次のセクションを参照)。ユーザーは直接割り当てられ、特権を割り当てられ、ロールから継承され、特権を有することができます。ロールを使用して特権をユーザーに割り当てることを奨励されます。(次のセクションを参照)
4. **保存**をクリックして終了します。ユーザーがユーザーリストに表示されます。(上部スクリーンショット参照)。ユーザーのプロパティをユーザーのリストのユーザー名をクリックすることで編集できます。

▼ ドメイン ユーザーのインポート

[アクティブディレクトリログイン](#)が全てのユーザーを自動的にインポートすることなく、ドメインに対して有効化されている場合、有効化されたドメインの個別ドメインユーザーをインポートすることができます。**ドメインユーザーのインポート**をクリックします。(下部スクリーンショット参照)。ユーザーのインポートダイアログが表示されますので、インポートしたいドメインユーザーを検索し、ユーザーを選択した後 **選択をインポート** をクリックします。

このユーザーがインポートされた場合、他のロールと同様ユーザーにロールを割り当てることができます。新しいユーザーはユーザーのドメイン特有のユーザー名とパスワードでMobileTogether Serverにログインすることができます。

▼ ユーザーへのロールの割り当て

ロールはプロパティページでユーザーに割り当てることができます。ユーザーのプロパティページにアクセスするには、ユーザーとロール | ユーザー タブのユーザー名をクリックします。ユーザーのプロパティページの下部に割り当てられ、ロールペインがあります。(下部スクリーンショット)。

すべての利用可能なロールは左側にリストされています。ユーザーに割り当てられたすべてのロールは右側にリストされています。割り当てない(左側にリストされた)利用可能なロールを選択して、**割り当て**をクリックしてください。割り当てられたロールを削除するには、右側のリストから選択して、**削除**をクリックしてください。

ユーザーの特権のリストを閲覧するには [ユーザーとロール](#) | [レポート](#) | [ユーザーの特権](#) に移動してください。

▼ ユーザーの削除

ユーザーはroot またはユーザー、[ロール](#) および[特権の管理](#)の特権を有するユーザーにより削除することができます。以下の手順でユーザーを削除します: [ユーザーとロール](#) | ユーザー タブから 削除したいユーザーを選択して(下部スクリーンショット参照)、**選択されたユーザーの削除**をクリックします。

ユーザー

☐	名前
☒	TechWriter-01
☐	anonymous
☐	root

ユーザーの作成ドメイン ユーザーのインポート選択されたユーザーの削除

4.2.2 ロール

ロールは特権のセットです。ロールは他のロールまたはユーザーに割り当てることができます。ロールの特権は自動的に他のロールまたはそのロールを割り当てられたユーザーに与えられます。ユーザーはいくつでもロールを割り当てることができます。その結果、ユーザーは、割り当てられたロールに定義されたすべての特権を有することができます。

以下のロールは定義済みです:

- **authenticated** は **anonymous** 以外のすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。つまり、名前とパスワードを持つユーザーには **authenticated** ロールが割り当てられます。
- **all** は **anonymous** を含むすべてのユーザーに自動的に割り当てられます。
- **workflow-designer** は MobileTogether Designer 内のワークフローをデザインするユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、ワークフローの開始や保存、またサーバーからのシミュレーションの実行ができます。
- **workflow-user** はモバイルデバイスでワークフローを実行しているユーザーに割り当てられます。このロールによりユーザーは、サーバーにログインし、クライアントでシミュレーションを開始することなく、サービスインターフェイスにアクセスできます。
- **admin** は使用することのできるすべての特権を持ち、管理者としてのユーザーによる使用が想定されています。



ユーザーとロール | ロールタブから新しいロールの作成、ロールのプロパティの編集、ユーザーへのロールおよび/または他のロールの割り当てができます。特権の選択、選択解除およびユーザーおよび/または他のロールへのロールの割り当てができる、ロールのプロパティページへアクセスするため、ロールの名前をクリックしてください。

▼ ロールの作成と特権の定義

新しいユーザーは root ユーザーまたは、ユーザー、ロールおよび特権の管理の特権を持つユーザーにより作成されます。新しいユーザーは以下の手順で作成されます:

1. ユーザーとロール | ロールタブの **ロールの作成** をクリックすると(下部スクリーンショット参照) ロールの作成ページが表示されます。

2. ロールの作成ページでロールに名前を与えます。
3. ロールの特権を定義するために、チェックボックスをチェックして特権を選択します。

4. **保存** をクリックして終了します。

ロールを保存した後、ページ下部のメンバーペインのメンバーにロールを割り当てることができます。(次のセクションを参照)。メンバーはユーザーまたは他のロールであることができます。その後、ロールのプロパティをユーザーとロール | ロール タブのロールのリストのロール名をクリックして編集することができます。

ロールの全ての特権のリストを閲覧するには、[ユーザーとロール](#) | [レポート](#) | [ユーザーの特権](#) タブに移動してください。

- ▼ メンバーのロールへの割り当て (ユーザーまたは他のロール)
ユーザーまたは他のロールであるロールはメンバーを持つことができます。親ロールからメンバーは特権を継承します。

ロールにメンバーを割り当てるには、ロールのプロパティページの下部にあるメンバーペインに移動してください (下部スクリーンショット)。

メンバー

利用可能なユーザー/ロール

検索:

検索: MobileTogether Server

名前	説明
☐ all	MobileTogether Server
☐ authenticated	MobileTogether Server
☐ workflow-user	MobileTogether Server
☒ TechWriter-01	MobileTogether Server
☐ anonymous	MobileTogether Server
☐ root	MobileTogether Server

割り当て >>

<< 削除

ロールのメンバー 'workflow-designer'

名前
☒ deploy

すべての利用可能なロールは左側にリストされています。ロールのすべてのユーザー/ロールは右側にリストされています。メンバーとして割り当てたい左側にリストされたユーザー/ロールを選択して、**割り当て** をクリックしてください。割り当てられたユーザー/ロールを削除するには、右側のリストから選択して、**削除** をクリックしてください。上部のスクリーンショットは、例えば workflow-designer ロールのメンバーペインを表示しています。Deploy という単一のメンバーが存在し、workflow-designer ロールの全ての特権を継承します。

メモ ユーザーまたはロールに複数の特権セットを与えることができます。もしユーザー/ロールが複数のロールのメンバーとして追加された場合、すべての親ロールの特権を継承します。ユーザーまたはロールの全ての特権のリストを閲覧するには [ユーザーとロール レポート](#) | [ユーザーの特権](#) へ移動してください。

▼ ドメインロールのインポート

[アクティブディレクトリログイン](#) がドメインのために有効化されている場合、有効化されたドメインの個別のロールをインポートすることができます。**ドメインロールのインポート** をクリックしてください。(下のスクリーンショット参照)。表示されるドメインロールのインポートダイアログ内でインポートするロールを検索して、**インポートの選択** をクリックします。

ロール

名前
☐ all
☐ authenticated
☐ workflow-designer
☐ workflow-user

ロールの作成 ドメインロールのインポート 選択されたロールの削除

このロールのインポート後、他のロールとしてロールに特権を与えることができます。新しい特権はこれらのドメイン固有のロールに許可されます。

4.2.3 パスワードポリシー

パスワードポリシーはそのポリシーを使用するパスワードの強さを定義します。自身のパスワードおよび異なるユーザーへの異なるポリシーの適用を定義することができます。「ユーザーとロール」/「パスワードポリシー」タブ（下部スクリーンショット）ですべての定義されたパスワードポリシーが表示されており、新しいポリシーの作成、ポリシーのユーザーへ割り当て、ポリシーの削除を行うことができます。



※ デフォルトでは、新しいユーザーには、制約を定義しない変更のできない**デフォルトのパスワードポリシー**が割り当てられています。デフォルトポリシーにより定義されたパスワードより強いパスワードをユーザーに与えたい場合、強いポリシーを作成し、各ユーザーに割り当てます。

▼ パスワードポリシーの作成

新しいパスワードポリシーはroot ユーザーまたは、ユーザー、ロールおよび特権の管理の特権を持つユーザーにより作成されます。新しいユーザーは以下の手順で作成されます:

1. 「ユーザーとロール」/「パスワードポリシー」タブの **ポリシーの作成**（下部スクリーンショット参照）をクリックします。これによりパスワードポリシーの作成ページが表示されます。



2. パスワードポリシーの作成ページで、ポリシーに名前を与えます。
3. パスワードの制約を定義するためには、制約（合計の長さ、英字、数字）の横のプラスアイコンをクリックして、制約の値を入力します（下部スクリーンショット参照）。

パスワード ポリシーの作成

ポリシー名:

パスワード ポリシー

合計の長さ: 少なくとも以下の数量が必要です 文字

英字: 少なくとも以下の数量が必要です 英字

数字:

4. **保存** をクリックして終了します。

ポリシーを保存した後、ページ下部のメンバーペインから次のセクションを参照)からユーザーを割り当てることができます。後に **ユーザーとロール** | **ポリシーのプロパティ** の中の名前をクリックしてポリシーのプロパティを編集することができます。

▼ メンバー (ユーザー)へのパスワードポリシーの割り当て

ポリシーのプロパティページ下部のメンバーペインでユーザーをポリシーのメンバーとして追加することにより、パスワードポリシーはユーザーに適用することができます(下部スクリーンショット参照)。

メンバー

利用可能なユーザー

名前	現在のポリシー
☒ 新しいユーザーのデフォルト	デフォルトのポリシー
☐ root	デフォルトのポリシー

ポリシーのメンバー 'MediumSecurity'

名前
☒ TechWriter-01

すべての利用可能なユーザーは左側にリストされています。ポリシーのメンバーであるすべてのユーザーは右側にリストされています。左側のリストからメンバーとして割り当てたいユーザーを選択して、**割り当て** をクリックします。割り当てられたユーザーを削除するには、右側のリストから選択して、**削除** をクリックします。上部のスクリーンショットは MediumSecurity ポリシーのメンバーペインを表示しています。単一メンバー、ユーザー TechWriter-01、が存在します。

4.2.4 レポート

ユーザーとロール | レポートタブにレポートと特権へのリンクがあります。これらのレポートはユーザー・ロールの使用する特権の役に立つサマリーがレポートされています。

▼ 特権レポート

特権レポート(下部スクリーンショット)には各特権とこの特権を使用するすべてのユーザーとロールがリストされています。また、継承も表示されています。

特権レポート		
特権	プリンシパル	与えられた、またはプリンシパルにより継承
保存されたパスワードのクライアントでの使用を許可する。	 TechWriter-01	以下より継承された  authenticated
	 authenticated	以下に与えられた  authenticated
	 root	以下に与えられた  root
	 workflow-user	以下に与えられた  workflow-user
ユーザー、ロール、特権の管理	 TechWriter-01	以下より継承された  authenticated
	 authenticated	以下に与えられた  authenticated
	 root	以下に与えられた  root
サーバー設定の管理	 TechWriter-01	以下より継承された  authenticated
	 authenticated	以下に与えられた  authenticated
	 root	以下に与えられた  root
デザイナーからワークフローを開く	 deploy	以下より継承された  workflow-designer
	 root	以下に与えられた  root
	 workflow-designer	以下に与えられた  workflow-designer

▼ ユーザーレポートの特権

ユーザーレポートの特権(下部スクリーンショット)には各ユーザー・ロールの特権のサマリーと共にリストされています。また、継承も表示されています。

ユーザーレポートの特権

プリンシパル	特権	与えられた、またはプリンシパルにより継承。
 TechWriter-01	保存されたパスワードのクライアントでの使用を許可する。	以下から継承  authenticated
	ユーザー、ロール、特権の管理	以下から継承  authenticated
	サーバー設定の管理	以下から継承  authenticated
	セキュリティの上書き	以下から継承  authenticated
	ユーザーとロールの読み取り	以下から継承  authenticated
	独自のパスワードをセット	以下から継承  authenticated
	概要のキャッシュの表示	以下から継承  authenticated
	ユーザーライセンス概要の表示	以下から継承  authenticated
	フィルター処理なしのログの表示	以下から継承  authenticated
	保存されたパスワードのクライアントでの使用を許可する。	以下に許可  authenticated
 authenticated	保存されたパスワードのクライアントでの使用を許可する。	以下に許可  authenticated
	ユーザー、ロール、特権の管理	以下に許可  authenticated

4.3 ユーザーライセンス

ユーザーライセンス タブ(下部スクリーンショット)では現在接続されておりMobileTogether Server とライセンスされているデバイスの情報を表示し、ライセンスのアクティブ化および非アクティブ化をすることができます。

ユーザー ライセンス

使用されているライセンス: 7 (最大数 8)

ライセンス モード: 自動

ID	ユーザー名	デバイス	バージョン	リクエスト日時	アクティブ	アクティベーション日時
27	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:46.0) Gecko/20100101 Fire		2016-05-18 09:53:08	☒	2016-05-18 09:53:08
26	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:45.0) Gecko/20100101 Fire		2016-02-22 10:10:27	☒	2016-02-22 10:10:27
25	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:41.0) Gecko/20100101 Fire		2015-10-20 15:46:01	☒	2015-10-20 15:46:01
24	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64) AppleWebKit/537.36 (KHTML		2015-06-12 12:55:42	☒	2015-06-12 12:55:42
23	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64) AppleWebKit/537.36 (KHTML		2015-06-12 12:52:20	☒	2015-06-12 12:52:20
22	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:38.0) Gecko/20100101 Fire		2015-06-12 12:50:59	☒	2015-06-12 12:50:59
21	root	(Mozilla/5.0 (Windows NT 6.1; WOW64; rv:38.0) Gecko/20100101 Fire		2015-06-12 12:38:45	☒	2015-06-12 12:38:45

7件中 1 - 7 を表示

保存 選択項目の削除

- MobileTogether Server ライセンスが特定数のデバイスとMobileTogether Server の通信を指定された時間で許可します。この数は使用されているライセンスフィールドに与えられています。例えば、上部のスクリーンショットでは、サーバーは8つのデバイスと通信できるようにライセンスされています。2つのデバイスが接続されており、両方がライセンスを持っています(アクティブチェックボックスが選択されていることにより示されています)。使用されているライセンスフィールドに8つ中2つのライセンスが使用されていること表示されています。
- クライアントデバイスがサーバーに接続されると、ライセンスモードのオプションが自動(上部スクリーンショット参照)に設定されている場合、自動的にライセンス割り当てられます。手動に設定されている場合、新しく接続されるモバイルデバイスが接続されたデバイスのリストに表示されます。管理者がデバイスのアクティブチェックボックスをチェックして **保存** をクリックするとライセンスが与えられます。
- ユーザーライセンスの制限に達すると、これ以上のデバイスにライセンスを与えることはできません。追加デバイスにライセンスを与えるためには、既存のライセンスを非アクティブ化しなければなりません。管理者はデバイスのアクティブ化および非アクティブ化をいつでも行うことができ、ユーザーライセンス制限を超えることなく新しいデバイスにライセンスをあたえることができます。

ユーザーライセンスのフィールド

以下にユーザーライセンスタブのフィールドの詳細が説明されています。

- **ライセンスモード**: 自動は自動的に新しく接続されたデバイスをアクティブ化します。手動は管理者が手動でデバイスをアクティブ化して保存した後、アクティブ化設定の効果が実行されます。
- **ID**: ライセンスを与えられたデバイスの内部番号
- **ユーザー名**: クライアントデバイスが接続しログインしたユーザー名。ユーザー名により、クライアントデバイスに与えられる特権が決定されます。
- **クライアントIP**: クライアントデバイスのIP アドレス
- **デバイス**: ライセンスをリクエストしたモバイルデバイスまたはブラウザー。
- **アクティブ**: アクティブチェックボックスによりライセンスのアクティブ化/非アクティブ化が行われます。 **保存** をクリックして変更を確定します。
- **リクエスト日時**: **アクティベーション日時**: ライセンスがリクエストされたおよびアクティブ化された日時。

検索

検索 ボタンをクリックして検索ダイアログを開き(下のスクリーンショット) 1つ以上のライセンスフィールドを検索します。

- いずれかのすべてのボックスは、定義されるルールがすべてまたはおつのルールを満たすかを指定します。
- いずれかのすべてのボックスの横 **ルールの追加** アイコンは、検索の定義のルールを追加します。
- 各ルールはおつのパートから構成されています: (i) ユーザーライセンスフィールド、(ii) 'レシヨシツ'の定義、(iii) 値。
- 提出された値は、一致を返すために指定されたフィールドの値と同じである必要があります。
- 空白の値のパートは、フィールドの提出された値として空の文字列を使用します。
- 各ルールの横の **値の削除** アイコンはルールを削除します。
- **検索** は検索を開始します。
- **リセット** は、すべてのユーザーライセンスを表示します。

4.4 ログ

ログ タブは、タブ上にある選択されたフィルタに従いサーバー設定 誰が何を干了か)を含むログされたアクションを表示します(下のスクリーンショット参照)。(警告とエラーのみではなく全てのログされたアクションを確認するには、[設定](#) タブに移動して、ログのレベルの詳細がInfo に設定されていることを確認してください。各デザインアクションに関連するログカラムは、以下に付いて表示します: ユーザー名、(関連した詳細をライセンスタブで確認することできるID) により識別されている クライアントデバイス デバイス上のMobileTogether Client アプリのバージョン、デザインが作成された MobileTogether Designer のバージョン およびメッセージの重要度 (Info、警告、エラー)。

ログ ビュー					
前日から: 7 日を表示 以下を表示: 2015-10-07 から 2015-10-14 へ		最小重大度: 情報	表示	すべて削除	開始: 2015-10-07 終了: 2015-10-14
日時	ユーザー	デバイス	デザイン	重大度	メッセージ
2015-10-14 10:13:30	root			情報	コンテナー /a で作成する。
2015-10-14 10:13:17	root			情報	オブジェクト /a /b /c を削除する。
2015-10-14 10:13:12	root			情報	コンテナー /b を作成する。
2015-10-14 10:13:06	root			情報	コンテナー /c を作成する。
2015-10-14 10:12:50	root			情報	コンテナー /d を作成する。
2015-10-14 10:12:29	root			情報	コンテナー /e を作成する。
2015-10-14 10:12:24	root			情報	コンテナー /f を作成する。
2015-10-14 10:12:19	root			情報	コンテナー /g を作成する。
2015-10-14 10:12:15	root			情報	コンテナー /h を作成する。
2015-10-14 10:12:09	root			情報	コンテナー /i を作成する。

ビューは以下によりフィルタすることができます:

- **日付:** 範囲または特定の日付が設定できます。
- **最小重大度:** エラーは最高の重大度です(エラーのみ表示); 警告は次に高い重大度です (エラーと警告のみ表示); 情報は最小重大度で、エラー、警告および情報が表示されます。
- **検索条件:** ログテーブルの上部または下部の左側の **検索** ボタンをクリックして、(以下に説明される検索ダイアログを開きます。検索条件により定義されるフィルタを削除するには、**検索** ボタン横 **再ロード** アイコンをクリックします。

ログはタブ上部の **全て削除** ボタンをクリックすることまたは、日付範囲を定義して **削除** をクリックすることで削除できます。

ログメッセージの検索

検索ダイアログ(下部スクリーンショット)にアクセスするには、ログテーブル上部または下部の左の **検索** ボタンをクリックします(上部スクリーンショット参照)。

検索 ...

すべての

日付
 次を含む
 20014-0610

 ユーザー
 次に等しい
 system

リセット
 検索

各検索ルールには、検索する日付、またはユーザーなどのフィールド(含む、または等しいなどの)演算子、および値を選択します。新しい検索ルールを追加するには、**ルールの追加** ボタンをクリックします。検索ルールを削除するには、**ルールの削除** ボタンをクリックします。「すべての」セクターは指定の上部にあり、全ての検索ルールが個別に満たされた場合のみ検索条件が満たれます。「いずれか」セクターは、検索ルールが1 つでも満たされているかにより検索条件が満たされたかを指定します。**検索** をクリックして検索を開始します。**リセット** をクリックして検索フィルタを削除します。

4.5 キャッシュ

キャッシュタブはサーバー上で現在利用可能なキャッシュの説明を表示します。キャッシュは指定された時間にデータベースから生成されたデータファイルです。MobileTogether Server のWeb UI では、サーバー上のキャッシュの説明が閲覧でき、またキャッシュのアクティブ化/非アクティブ化、キャッシュの削除ができます。

キャッシュの作成

新しいキャッシュは MobileTogether Designer でデータベースのために定義されます。ページソースウィンドウのデータベースを右クリックし、**キャッシュの設定**を選択し、キャッシュのプロパティを指定します。キャッシュの作成には以下の2つの理由があります: (i) ページデータベースのレポートの作成が遅い場合 (例えば、大きなデータベースを使用する場合); (ii) データベースが頻繁に変更されない場合。データがサーバー上のデータキャッシュから得られる場合、ソリューションの実行は速く行えます。キャッシュを最新にするために、キャッシュ作成の際、頻繁なキャッシュのアップデートを指定することができます。MobileTogether Designer でキャッシュが定義され、基となるデータ構造に互換性がある場合、異なるデザインの詳細なデータベースで利用することが可能です。

データベースがキャッシュ付きで定義された場合、キャッシュされたデータはソリューション実行の際に使用されます。キャッシュはソリューションがサーバーにデプロイされると使用することができます。

説明の表示と利用可能なアクション

キャッシュタブはサーバー上で利用可能なすべてのキャッシュの閲覧、キャッシュのアクティブ化、非アクティブ化、キャッシュのアクティブ/非アクティブの状態の変更、選択されたキャッシュの削除ができます。

キャッシュの概要				
☐	名前	最大キャッシュエントリ	キャッシュのサイズの合計	アクティブ
☒	NEW_CACHE	1	0 KB	☒
保存 選択対象の削除				

- 名前:** MobileTogether Designer でキャッシュが定義された際に名前が与えられ、MobileTogether Server では変更できません。参照されたデータ構造に互換性がある場合、同じキャッシュが複数のデザインで使用することが可能です。MobileTogether Designer で異なるデザインにキャッシュの割り当てを行うことができます。詳細は <http://manual.altova.com/ja/MobileTogether/mobiletogetherdesigner/index.html> を参照してください。
- キャッシュエントリの最大数:** パラメータのセットを使用してキャッシュを作成することができます。各パラメータのセットは一つのキャッシュエントリを生成します。異なるパラメータのセットが指定される場合、複数のキャッシュエントリが作成されます。キャッシュを定義する際、キャッシュエントリの最大数を指定することができます。特定のデータベースのキャッシュに使用されるサーバースペースの上限が設定されます。この数は、最初のキャッシュエントリが削除され、最新のキャッシュエントリが表示されるまでのキャッシュエントリの保管数です。
- 一番長いアップデート:** 各キャッシュを複数回更新することができます。この列を複数回更新することができます。この列は最も長い時間を要した更新の時間を表示します。
- キャッシュの総サイズ:** この数は全てのキャッシュエントリのハードディスクまたは他のメディア上でキャッシュに割り当てられた総サイズです。キャッシュサイズは自動的に割り当てられます。
- アクティブ:** このチェックボックスにより、サーバー上のキャッシュのアクティブ化/非アクティブ化を行うことができます。キャッシュが非アクティブ化された場合、メタデータ(プロパティ)はサーバー上に存在しますが、キャッシュは空になります。

用することができません。 **保存** をクリックして設定を確定します。

- サーバーからキャッシュを削除するには、選択後、 **選択対象の削除** をクリックします。キャッシュが定期的なアップデートされるよう指定されている場合、次のアップデートの際、新しいキャッシュが作成されます。

4.6 設定

設定 タブは一般設定 ペインとLicenseServer ペインに分割されています。一般設定 ペインはMobileTogether Server 設定のサブページを含みます。これらのサブペインとLicenseServer ペインは以下に個別に説明されています。一般設定 ペインでの設定を変更した後、**保存** をクリックして設定を保存すると効果が有効になります。

▼ モバイルクライアントポート

モバイルクライアントがサーバーに接続するために使用するポートです。HTTP ポートはセキュリティ保護なしポート; HTTPS は保護付きポートです。HTTPS を使用するには [SSL 暗号化](#) をセットアップする必要があります。サーバーが特定のIP アドレス または 全てのインターフェイスとIP アドレスを使用するのを指定することができます。単一のIP アドレスが使用される場合、ランダムな2番目のフィールドを入力してください。

モバイル クライアント ポート:

モバイルクライアントが利用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュリティ保護付き (HTTPS) を選択してください。
これらのポートは管理のために使用できません!

☒ HTTP バインドアドレスを有効化する

☒ 全てのインターフェイス ☐ ポート: 8083

☐ HTTPS バインドアドレスを有効化する

☒ 全てのインターフェイス ☐ ポート: 8084

☒ 匿名で自動的にログイン

☐ カスタム化されたログインとインデックスページを使用

☐ /mt-login を使用して MobileTogether のログインを許可する

匿名として自動的にログインする

選択された場合、クライアントは自動的に [anonymous](#) としてログインされます。ログインページがスキップされるとサーバーの最初のページが直接表示されます。最初のページはルートフォルダーを表示する基準のページ または定義されたカスタムページを表示します(次の点参照)。このオプションが選択されていない場合、クライアントは適切な資格情報必要とするデフォルトのログインページからログインします。もし、匿名のログインが選択されている場合、対応する [特権](#) を [anonymous](#) のために設定してください。

ユーザーによりカスタム化されたログインとインデックスページ

カスタム化されたログインページと最初のページが使用される場合このオプションを選択します。これにより、自身のエンティティをクライアントのためにデザインすることができます。カスタム化されたページを以下のようにセットアップします:

- 2つのHTML ページを作成します。それぞれ `login.html` と `index.html` 名前をつけます。
- MobileTogether Server **アプリケーションデータフォルダー** 内にある **インデックス** フォルダーにこれらのファイルを保存します(下のテーブル参照)。イメージファイルとCSS ファイルなどの追加ファイルは、**インデックス** フォルダーのサブフォルダーに保存することもできます(例えば `static` と呼ばれる仮定しましょう)。

Linux	/var/opt/Altova/MobileTogetherServer
Mac	/var/Altova/MobileTogetherServer

Windows 7, 8, 10

C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer

サンプルログインページとサンプルの最初(index)のページのコードのリストはいかに表示されています。リストは、基本的かつ変更する事が可能です。

login.html

```
<html>
  <header>
    <title>Customized Login</title>
  </header>
  <head>
    <meta http-equiv="Cache-Control" content="no-store" />
  </head>
  <body>
    <div>
      <h1>Sign in</h1>
      <p>A bare-basics custom page for client logins to
      MobileTogether Server. Modify this page as required, and use the
      Static sub-folder to save CSS stylesheets, images, etc.</p>
      <form method="post" action="/do_login" name="loginform">
        <table>
          <tbody>
            <!-- The user to login -->
            <tr><td>Username:</td></tr>
            <tr><td><input type="text" name="username" size="30"></td></tr>

            <!-- The password of the user -->
            <tr><td>Password:</td></tr>
            <tr><td><input type="password" name="password"
            size="30"></td></tr>

            <!-- The Active Directory domain details -->
            <tr><td>&nbsp;</td></tr>
            <tr><td>Active Directory Login:</td></tr>
            <tr>Domain suffix: <td><input type="providernamesuffix"
            name="providernamesuffix" value=""></td></tr>
            <tr>Domain prefix: <td><input type="providernameprefix"
            name="providernameprefix" value=""></td></tr>
            <!-- The Sign-In button -->
            <tr><td><input type="submit" value="Sign in"></td></tr>
          </tbody>
        </table>
        <!-- The page to redirect to after a successful login. -->
        <input type="hidden" name="from_page" value="/index"></td></tr>
      </form>
    </div>
  </body>
</html>
```

index.html

```
<html>
  <header>
    <title>Custom Index</title>
  </header>
  <head>
    <meta http-equiv="Cache-Control" content="no-store" />
    <title>Custom Index</title>
  </head>
```



```

<body>
  </img><hr/>
  <a href="/do_logout">Logout</a>
  <p>MobileTogether Custom Login</p>
  <div><a href="/run?d=/public/About">Start the About app</a></div>
  <div>
    <div><a href="/run?d=/public/DateCalc">Start the Date Calculator
    app</a></div>
    <div><a href="/run?d=/public/WorldPopulation">Start the World
    Population Statics app</a></div>
  </div>
</body>
</html>

```

/mt-login を使用してログインすることを許可する

このオプションは、ログインがカスタムされたログインとインデックスページを使用せずに、デフォルトのログインページと最初のページを使用して行われることを指定します。このオプションにより `login.html` と `index.html` ファイルを保存先に保管しつつ、デフォルトページを使用することができます。クライアントまたはブラウザ設定は、この設定の効果を有効にするために、ブラウザのキャッシュを削除することを必要とするかもしれないことに注意してください。

▼ 管理者ポート

管理者ポートは以下の目的のためにアクセスを提供します:

- サーバーのWeb UI に接続して、[ユーザーとロール](#)などの設定などの管理機能を実行します。
- MobileTogether デザインを (MobileTogether ソリューションとして) サーバルにデプロイします。MobileTogether Designer はデザインをデプロイするための MobileTogether Server のアドレスとポートを指定する設定があります。

管理者ポート:

管理者が使用するセキュリティ保護なし (HTTP) とセキュリティ保護付き (HTTPS) ポートを選択してください。これらのポートはサーバーの構成、ユーザー、ロール、ユーザーライセンス管理、ワークフロー配置、とワークフロー シミュレーションに使用されます。
Altova ServiceController から管理ページを開くにはホスト名を指定してください。これにより、URL に不整合の証明書に関するブラウザ警告を回避することができます。

☒ HTTP バインドアドレスを有効化する

☒ 全てのインターフェイス ☐ ポート: 8085

☐ HTTPS バインドアドレスを有効化する

☐ 全てのインターフェイス ☐ ポート: 8086

ホスト名:

HTTP ポートはセキュリティ保護なしポート; HTTPS は保護付きポートです。HTTPS を使用する場合は [SSL 暗号化](#) をセットアップする必要があります。HTTPS ポートを設定し、URL に一致しない SSL 証明書に関する警告を回避するには、MobileTogether Server 構成ページが開かれるコンピュータのホスト名を指定します。

サーバーが特定の IP アドレス または 全てのインターフェイスと IP アドレスを使用するかを指定することができます。

単一のIP アドレスが使用される場合、ランボタの2番目のフィールドに入力してください。

▼ SSL 証明

SSL 通信に使用される秘密キー証明書と公開キー証明書を指定します。**参照**をクリックして、証明書を含むファイル(秘密キーには秘密キーを、公開キーには証明書を)選択します。説明に関しては[SSL 暗号化のセットアップ](#)を参照してください。

SSL 証明書:

セキュリティ保護付き (SSL) 通信に必要な秘密キーと証明書を選択してください。
セキュリティ保護付き (HTTPS) ポートを使用するため有効な秘密キーと証明書が必要です。
秘密キー/証明書は PEM フォーマットでなければなりません。

秘密キー:

ファイルが選択されていません。

証明書:

ファイルが選択されていません。

▼ ログ

Web UI のログタブに表示されるログはワークフローのアクティビティのレポートを含みます。このペインの設定はログのパラメータを定義します。

ログ中

ログレベルの詳細:

エラー

ワークフロー実行に使用するログ詳細を選択してください。ログはデフォルトではデータベースに保存され、ログページでアクセス可能です。

ログリミット: 7 日

ログメモリリミット: 1024 MB

ログデータベースへ書き込む前に使用することのできるメモリログメカニズム。メモリの最小は 256MB です。

☐ ファイルにログ

ワークフロー特権を持つユーザーにファイルへのワークフロー実行ログを有効化します。
ログファイルは詳細ワークフロー実行情報(作業中 XML を含む)を含んでいます。

ファイル ディレクトリにログ中:

C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer\logs

ログファイルが置かれるサーバー側ソリューション作業ディレクトリの指定

- **ログレベルの詳細** 詳細はエラーのみ、ログエラーおよび警告、(詳細付き)ログエラー、警告、情報の選択により異なります。
- **ログリミット** ログの保管期間を指定します。
- **ログメモリリミット** ログDB へのメッセージの書き込みは、ワークフローの実行より低い優先順位が与えら

れています。この結果、ログDBに直接メッセージは書き込まれませんが、ログDBにメッセージを書き込むためにワークフローの実行内のギャップがプロセス時間を開放するまでメモリ内に保管されます。しかしながら以下の点に注意してください！ (i) ログDBに書き込む時間はありません。 (ii) ログにようされるメモリの量がログメモリリミットに達するとメモリ内の全てのログメッセージは消去されます。単一のログメッセージは破棄されたメッセージ置き換えられます。ログメモリがクリアされたことを記録します。(メモリからメッセージを破棄するタイミングを指定することにより、ログメモリリミットのオプションによりメモリスペースを作成することができます。それ以外の場合、処理ロードとメモリロードは、MobileTogether Server 処理を停止する可能性があります。リミット値の選択に影響する要素は以下のとおりです： (i) マシン上のメモリの容量、 (ii) ログレベルの詳細。許可されているログメモリリミットの最小値は256 MBです。

- **ログファイル:** ファイルにログオプションが選択されている場合、ワークフローのトレース特権を与えられたユーザーはファイルに保存されているログを所有することができます。ログが保存されているディレクトリはファイルにログオプションで指定されています。

▼ 統計

サーバーの使用に関する統計は内部 MobileTogether データベースに保管されます。public/admin コンテナ内の新規 MobileTogether Server インストール内にある **statistics.mtd** ファイルを開きこれらの統計を確認することができます。統計設定 (下のスクリーンショット) により補完される統計の期間を指定することができます。デフォルトの設定は統計がトラッキングされないことを示す 0 です。

統計

統計の保存期間 (日数)。'0' を指定して統計の集計を無効化します。
統計のリミット: 0 日

次の点に注意してください！

- MobileTogether Server の新規のインストールの際に **public/admin** コンテナは自動的に作成されます。MobileTogether Server のバージョンをアップグレードすると **statistics.mtd** ワークフローをサーバーに明示的にデプロイする必要があります。全てのコンテナにデプロイすることができますが **public/admin** コンテナを作成し、そこにデプロイすること奨励されます。
- **statistics.mtd** デザインを明示的にデプロイする必要がある場合、MobileTogether Designer インストールの **MobileTogetherDesignerExamples/SimpleApps** フォルダ内で使用することができます。
- ソリューションを実行すると 内部 MobileTogether Server 統計データベースからデータ読み取られ、データベース内の統計のグラフを閲覧することができ、オプションをフィルター選択することのできるインターフェイスが表示されます。
- ソリューションはデータの4つの主要なカテゴリを表示しています： (i) サーバーに接続しているユーザー数。 (ii) サーバーに接続されている異なるデバイス数。 (iv) サーバー上発生するソリューションの開始数 (各ソリューションは複数回開始することができます。各開始は個別の開始として数えられます)。(例えば、特定のソリューション または デバイスで追加のフィルターも使用することができます。ソリューションの実行のみがトラッキングされ、管理リクエストはトラッキングされないことに注意してください)。
- ユーザーが統計を読み取るためには、そのユーザーのために 統計の読み取り 特権がチェックされている必要があります。

▼ サーバーでのワークフローのシミュレーション

チェックボックスをチェックすることにより、サーバーでのシミュレーションの実行の特権を与えられているユーザーがサーバーでのワークフローのシミュレーションを行う許可をアクティブ化します。

サーバーでのワークフローのシミュレーション:

サーバー シミュレーション実行の特権を持つユーザーにサーバーでのワークフロー シミュレーションを有効化します。

☒ サーバーでのシミュレーション

▼ ワークフローの実行

チェックボックスをアクティブ化することにより Web ブラウザーからワークフローの実行が行われます。

ワークフローの実行:

Web ブラウザーからのワークフロー有効化

☒ Web ブラウザーからのワークフロー実行

▼ セッション

新しいログインが行われるまでのタイムアウト期間を設定します。このタイムアウトは管理者アクセスとクライアントアクセスに適用されます。

セッション:

保管されたセッション データの有効期限タイムアウト (分)。

セッションがタイムアウトしました: 15 分

▼ サーバー側ソリューション作業ディレクトリ

ソリューションがサーバーで実行される場合、この設定は以下を指定します:

- このデザイン内の全ての相対パスのベースURI。デザイン内で、サーバーにデプロイされていないすべてのファイルのパスは、この設定で指定されているディレクトリに相対して解決されます。例えば、デザイン内のファイルが MTSDData\Test.xml の相対パスに対してアドレスされていて、ファイルがデプロイされていない場合、ファイルは <Working-Directory-Setting-Of-Server>MTSDData\Test.xml にある必要があります。(ファイルがサーバーにデプロイされている場合は、デザインは内部メカニズムを使用してファイルにアクセスします。)
- デザイン内で、ファイルの場所に絶対パスがある場合、このパスは、この設定で指定されている作業ディレクトリのサブディレクトリであるディレクトリ内部をポイントしてはなりません。例えば、ファイルが絶対パス c:\MTSDData\Test.xml に対してアドレスされている場合、ファイルは、作業ディレクトリが c:\ または c:\MTSDData. の場合のみアクセスすることができます。

サーバー側ソリューション作業ディレクトリ

ディレクトリ:

C:\MobileTogether\

ソリューションが保存できるサーバー側ディレクトリを指定してください。ソリューションの相対パスの解決ベースとしても使用されています。

この設定は、ソリューションの実行中のローカルファイルへのすべての読み込み書き込みアクセスの制限をします。このディレクトリ内のファイルのみ、またはサブディレクトリのみ、ソリューションの実行のため MobileTogether Server からアクセスすることができます。

▼ キャッシュの設定

指定: (i) キャッシュファイルが保存されているディレクトリ (ii) 各キャッシュオペレーションのタイムアウト、および (iii) キャッシュログアイテムの表示期間日数。詳細に関しては [キャッシュタブ](#) を参照してください。

キャッシュの設定:

キャッシュ ディレクトリ:

C:\ProgramData\Altova\MobileTogetherServer\cache\

キャッシュが置かれるサーバー側ソリューション作業ディレクトリの指定。

キャッシュ オペレーション タイムアウト: 0 秒

各キャッシュ オペレーションのタイムアウト(秒)。0は制限がないことを示します。

キャッシュ ログ リミット: 7 日

▼ アクティブ ディレクトリ ログイン

ドメイン固有のユーザー名とパスワードを使用してユーザーがサーバーにログインできます。各ドメイン固有のユーザーは [ユーザー](#) タブからユーザーとしてインポートすることができ、通常通り、ロールと特権を割り当てられます。MobileTogether Designer のオプションダイアログでは、サーバーに接続のためのユーザーログインの種類、サーバー定義ユーザーまたは、ドメインユーザーとして、が指定できます。

アクティブディレクトリログインを有効化した後、許可するドメインを入力します。 [ユーザーとロール](#) | [ユーザー](#) タブに移動して、特定のユーザーを MobileTogether Server としてインポートします。これらのユーザーはドメイン特有のログイン情報を使用して、MobileTogether Server にログインすることができます。

アクティブ ディレクトリ ログイン:

☒ アクティブ ディレクトリ ログインの有効化
アクティブ ディレクトリ ログインの有効化

☐ すべてのドメイン ユーザーにログインを許可する
チェックされていない場合[ユーザー ライセンス]ページの[ドメイン ユーザーのインポート]により特定のドメインユーザーのログインを許可する。
注意:ドメイン ユーザーがログインした場合、ワークフロー パーミッションを使用して特定のワークフローへのアクセスを管理することができます。

ドメイン サフィックス:
サーバーにログインする時使用されたコマンドで区切られたドメイン名のリスト

☒ デフォルトとして設定
アクティブディレクトリログインがプロバイダーのリストの一番上になるように強制する。

- **すべてのドメイン ユーザーにログインを許可する** ドメイン内の全てのユーザーは Mobile Together Server にログインすることができます。もしチェックされていない場合、ドメインユーザーは個別に Mobile Together Server ユーザーとしてインポートされる必要があります。[ユーザー](#) タブのユーザーのインポートボタンからインポートを実行することができます。
- **ドメイン サフィックス** インクレードするドメインを入力します。ドメインをコマンドを使用して分割します。

▼ 電子メールの設定

これらの設定によりサーバーを介してエンドユーザーに電子メールを送信することができます。通常、ソリューションは、サーバーから電子メールを送信する「電子メールの送信」アクションをトリガーするイベントを提供します。サーバーから電子メールを送信するには、電子メールサービスプロバイダー(通常使用中のISP)のSMTP サーバーへのアクセスが必要になります。SMTP サーバーの設定はこのページに入力されます(下のスクリーンショット)

電子メール設定:

サーバー側からの電子メールの送信のための設定を構成する。

SMTP ホスト:

SMTP ポート:

SSLを使用: ☐

ユーザー名:

パスワード:

- **SMTP ホストとSMTP ポート** ISP のSMTP サーバーのSMTP ホスト名とSMTP ポートです。詳細は使用中のISP により提供されます。
- **ユーザー名とパスワード** 電子メールサービスプロバイダーに登録されているアカウントのユーザー名とパスワードです。

▼ アップグレードの設定

この設定は MobileTogether Server を1つのバージョンから高いバージョンにアップグレードする関連します (下のスクリーンショット)。デフォルトでは、新規の MobileTogether Server バージョンがインストールされると [全ての重要なサーバーファイルとフォルダが含まれるバックアップフォルダが作成されます](#)。MobileTogether Server インストールをアンインストールすると、これらの MobileTogether Server ファイルとフォルダはシステム内に保管されます。後に新規の MobileTogether Server パッケージがインストールされると [MobileTogether Server アプリケーションフォルダ](#) 内で作成されたバックアップフォルダ内にデータがコピーされます。

設定のアップグレード:

☐ バックアップの無効化
サーバー設定と各サーバーアップグレードのデータの自動的なバックアップを無効化します。

この設定は、次のアップグレードのための自動的なバックアップを無効化します。バックアップフォルダをいつでも手動で作成することができます。詳細については [MobileTogether Server をバックアップし復元する方法](#) を参照してください。

▼ JWT 認証

この設定は埋め込まれた Web ページソリューションの JSON Web Token (JWT) 認証を有効化します (下のスクリーンショット)。Web ページにソリューションが埋め込まれており JWT 認証がサーバー上で有効化されているとユーザーが MobileTogether Server にログインせずに埋め込まれた Web ページ内にソリューションがロードされます。 [MobileTogether Designer ドキュメント](#) 内の埋め込まれた Web ページソリューションの詳細を参照してください。

JWT 認証:

JWT 認証パラメーターをインラインフレーム埋め込み済みソリューションのために構成します

☒ アクティブ ディレクトリ ログインの有効化
JWT 認証をモバイルクライアントポートのために有効化する。

秘密:

オーディエンス:

[保存して再起動](#)

JWT 認証を有効化した後、2つの設定を定義する必要があります:

- **秘密:** 対称キー (共有された秘密) を使用して JWT を作成した場合、共有された秘密キーをここに入力してください。非対称暗号化 (公開、秘密キー暗号化) を使用した場合、公開キーをここに入力してください。この情報により、サーバーは埋め込まれたソリューションからの最初の GET リクエストから送信された JWT を検証することができます。

- オーディエンス JWT の作成時にオーディエンスのために入力された文字列と同じ文字列を入力してください (詳細に関しては [MobileTogether Designer ドキュメント](#) を参照してください)。

▼ LicenseServer

MobileTogether Server はネットワーク上で Altova LicenseServer に登録されている必要があります。LicenseServer 設定は、接続する LicenseServer マシンを指定し、MobileTogether Server を LicenseServer に登録することができます。ライセンスの供与に関しては [MobileTogether Server セットアップ](#) のセクションを参照してください。

- ネットワークで LicenseServers を検索するには、「検索」ボタンをクリックしてください。検出された LicenseServers がドロップダウンリストとしてコンボボックスに表示されます。このリストから 接続を希望する LicenseServer を選択します。
- サーバーアドレスを入力するには、「アドレス」ボタンをクリックして、サーバーのアドレスを入力してください。

LicenseServer が検出されると、「LicenseServer への登録」が有効化されます。LicenseServer に MobileTogether サーバーを登録するボタンをクリックします。「ライセンスの取得」をクリックして、LicenseServer へ移動し、MobileTogether Server にライセンスを与えます。

チャプター 5

Altova LicenseServer

5 Altova LicenseServer

Altova LicenseServer (今後は略して**LicenseServer** と称されます) は、Altova 製品のライセンスを集中して管理する場所です。ネットワークで動作するAltova アプリケーションはLicenseServer からライセンスを割り当てられます、ですから 管理者はライセンスを管理及び監視する柔軟性を有します。

現在のバージョン 2.5

* LicenseServer 2.5 はAltova MobileTogether Server バージョン4.1 または以前のバージョンにライセンスを供与するために使用することができます。4.1 よりも新しいバージョンにライセンスを供与するために使用することはできません。互換性に関する詳細は [LicenseServer の更新](#) を参照してください。

Altova LicenseServer ライセンスのプロセス

LicenseServer を介して、Altova サーバー製品にライセンスを割り当てるには、以下の手順を踏みます:

1. [LicenseServer の開始](#)
2. LicenseServer のWeb UI である[LicenseServer 構成ページ](#)を開きます。 [Windows](#)、[Linux](#)、または[macOS](#)
3. Altova to LicenseServer から受け取った[サーバー製品ライセンスをアップロードする](#)。構成ページ内の[ライセンスタブ](#)で行います。
4. LicenseServer でAltova サーバー製品 ([FlowForce Server](#)、[MapForce Server](#)、[StyleVision Server](#)、[RaptorXML\(+XBRL\) Server](#)) の登録を行います。
5. 構成ページの[クライアント管理](#) タブでAltova サーバーへの[ライセンスの割り当て](#)を行います。

今後、ライセンスは便利にLicenseServer で集中して監視および管理することができます。使用可能な機能については[構成ページレファレンス](#)を参照してください。

✖ [LicenseServer 構成ページ](#) は SSL をサポートしません。

▼ LicenseServer のバージョンと他のAltova 製品との互換性

Altova サーバー製品の新しいバージョンは、サーバー製品のリリース時に最新のバージョンであるLicenseServer のバージョンによりのみライセンスを受けることができます。ですが、Altova サーバー製品の古いバージョンは新しいバージョンのLicenseServer と動作することができます。

ですから 新しいバージョンのAltova サーバー製品をインストールする場合、現在のLicenseServer のバージョンが最新でない場合、この古いLicenseServer バージョンをアンインストールし、Altova Web サイトで利用可能な最新バージョンをインストールしてください。古いバージョンのLicenseServer の全ての登録およびライセンス情報は、アンインストール時にサーバーマシンのデータベースに保存され、新しいバージョンに自動的にインポートされます。新しいバージョンのLicenseServer をインストールする際は、古いバージョンを新しいバージョンをインストールするまでにアンインストールします。

現在インストールされているLicenseServer のバージョンは、[LicenseServer 構成ページ](#) (全てのタブ)の下部に表示されます。

現在のバージョン 2.5

このドキュメントについて

このドキュメントは、以下のパートに整理されています:

- 以下についての基本情報: [ネットワークの必要条件](#)、[Windows](#)、[Linux](#)、および[macOS](#)へのインストール方法、および[Altova ServiceController](#)。
- [ライセンスの割り当ての方法](#)は Altova LicenseServer を使用する順序を追ったライセンスの割り当ての方法を説明しています。
- [構成ページのレファレンス](#) LicenseServer での管理者のインターフェイスの説明。

最終更新日: 2018年 02月 26日

5.1 ネットワーク情報

Altova LicenseServer は、ライセンスを必要とする Altova 製品が作動するすべてのクライアントからアクセスできるサーバーマシンにインストールされている必要があります。クライアントとサーバーのファイアウォールは、LicenseServer が正しく作動するために必要な LicenseServer から入るネットワークトラフィックのポートを許可しなければなりません。

LicenseServer マシンでは **ポート 35355** がライセンス配布用に使用されます。ですので、クライアントマシンとネットワークトラフィックのために開かれている必要があります。

以下が LicenseServer のデフォルトのネットワークパラメータおよび必要条件です:

- LicenseServer ライセンス配布用:
以下的一方または両方
IPv4 TCP 接続 ポート 35355
IPv6 TCP 接続 ポート 35355

管理タスクに関しては、LicenseServer はポート 8088 を使用する Web インターフェイスからアクセスできます。使用するポートに関しては [条件に合った構成](#) を参照してください。

altova.com のマスターライセンスサーバーへの接続

Altova LicenseServer は、ライセンスに関連したデータを検証と認証し、Altova ライセンス使用許諾契約書への継続的な遵守を確認するため altova.com のマスター Licensing Server と通信する必要があります。この通信は HTTPS を介して、ポート 443 を使用して行われます。altova.com のマスター Licensing Server との最初の検証の後、Altova LicenseServer が altova.com と 5 日間 (= 120 時間)、再接続できない場合、Altova LicenseServer は Altova LicenseServer に接続して Altova ソフトウェア製品を使用することを許可しません。

Altova マスターサーバーへの接続損失は [Altova LicenseServer の構成ページのメッセージ \(Messages\) タブ](#) にエグされます。更に、管理者は、altova.com への接続が失われた場合、自動的に警告の電子メールを送信するように Altova LicenseServer を構成することができます。電子メールの設定の変更は [構成ページの設定 タブ](#) で行うことができます。

LicenseServer がクライアントマシンを識別する方法

LicenseServer を介して Altova 製品がライセンスを供与されている場合、ライセンスは、LicenseServer により特定のクライアントマシンに発行されているものとして記録されます。LicenseServer はクライアントマシンをクライアント IP アドレスの DNS サーバールックアップにより LicenseServer が取得するホスト名により識別します。ルックアップから他のホスト名が取得されない場合、クライアントの IP アドレス識別子として使用されます。その後、Altova 製品がクライアントマシンで起動されると、LicenseServer は、ライセンスの発行先がホスト名、または、クライアント IP アドレスに一致するのをチェックします。一致する場合、ライセンスの詳細が検証されます。

VPN が動的な IP アドレスと接続する方法

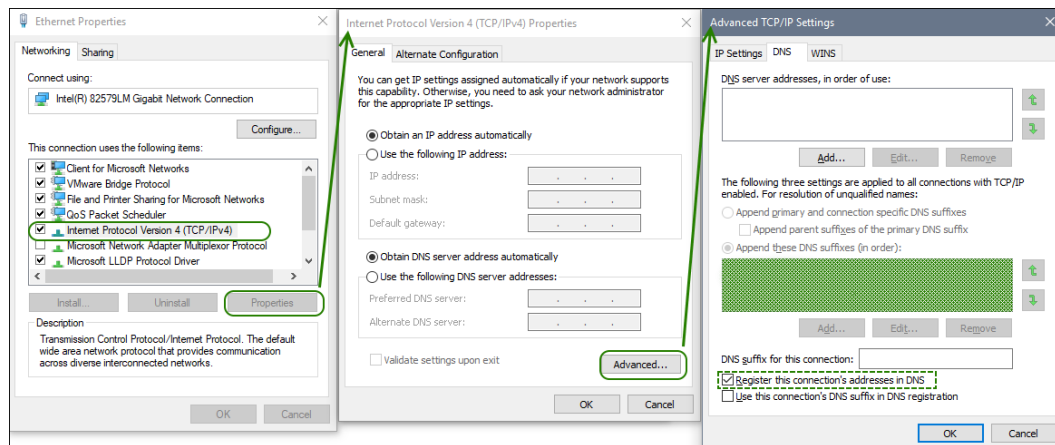
クライアントマシンが仮想プライベートネットワーク (VPN) サービスを介して LicenseServer に接続すると、接続は多くの場合、割り当てられた IP アドレスを使用して作成されます。この場合、クライアントによる新規の接続は、LicenseServer により受信される新規の IP アドレスとして記録され、このため、既知のクライアントとして認識されます (上記の「LicenseServer がクライアントマシンを識別する方法」を参照してください)。

この操作により以下の結果が発生します:

- クライアントの接続時、LicenseServer 上に**追加**ライセンスが存在する場合、新規のライセンスが既にあったり複数のライセンスが既に割り当て済みのクライアントに割り当てられます。クライアントに以前割り当てられているライセンスの割り当てが解除されます。この結果、単一のクライアントが複数のライセンスを消費し、サーバー上のライセンスの不足を招く可能性が発生します。
- LicenseServer に追加ライセンスが**存在しない**場合、そのクライアントに対して以前ライセンスが割り当てられていたにもかかわらず、(クライアントにより使用されていない IP アドレスにより) そのクライアント上の製品にライセンスを供与することはできません。

解決するには2つの方法があります:

- VPN クライアントを DNS を使用して登録する 操作方法は OS により異なります。Windows 10 クライアント上では、例えば クライアントネットワーク接続のプロパティよりセットアップを行うことができます (下のスクリーンショット参照)。



- VPN ユーザーに静的な IP アドレスを割り当てる。操作方法は、VPN ソフトウェアにより異なります。VPN プロバイダーまたは管理者から関連する情報を取得することができます。例えば、OpenVPN との操作を行う方法は [ここ](#) で説明されています。

5.2 LicenseServer の更新

(RaptorXML Server などの) Altova サーバー製品の新しいリリースでは、LicenseServer の新しいバージョン(対応するバージョン) がリリースされます。Altova **サーバー製品をアップデートすると、対応するLicenseServer バージョンにLicenseServer もアップデートされる必要があります**。対応するバージョンより古いLicenseServer バージョンはAltova サーバー製品にライセンスを割り当てることができません。しかしながら、LicenseServer バージョン下位互換性があります(これは、LicenseServer がAltova サーバー製品のバージョンより古い場合でもライセンスを割り当てるために使用できることを意味します)。

LicenseServer を以下のように更新します:

- *Windows* システム: 新しいバージョンのインストーラー(実行可能ファイル) をダブルクリック または、インストーラーをコマンドラインから呼び出します。インストーラーは、古いバージョンLicenseServer の古いバージョンをアンインストールし、新しいバージョンをインストールします。
- *Linux* および*macOS*: 古いバージョンを手動でアンインストールし、新しいバージョンのインストーラーファイルを開始します。

同じ条件が既にインストールされているLicenseServer (次を参照してください [Windows](#)、[Linux](#)、[macOS](#))適用されます。

5.3 インストール (Windows)

Altova LicenseServer はWindows システムに2通りの方法でインストールすることができます。

- 独立したインストール
- Altova サーバー製品の一部としてのインストール。 (Altova サーバー製品: Altova FlowForce Server、Altova MapForce Server、Altova StyleVision Server、Altova RaptorXML(+XBRL) および Altova MobileTogether Server)。Altova サーバー製品をインストールする際、LicenseServer がシステムにインストールされていない場合、LicenseServer のインストールのオプションはインストールセットアップ中にデフォルトで選択されます。LicenseServer が既にインストールされている場合、インストールするオプションは解除されます。デフォルトのオプションは変更可能です。

LicenseServer を使用して、ライセンスを割り当てる方法に関する情報は [ライセンスの割り当て方法](#) セクションを参照してください。

システムの必要条件

▼ Windows

プラットフォーム更新済みのWindows 7 SP1、Windows 8、Windows 10

▼ Windows Server

プラットフォーム更新済みのWindows Server 2008 R2 SP1 および以降

▼ LicenseServer のバージョンと他のAltova 製品との互換性

Altova サーバー製品の新しいバージョンは、サーバー製品のリリース時に最新のバージョンであるLicenseServer のバージョンによりのみライセンスを受けることができます。ですが、Altova サーバー製品の古いバージョンは新しいバージョンのLicenseServer と動作することができます。

ですから新しいバージョンのAltova サーバー製品をインストールする場合、現在のLicenseServer のバージョンが最新でない場合、この古いLicenseServer バージョンをアンインストールし、Altova Web サイトで利用可能な最新バージョンをインストールしてください。古いバージョンのLicenseServer の全ての登録およびライセンス情報は、アンインストール時にサーバーマシンのデータベースに保存され、新しいバージョンに自動的にインポートされます。新しいバージョンのLicenseServer をインストールする際は、古いバージョンを新しいバージョンをインストールするまでアンインストールします。

現在インストールされているLicenseServer のバージョンは [LicenseServer 構成ページ](#) (全てのタブ)の下部に表示されます。

現在のバージョン 2.5

サーバー製品の特定のバージョンに適切なLicenseServer のバージョン番号がインストールプロセスの最中に表示されます。サーバー製品と共にこのバージョンのLicenseServer をインストールすることができます。また、新しいバージョンのLicenseServer を個別にインストールすることもできます。どちらのケースのインストールは前のバージョンをアンインストールして、新しいバージョンをインストールします。

5.4 インストール (Linux)

Altova LicenseServer はLinux システム(Debian、Ubuntu、CentOS、RedHat) にインストールすることができます。

システムの必要条件

▼ Linux

- CentOS 6 または以降
- RedHat 6 または以降
- Debian 7 または以降
- Ubuntu 12.04 または以降

次のライブラリはアプリケーションをインストール実行するために必要とされるライブラリです。下のパッケージが使用中 Linux のマシンで使用できない場合、yum (または 適用できる場合、apt-get) をコマンドを実行してインストールしてください。

サーバー	CentOS、RedHat	Debian	Ubuntu
LicenseServer	krb5-libs	libgssapi-krb5-2	libgssapi-krb5-2
MobileTogether Server Advanced Edition	qt4, krb5-libs, qt-x11	libqtgui4, libgssapi-krb5-2	libqtgui4, libgssapi-krb5-2

古いバージョン LicenseServer のアンインストール

Linux コマンドラインインターフェイス(CLI) で以下のコマンドを使用してLicenseServer がインストールされているか確認することができます。

```
[Debian, Ubuntu]:  dpkg --get-selections | grep Altova
[CentOS, RedHat]:  rpm -qa | grep server
```

LicenseServer がインストールされていない場合、以下のステップでインストールしてください。LicenseServer がインストールされていて、新しいバージョンをインストールした場合、以下のコマンドを使用して古いバージョンをアンインストールしてください。

```
[Debian, Ubuntu]:  sudo dpkg --remove licenseserver
[CentOS, RedHat]:  sudo rpm -e licenseserver
```

Altova LicenseServer のインストール

Linux システムでは、LicenseServer は他のAltova サーバー製品と別途にインストールされる必要があり、Altova サーバー製品のインストールパッケージには含まれていません。[Altova Web サイト](#) からAltova LicenseServer をダウンロードして、直接 Linux システムのディレクトリにパッケージをコピーします。

デモバージョン

インストーラ
拡張子

Debian	.deb
Ubuntu	.deb
CentOS	.rpm
RedHat	.rpm

ターミナルウィンドウで、Linux パッケージをコピーしたディレクトリに切り替えます。例えば (/home/User ディレクトリに存在する、MyAltova という名のユーザーディレクトリにコピーした場合、以下のよう切り替えます:

```
cd /home/User/MyAltova
```

以下のコマンドを使用して LicenseServer をインストールします:

```
[Debian]: sudo dpkg --install licenseserver-2.5-debian.deb
[Ubuntu]: sudo dpkg --install licenseserver-2.5-ubuntu.deb
[CentOS]: sudo rpm -ivh licenseserver-2.5-1.x86_64.rpm
[RedHat]: sudo rpm -ivh licenseserver-2.5-1.x86_64.rpm
```

LicenseServer パッケージは以下にインストールされます:

```
/opt/Altova/LicenseServer
```

altovalicenserver という名前のユーザーが作成されます。LicenseServer **はこのユーザーによりアクセスされる必要があります。**これは、CentOS 7 上では以下の方法で行うことができます:

```
sudo runuser -l altovalicenserver -c '/opt/Altova/LicenseServer/bin/
licenseserver debug'
```

ライセンスの割り当ての方法に関する情報は、[ライセンスの割り当て方法](#)のセクションを参照してください。

▼ LicenseServer のバージョンと他の Altova 製品との互換性

Altova サーバー製品の新しいバージョンは、サーバー製品のリリース時に最新のバージョンである LicenseServer のバージョンによりのみライセンスを受けることができます。ですが、Altova サーバー製品の古いバージョンは新しいバージョンの LicenseServer と作動することができます。

ですから、新しいバージョンの Altova サーバー製品をインストールする場合、現在の LicenseServer のバージョンが最新でない場合、この古い LicenseServer バージョンをアンインストールし、Altova Web サイトで利用可能な最新バージョンをインストールしてください。古いバージョンの LicenseServer の全ての登録およびライセンス情報は、アンインストール時にサーバーマシンのデータベースに保存され、新しいバージョンに自動的にインポートされます。新しいバージョンの LicenseServer をインストールする際は、古いバージョンを新しいバージョンをインストールするまでアンインストールします。

現在インストールされている LicenseServer のバージョンは、[LicenseServer 構成ページ](#) (全てのタブ)の下部に表示されます。

現在のバージョン: 2.5

5.5 インストール (macOS)

Altova LicenseServer は (Mac) OS X、macOS システムにインストールすることができます (下記のシステムの必要条件を参照してください)。前のバージョンがアンインストールする必要がある場合は、アンインストールを先に行ってください。

システムの必要条件

- ▼ (Mac) OS X、macOS
 - OS X 10.10、または以降

古いバージョン LicenseServer のアンインストール

LicenseServer をアンインストールする前に、以下のコマンドでサービスを停止します:

```
sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.altova.LicenseServer.plist
```

サービスが停止されたか確認するには、アクティビティモニター ターミナルを開き、LicenseServer が停止していることを確認します。

アプリケーション で LicenseServer アイコンを右クリックし、**ゴミ箱へ移動** を選択します。アプリケーションはゴミ箱に移動されます。しかし、usr フォルダからアプリケーションを削除しなければならない。このためには以下のコマンドを使用します:

```
sudo rm -rf /usr/local/Altova/LicenseServer
```

Altova LicenseServer のインストール

ダウンロードページ <http://www.altova.com/ja/download.html> を開き、Mac のためのサーバーソフトウェア製品の中から Altova LicenseServer を検索します。イメージ (.dmg) ファイルをダウンロード後、クリックして開きます。これにより新しい仮想ドライブがコンピュータにマウントされます。仮想ドライブで、パッケージ (.pkg) ファイルをダブルクリックして、画面上の指示に従います。手続きを続けるには、使用許可承諾書に同意する必要があります。

LicenseServer パッケージは以下のフォルダーにインストールされます:

```
/usr/local/Altova/LicenseServer
```

altovalicenserver という名前のユーザーが作成されます。LicenseServer はこのユーザーによりアクセスされる必要があります。

インストール後仮想ドライブを取り出すには、右クリックして、**取り出し** を選択します。

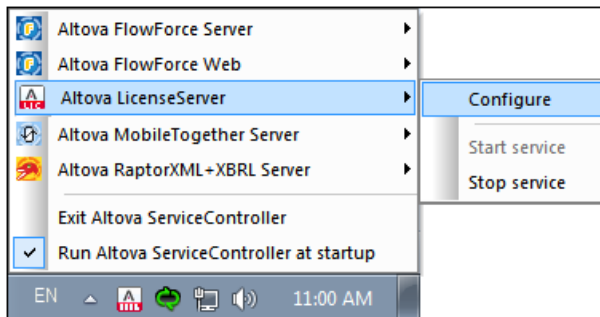
5.6 Altova ServiceController

Altova ServiceController (略してServiceController) はWindows **システム上で** Altova サービスを便利に開始、停止、構成できるアプリケーションです。

ServiceController は Altova LicenseServer とおよび サービスとしてインストールされる Altova サーバー製品 (FlowForce Server, RaptorXML(+XBRL) Server, and Mobile Together Server) と共にインストールされます。 **スタート | Altova LicenseServer | Altova ServiceController** をクリックして開始されます。(このコマンドは Altova サーバー製品がサービスとしてインストールされている (FlowForce Server, RaptorXML(+XBRL) Server, and Mobile Together Server) **スタート** メニューフォルダーでも利用可能です。) ServiceController が開始した後、システムトレイからアクセスすることができます。(下部スクリーンショット)。



システムログイン時に ServiceController の自動開始を指定するには、システムトレイの **ServiceController** アイコンをクリックして **ServiceController** メニューを表示します (下部スクリーンショット)。 **スタートアップ時に Altova ServiceController を作動する (Run Altova ServiceController at Startup)** コマンドは切り替えます。(このコマンドはデフォルトで切り替えられています。) ServiceController を終了するには、システムトレイの **ServiceController** アイコンをクリックして、表示されるメニューから **Altova ServiceController の終了 (Exit Altova ServiceController)** をクリックします (下部スクリーンショット参照)。



サービスの開始と停止

インストールされた Altova サービスコンポーネントは ServiceController メニューでエントリとして表示されます (上部スクリーンショット参照)。 Altova サービスは ServiceController のサブメニューのコマンドを介して開始または停止することができます。更に、ServiceController メニューを介して、個別サービスの管理タスクにアクセスすることができます。上部のスクリーンショットでは、例えば、Altova LicenseServer サービスにはサブメニューがあり、**構成 (Configure)** コマンドを介して LicenseServer の構成ページにアクセスすることを選択できます。

5.7 ライセンスの割り当て方法

Altova LicenseServer を使用して、Altova 製品にライセンスを与えるには以下の手順を踏んでください。

1. [LicenseServer の開始](#)
2. [Windows](#)、[Linux](#)、または [macOS](#) で LicenseServer の管理者のインターフェイスである [LicenseServer 構成ページ](#) を開きます。
3. Altova から Altova LicenseServer のライセンスプールへ受信された [ライセンス](#) をアップロードします。LicenseServer 構成ページの [ライセンスプール\(License Pool\)](#) タブを行います。
4. Altova サーバー製品 ([FlowForce Server](#)、[MapForce Server](#)、[StyleVision Server](#)、[RaptorXML\(+XBRL\) Server](#)) を LicenseServer で [登録](#) します。製品の種類により LicenseServer への登録方法は異なります。製品の Web UI またはコマンドラインを介しての登録。詳細に関しては、Altova サーバー製品のドキュメンテーションを参照してください。
5. [LicenseServer 構成ページ](#) の [クライアント管理](#) タブで、Altova 製品に [ライセンスの割り当て](#) を行うことができます。

コアとライセンスについてのメモ

Altova サーバー製品へのライセンスは製品マシンで使用可能なプロセッサ コア の数をベースとしています。例えば、デュアルコアプロセッサはコアが2つ、クワッドコアプロセッサはコアが4つ、ヘキサコアプロセッサはコアが6つ等々。特定のサーバーマシン上の製品にライセンスされたコアの数は、物理または仮想マシンで、サーバーで使用可能なコア数より多くまたは同数である必要があります。例えば、サーバーが8コア(オクタルコアプロセッサ)の場合、少なくとも8-コアライセンスを購入する必要があります。また、ライセンスを合計してコア数を満たすこともできます。2つの4-コアライセンスは8-コアライセンスの代わりにおクタルコアサーバーで使用できます。

大きいCPU コアを持つコンピューターサーバーを使用し、少量を処理する場合、少ないコアを割り当てる仮想マシンを作成し、その数のライセンスを購入することもできます。このようなデプロイは、もちろん、サーバーの全ての利用可能なコアが利用されている場合に比べ、処理スピードが落ちます。

メモ 各 Altova サーバー製品のライセンスは、使用されていないライセンス容量があっても、1度に1つのクライアントマシンにのみ使用することができます。例えば10-コアライセンスが6 CPU コアのクライアントマシンで使用される場合、残りの4 コアライセンスは他のマシンで同時に使用することはできません。

メモ サービスの機能のため、MobileTogether Server Advanced Edition は2つまたは以上のコアを持つマシン上のみで動作します。

MobileTogether Server ライセンス

MobileTogether Server ライセンスには2つの種類があります。カスタマーは必要に応じてライセンスの種類を選択することができます。

- **コアライセンス** サーバーマシンのコア数をベースとして MobileTogether Servers に割り当てられます。上の例を参照してください。上の説明を参照してください。コアライセンスは、無制限の数量の MobileTogether クライアントデバイスによりサーバーへの接続を許可します。しかしながら、単一スロットの実行「チェックボックス」がチェックされていると1度に MobileTogether Server に接続できるモバイルデバイスは1台です。これは、評価といふ規模のテストを行う際に役立ちます。この場合、2台目のモバイルデバイスが MobileTogether Sever に接続される場合、ライセンス2台目が使用できるようになります。最初のデバイスは接続できないようになり、エラーメッセージが表示されます。
- **デバイスライセンス** MobileTogether Server にいつでも接続することのできる MobileTogether Client デバイスの最高使用数を指定します。

5.7.1 LicenseServer の開始

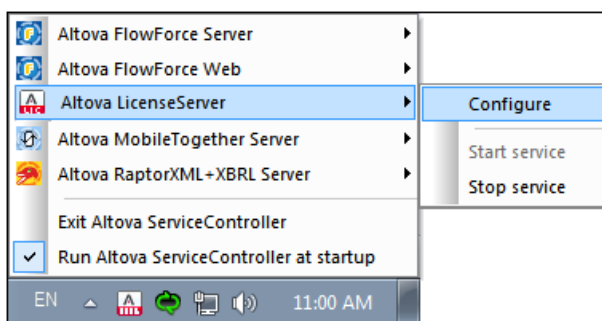
このセクション

- [Windows システム](#) でのLicenseServer の開始方法
- [Linux システム](#) でのLicenseServer の開始方法
- [macOS システム](#) でのLicenseServer の開始方法
- [altova.com](#) への接続 についてのメモ

Windows システム

システムトレイにあるAltova ServiceController を介して、LicenseServer を開始します。

最初に、**スタート | すべてのプログラム | Altova LicenseServer | Altova ServiceController** をクリックして、Altova ServiceController を開始して、システムトレイのアイコンを表示します (下のスクリーンショット参照)。スタートアップオプションでAltova ServiceController の実行を選択すると Altova ServiceController が開始し、システムトレイアイコンが利用可能になります。



LicenseServer を開始するには、システムトレイのサービスコントローラ(ServiceController) アイコンをクリックします。ポップアップしたメニューの**Altova LicenseServer** をポイントして、(下のスクリーンショット参照)、LicenseServer サブメニューから **サービスの開始** (Start Service) を選択します。LicenseServer が既に動作している場合、Start Service オプションは無効化されます。

Linux システム

LicenseServer をサービスとしてLinux システムで開始するには、ターミナルウィンドウで以下のコマンドを実行します:

```
[Debian 7]:      sudo /etc/init.d/licenseserver start
[Debian 8]:      sudo systemctl start licenseserver
[Ubuntu <=14]:   sudo initctl start licenseserver
[Ubuntu 15]:     sudo systemctl start licenseserver
[CentOS 6]:      sudo initctl start licenseserver
[CentOS 7]:      sudo systemctl start licenseserver
[RedHat]:        sudo initctl start licenseserver
```

(LicenseServer を停止する必要がある場合、上記のコマンドの **start** を **stop** と置換えてください。)

macOS システム

LicenseServer をサービスとして macOS システムで開始するには、ターミナルウィンドウで以下のコマンドを実行します:

```
sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.altova.LicenseServer.plist
```

LicenseServer を停止する必要がある場合、以下を使用します:

```
sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.altova.LicenseServer.plist
```

altova.com のマスターライセンスサーバーへの接続

Altova LicenseServer は、ライセンスに関連したデータを検証と認証し、Altova ライセンス使用許諾契約書への継続的な遵守を確認するため altova.com のマスター Licensing Server と通信する必要があります。この通信は HTTPS を介して、ポート 443 を使用して行われます。altova.com のマスター Licensing Server との最初の検証の後、Altova LicenseServer が altova.com と 5 日間 (= 120 時間)、再接続できない場合、Altova LicenseServer は Altova LicenseServer に接続して Altova ソフトウェア製品を使用することを許可しません。

Altova マスターサーバーへの接続損失は [Altova LicenseServer の構成ページのメッセージ \(Messages\) タブ](#) にログされます。更に、管理者は、altova.com への接続が失われた場合、自動的に警告の電子メールを送信するように Altova LicenseServer を構成することができます。電子メールの設定の変更は [構成ページの設定 タブ](#)で行うことができます。

5.7.2 LicenseServer の構成ページの開きかた (Windows)

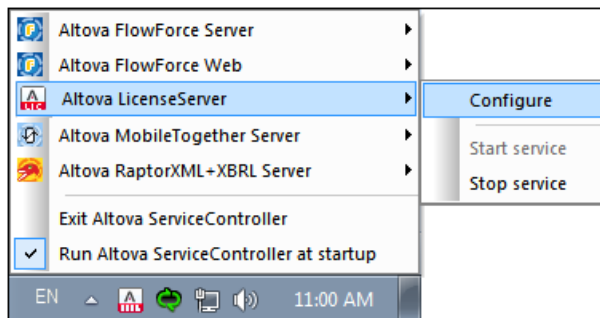
このセクション

- [LicenseServer が同じコンピュータにある場合の構成ページの開きかた](#)
- [LicenseServer が他のコンピュータにある場合の構成ページの開きかた](#)
- [初回パスワードでのログイン](#)
- [構成ページの固定ポートの設定](#)

LicenseServer が同じコンピュータにある場合の構成ページの開きかた

Windows システムで、LicenseServer が既にコンピュータにある場合、LicenseServer の[構成ページ](#)を2通りの方法で開くことができます。

- **スタート | すべてのプログラム | Altova LicenseServer | LicenseServer 構成ページ (Configuration Page)** をクリックします。構成ページはインターネットブラウザの新しいタブとして開かれます。
- システムトレイの Altova ServiceController アイコンをクリックします。ポップアップしたメニューの **Altova LicenseServer** (下のスクリーンショット参照) をポイントして **構成** (Configure) を LicenseServer サブメニューから選択します。



[構成ページ](#) は新しいブラウザウィンドウで開かれ、ログインマスクが表示されます (下のスクリーンショット)。

LicenseServer が他のコンピュータにある場合の設定ページの開きかた

LicenseServer [構成ページ](#) をローカルネットワークの LicenseServer がインストールされている他の Windows マシンから開く場合、ブラウザのアドレスバーに LicenseServer [構成ページ](#) URL を入力して、**Enter** を押します。構成ページのデフォルトの URL 以下の通りです。

`http://<serverIPAddressOrName>:8088/`

構成ページ自身の HTML コードで示される `webUI.html` という名前の URL は以下で見つけることができます。

`C:/ProgramData/Altova/LicenseServer/WebUI.html`

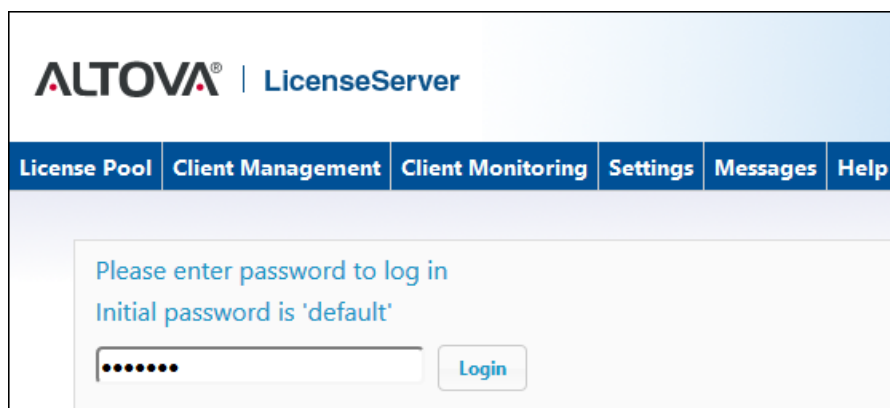
[構成ページの URL の設定](#) を動的に生成した場合、(構成ページの設定タブで、LicenseServer を開始する都度、新しい URL が生成されます。 `webUI.html` の現在のバージョンをチェックして、[構成ページ](#) の現在の URL を確認してください。

WebUI.html 内で動的に生成された URL は以下のようフォームで表示されます:

http://127.0.0.1:55541/optionally-an-additional-string、<head> 要素の終わり近くのスクリプト内の関数 checkIfServiceRunning() にあります。URL 内のポート番号のみ動的に割り当てられますが、IP アドレスは部分的に LicenseServer がインストールされたサーバーを識別します。LicenseServer [構成ページ](#) を他のマシンからアクセスする場合、URL の IP アドレスが LicenseServer がインストールされているサーバーの正確な IP アドレスまたは名前であることを確認してください。例えば、URL は以下のようになります: http://SomeServer:55541。

初回パスワードでのログイン

上記のステップを踏んだ後、[構成ページ](#) のログインマスクが表示されます(下のスクリーンショット)。初回パスワード default でログインすることができます。ログインした後、[設定\(Settings\)](#) タブでパスワードを変更することができます。



構成ページの固定または動的ポートの設定

構成ページ(Web UI)のポート? と結果的にアドレス? は[設定\(Settings\) ページ](#)にて指定することができます。デフォルトのポートは8088 です。LicenseServer [構成ページ](#)(下のスクリーンショット参照)の他のポートを設定することもできます。また、LicenseServer が開始されるビルドポートを動的に選択することも許可されています。この場合、構成ページの URL をファイル WebUI.html から検索する必要があります。([LicenseServer 構成ページ\(Windows\) を開く](#)、[LicenseServer 構成ページを開く\(Linux\)](#) と [LicenseServer 構成ページを開く\(macOS\)](#))。

Web UI

Changing these settings will cause the LicenseServer to restart and any currently running and licensed applications will be shut down!

Configure the host addresses where the web UI is available to administrators.

☒ All interfaces and assigned IP addresses

☐ Only the following hostname or IP address:

Ensure this hostname or IP address exists or LicenseServer will fail to start!

Configure the port used for the web UI.

☐ Dynamically chosen by the operating system

☒ Fixed port

Ensure this port is available or LicenseServer will fail to start!

固定ポートの利点は、ページURL が事前には把握することができ、そのため、簡単にアクセスすることができます。ポートが動的に割り当てられる場合、URL のポートの部分は LicenseServer が開始されるたびにファイル `webUI.html` から検索される必要があります。

5.7.3 LicenseServer の構成ページの開きかた (Linux)

このセクション

- [返された URL で構成ページを初めて開く](#)
- [LicenseServer 構成ページの URL](#)
- [初回パスワードでのログイン](#)
- [ページ構成ページの固定ポートの設定](#)

返された URL で構成ページを初めて開く

Linux システムでは、CLI を介して LicenseServer に Altova サーバー製品を登録した場合、LicenseServer の構成ページの URL が返されます。ブラウザでこの URL を開く際、ライセンス使用許諾契約書を読んで合意するようプロンプトされます。ライセンス使用許諾契約書に合意した後、構成ページのログインマスクが表示されます(下のスクリーンショット)。

✖ Altova デスクトップ製品は、Windows のみで使用することができます。

LicenseServer 構成ページの URL

LicenseServer [構成ページ](#) 開くには、アドレスバーに URL を入力して、**Enter** を押します。構成ページのデフォルトの URL は以下の通りです:

```
http://<serverIPAddressOrName>:8088/
```

構成ページ自身の HTML コードで示された `webUI.html` という名前の URL は以下で見つけることができます:

```
/var/opt/Altova/LicenseServer/webUI.html
```

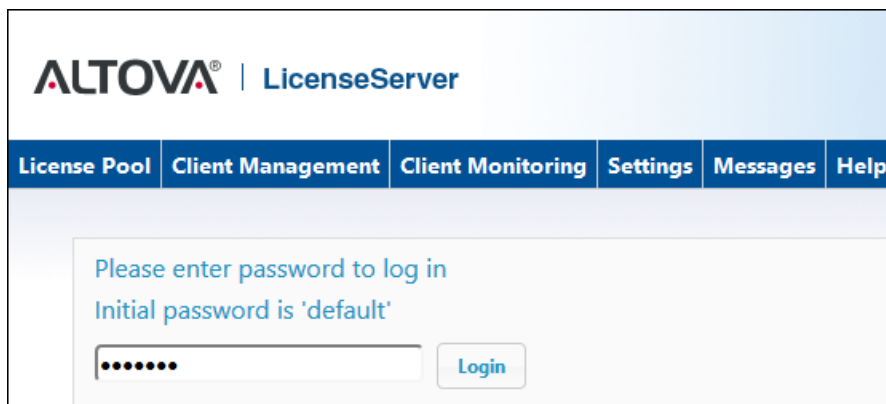
[構成ページの URL の設定](#) を動的に生成した場合、(構成ページの設定タブで、LicenseServer を開始する都度、新しい URL が生成されます。 `webUI.html` の現在のバージョンをチェックして、[構成ページ](#) の現在の URL を確認してください。

`webUI.html` 内で動的に生成された URL は以下のようなフォームで表示されます:

`http://127.0.0.1:55541`。 `<head>` 要素の終わり近くのスクリプト内の関数 `checkIfServiceRunning()` にあります。URL 内のポート番号のみ動的に割り当てられますが、IP アドレスは自動的に LicenseServer がインストールされたサーバーを識別します。LicenseServer [構成ページ](#) を他のマシンからアクセスする場合、URL の IP アドレスが LicenseServer がインストールされているサーバーの正確な IP アドレスまたは名前であることを確認してください。例えば、URL は以下のようになります: `http://MyServer:55541`。

初回パスワードでのログイン

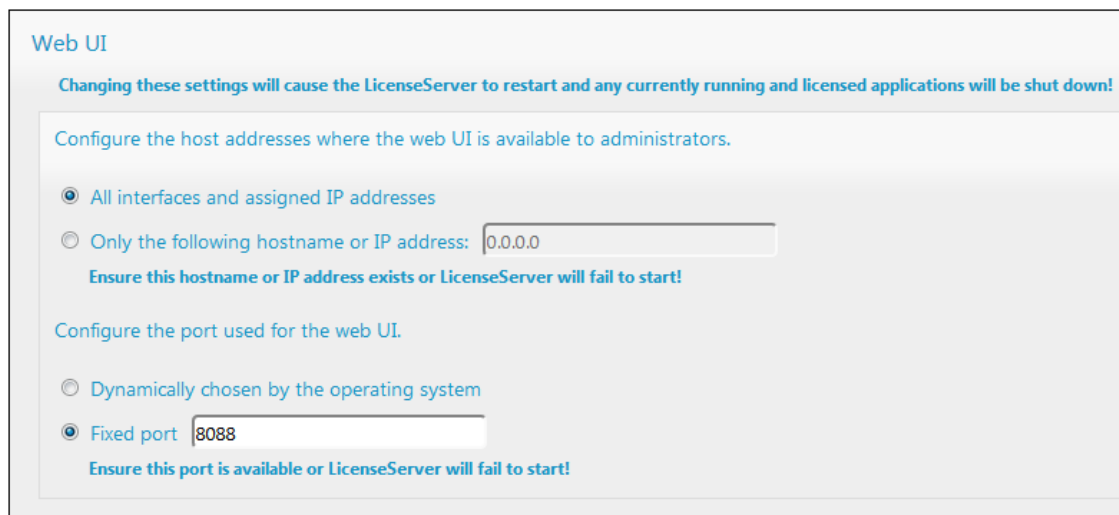
上記のステップを踏んだ後、[構成ページ](#) のログインマスクが表示されます(下のスクリーンショット)。初回パスワード `default` でログインすることができます。ログインした後、[設定\(Settings\)](#) タブでパスワードを変更することができます。



The image shows the login interface of the Altova LicenseServer. At the top, there is a header with the 'ALTOVA' logo and the text 'LicenseServer'. Below the header is a navigation bar with tabs: 'License Pool', 'Client Management', 'Client Monitoring', 'Settings', 'Messages', and 'Help'. The main content area contains a login prompt: 'Please enter password to log in' and 'Initial password is 'default''. There is a password input field with a masked password '.....' and a 'Login' button.

構成ページの固定または動的ポートの設定

構成ページ(Web UI)のポート? と結果的にアドレス? は [設定 \(Settings\) ページ](#) にて指定することができます。デフォルトのポートは8088 です。LicenseServer [構成ページ](#) (下のスクリーンショット参照)の他のポートを設定することもできます。また、LicenseServer が開始されるまでポートを動的に選択することも許可されています。この場合、構成ページのURL をファイルWebUI.htmlから検索する必要があります。([LicenseServer 構成ページ\(Windows\) を開く](#)、[LicenseServer 構成ページを開く\(Linux\)](#) と [LicenseServer 構成ページを開く\(macOS\)](#))。



The image shows the 'Web UI' configuration page. It has a title 'Web UI' and a warning: 'Changing these settings will cause the LicenseServer to restart and any currently running and licensed applications will be shut down!'. The first section is 'Configure the host addresses where the web UI is available to administrators.' with two radio buttons: 'All interfaces and assigned IP addresses' (selected) and 'Only the following hostname or IP address: 0.0.0.0'. Below the second option is a note: 'Ensure this hostname or IP address exists or LicenseServer will fail to start!'. The second section is 'Configure the port used for the web UI.' with two radio buttons: 'Dynamically chosen by the operating system' and 'Fixed port 8088' (selected). Below the 'Fixed port' option is a note: 'Ensure this port is available or LicenseServer will fail to start!'.

固定ポートの利点は、ページURL が事前に把握することができます。そのため、簡単にアクセスすることができます。ポートが動的に割り当てられる場合、URL のポートの部分はLicenseServer が開始されるまでファイルをWebUI.htmlから検索する必要があります。

5.7.4 LicenseServer の構成ページの開きかた (macOS)

このセクション

- [返された URL で構成ページを初回開く](#)
- [LicenseServer 構成ページの URL](#)
- [初回パスワードでのログイン](#)
- [構成ページの固定ポートの設定](#)

返された URL で構成ページを初回開く

macOS システムでは、CLI を介して LicenseServer に Altova サーバー製品を登録した場合、LicenseServer の構成ページの URL が返されます。ブラウザでこの URL を開く際、ライセンス使用許諾契約書を読んで合意するようにプロンプトされます。ライセンス使用許諾契約書に合意した後、構成ページのログインマスクが表示されます(下のスクリーンショット)。

✖ Altova デスクトップ製品は、Windows のみで 사용할 수 있습니다。

LicenseServer 構成ページの URL

LicenseServer [構成ページ](#) 開くには、アドレスバーに URL を入力して、**Enter** を押します。構成ページのデフォルトの URL は以下の通りです:

```
http://<serverIPAddressOrName>:8088/
```

構成ページ自身の HTML コードで示された `webUI.html` という名前の URL は以下で見つけることができます:

```
/var/Altova/LicenseServer/webUI.html
```

[構成ページの URL の設定](#) を動的に生成した場合、(構成ページの設定タブで)、LicenseServer を開始する都度、新しい URL が生成されます。webUI.html の現在のバージョンをチェックして、[構成ページ](#) の現在の URL を確認してください。

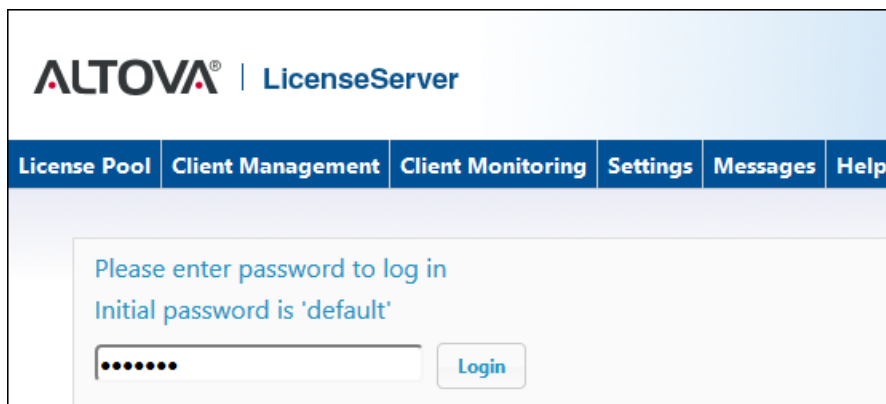
webUI.html 内で動的に生成された URL は以下のようなフォームで表示されます:

http://127.0.0.1:55541。<head> 要素の終わり近くのスクリプト内の関数 `checkIfServiceRunning()` にあります。URL 内のポート番号のみが動的に割り当てられますが、IP アドレスは部分的に LicenseServer がインストールされたサーバーを識別します。LicenseServer [構成ページ](#) を他のマシンからアクセスする場合、URL の IP アドレスが LicenseServer がインストールされているサーバーの正確な IP アドレスまたは名前であることを確認してください。例えば、URL は以下のようになります: `http://MyServer:55541`。

✖ [構成ページ](#) はまた、**ウィンドー | アプリケーション | Altova License Server** アイコンを介してアクセスすることもできます。

初回パスワードでのログイン

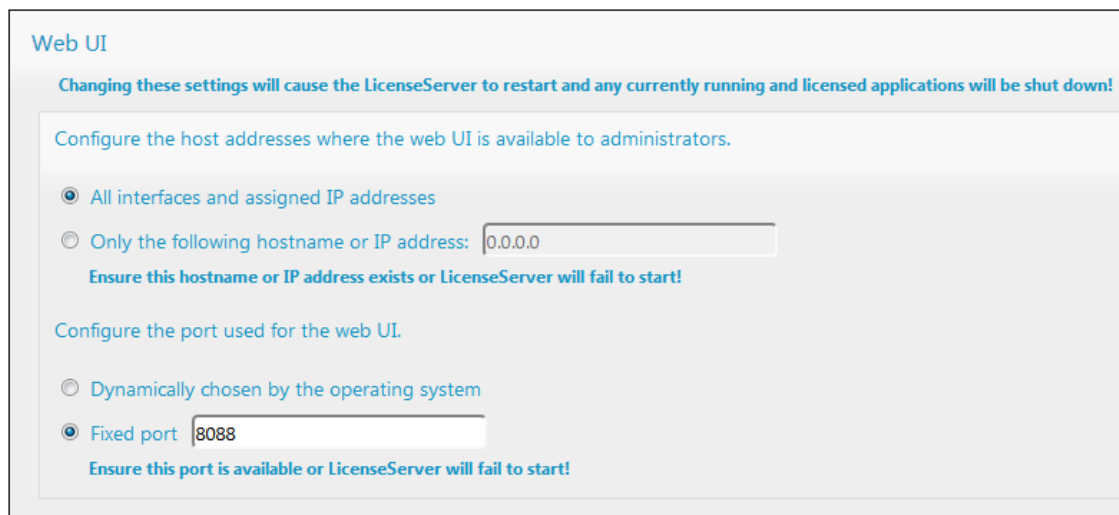
上記のステップを踏んだ後、[構成ページ](#) のログインマスクが表示されます(下のスクリーンショット)。初回パスワード default でログインすることができます。ログインした後、[設定\(Settings\)](#) タブでパスワードを変更することができます。



The image shows the login interface of the Altova LicenseServer. At the top, there is a header with the 'ALTOVA' logo and the text 'LicenseServer'. Below the header is a navigation bar with tabs: 'License Pool', 'Client Management', 'Client Monitoring', 'Settings', 'Messages', and 'Help'. The main content area contains a login prompt: 'Please enter password to log in' and 'Initial password is 'default''. There is a password input field with masked characters (dots) and a 'Login' button.

構成ページの固定または動的ポートの設定

構成ページ(Web UI)のポート? と結果的にアドレス? は [設定 \(Settings\) ページ](#) にて指定することができます。デフォルトのポートは8088 です。LicenseServer [構成ページ](#) (下のスクリーンショット参照)の他のポートを設定することもできます。また、LicenseServer が開始されるまでポートを動的に選択することも許可されています。この場合、構成ページのURL をファイルWebUI.htmlから検索する必要があります。([LicenseServer 構成ページ\(Windows\) を開く](#)、[LicenseServer 構成ページを開く\(Linux\)](#) と [LicenseServer 構成ページを開く\(macOS\)](#))。



The image shows the 'Web UI' configuration page. It has a title 'Web UI' and a warning: 'Changing these settings will cause the LicenseServer to restart and any currently running and licensed applications will be shut down!'. The page is divided into two sections. The first section is 'Configure the host addresses where the web UI is available to administrators.' with two radio button options: 'All interfaces and assigned IP addresses' (selected) and 'Only the following hostname or IP address: 0.0.0.0'. Below the second option is a text input field containing '0.0.0.0' and a warning: 'Ensure this hostname or IP address exists or LicenseServer will fail to start!'. The second section is 'Configure the port used for the web UI.' with two radio button options: 'Dynamically chosen by the operating system' and 'Fixed port 8088' (selected). Below the 'Fixed port' option is a text input field containing '8088' and a warning: 'Ensure this port is available or LicenseServer will fail to start!'.

固定ポートの利点は、ページURL が事前に把握することができます。そのため、簡単にアクセスすることができます。ポートが動的に割り当てられる場合、URL のポートの部分はLicenseServer が開始されるまでファイルをWebUI.htmlから検索する必要があります。

5.7.5 ライセンスの LicenseServer へのアップロード

このセクション

- [ライセンスをLicenseServer のライセンスプールへアップロード](#)
- [License 状態](#)
- [使用を希望するライセンスのアクティブ化](#)
- [次のステップ](#)

ライセンスのを LicenseServer のライセンス プールへアップロード

Altova からライセンスを取得した後、ライセンスを Altova LicenseServer にアップロードする必要があります。各ライセンスファイルは購入により1 つ以上のライセンスを含みます。ライセンスファイルをアップロードする際、ファイルのすべてのライセンスがLicenseServer のライセンスプールにアップロードされ、LicenseServer に登録されたAltova 製品に割り当てられます。アップロードされた1 つまたは1 以上のライセンスファイルからのAltova 製品のライセンスは、すべてLicenseServer の1 つのライセンスプールに収集されます。ライセンスプールはLicenseServer の構成ページのライセンスプールタブに表示されます(下のスクリーンショット)。

ライセンスはライセンスプールタブのアップロード機能を使用してLicenseServer にアップロードされます(スクリーンショット参照)。

Status	Name	Company	Product	Edition	Version	Key Code	Bundle ID	Start Date	End Date	Expires in days	SMP days left	#	License Type	Clients
☐ Active	Altova Document: Altova Gmb	Altova Gmb	DatabaseS	Enterprise Editi	2015 rel. 4	GWS36BI-	{D5FC74C	2015-06	-	-	355	50	Installed User	0/50 users
☐ Active	Altova Document: Altova Gmb	Altova Gmb	FlowForce Ser		2015 rel. 4	9EJUP0P-	-	2015-05	-	-	328	8	CPU Cores	1/50 machir
☐ Active	Altova Document: Altova Gmb	Altova Gmb	MapForce	Enterprise Editi	2015 rel. 4	BCEB4BI-	{D5FC74C	2015-06	-	-	355	50	Installed User	0/50 users
☐ Active	Altova Document: Altova Gmb	Altova Gmb	MapForce Ser		2015 rel. 4	23A8TT1-	-	2015-05	-	-	328	8	CPU Cores	1/50 machir
☒ Active	Altova Document: Altova Gmb	Altova Gmb	RaptorXML+X		2015 rel. 4	M2L0CMY-	-	2015-05	-	-	328	16	CPU Cores	running assigned
☐ Active	Altova Document: Altova Gmb	Altova Gmb	RaptorXML Se		2015 rel. 4	847AXW4-	-	2015-05	-	-	328	16	CPU Cores	
☐ Active	Altova Document: Altova Gmb	Altova Gmb	SchemaAg		2015 rel. 4	GWVBWBI-	{D5FC74C	2015-06	-	-	355	50	Installed User	0/50 users

Activate Deactivate Delete

Upload License File Browse... No files selected. Upload

ライセンスファイルは、ライセンスプール(License Pool) タブのライセンスファイルのアップロード(Upload License File)機能を使用して、LicenseServer にアップロードされます(上のスクリーンショット参照)。 **参照** (Browse) ボタンをクリックして希望するライセンスファイルを選択します。ライセンスファイルのアップロード(Upload License File) テキストフィールドにライセンスファイルが表示され、 **アップロード** (Upload) ボタンが有効化されます。 **アップロード** (Upload) ボタンをクリックしてライセンスファイルをアップロードします。ファイルの全てのライセンスは、アップロードされたライセンスプールタブに表示されます。下のスクリーンショットは、複数のライセンスファイルからアップロードされた複数のライセンスを表示しています。

ライセンスの状態

ライセンスの状態の値は以下の通りです:

- **アクティブ化**: ライセンスが LicenseServer のライセンスプールにアップロードされると、サーバーはライセンスに関連したデータを altova.com マスターライセンスサーバーに検証、認証、与えられたライセンスをアクティブ化するために送信します。これは、Altova ライセンス使用許諾契約書への順守を確認するためが必要です。通常 30 秒から数分かかります。初回アクティブ化と認証トラザクション中、インターネットの接続スピードとネットワークの交通量にもよりますが、ライセンスの状態は**アクティブ化 (Activating...)** と表示されます。
- **失敗した検証**: altova.com マスターライセンスサーバーへの接続が確立しなかった場合、プール内のライセンスの状態は**失敗した検証 (Failed Verification)** と表示されます。これは起こり得ることですので、インターネットの接続とファイアウォールのルールを確認して、LicenseServer が altova.com マスターライセンスサーバーと通信できるように確認してください。
- **アクティブ**: ライセンスが認証されてアクティブ化されると、状態は**アクティブ (Active)** に変更されます。
- **非アクティブ**: ライセンスが検証されたが、ネットワークの他の LicenseServer に存在する場合、状態は**非アクティブ (Inactive)** と表示されます。非アクティブ状態は、管理者がライセンスプール内でのライセンスを手動で非アクティブ化に設定した際におこります。
- **保留**: ライセンスの開始の日付が未来の日付である場合、ライセンスは**保留**として表示されます。00:00 時に有効化にステータスを変更されます。この状態は、製品に割り当てることができ、現在のライセンスの有効期限が切れた場合でも、製品に対するライセンスが継続されることを保証します。新規のライセンスへの変更は、スムーズな変換であり、クライアントプロセスを実行する必要はありません。
- **ブロックされた**: ライセンスの認証に問題がある場合、ライセンスは**ブロックされた (Blocked)** と表示されます。また altova.com マスターライセンスサービスが、このライセンスを使用する許可を与えていない場合も表示されます。これはライセンスの過剰使用、またはコンプライアンスの問題などのため、のライセンス使用許諾の違反になる可能性があります。問題を解決すると、ライセンスが削除、再アップロード、再度アクティブ化します。追加情報に関しては下記を参照してください。

これらの状態は以下のテーブルにまとめられています:

状態	意味
アクティブ化 Activating...	アップロードする際、ライセンスの情報は altova.com に検証のために送信されます。アップデータされた状態を確認するためにブラウザを更新してください。検証とアクティブ化は数分かかります。
失敗した検証 Failed Verification	altova.com への接続が確立しませんでした。接続を確立し、サーバーを再開するか (Activate) ボタンを使用してライセンスをアクティブ化します。
アクティブ Active	検証に成功し、ライセンスはアクティブ化されました。
非アクティブ Inactive	検証はお成功しましたが、ライセンスがネットワークの他の LicenseServer に存在します。ライセンスは Deactivate ボタンにより非アクティブ化することができます。
保留中 Pending	保留中のライセンスには、開始と終了の日付が存在し、開始日にアクティブに切り替えられます。製品に割り当てることが出来、ライセンスの有効期限が切れる前に製品のライセンスの自動更新をおこなうことができます。

ブロックされた Blocked	検証が成功しませんでした。ライセンスは無効でブロックされています。 Altova サポート に連絡してください。ライセンスをブロックしている問題が解決されると、ライセンスを削除、再ロード、またはライセンスをアクティブに設定することができます。ライセンスが更新される都度、新規の検証を開始するAltova マスターサーバーに通信します。再度アップロードを行わない場合、ライセンスの検証は、計画されているAltova マスターサーバーとの通信まで保留になり、同日に発生しない場合があります。
--------------------	---

- ✖️ ライセンスがaltova.com に検証のため送信された後、アップデートされた状態を確認するためにブラウザを更新する必要があります。検証とアクティブ化は数分かかります。
- ✖️ altova.com への接続が確立しない場合、状態は失敗した検証 (Failed Verification) と表示されます。接続を確立した後、への接続が確立しませんでした。接続を確立し、サーバーを再開する (**Activate**) ボタンを使用してライセンスをアクティブ化します。
- ✖️ ライセンス状態が非アクティブまたはブロックされたと表示されている場合、ステータスを説明したメッセージがメッセージログに追加されます。

製品のインストールにはアクティブな、または 保留されているライセンスのみを割り当てることができます。非アクティブなライセンスはアクティブ化されるか、またはライセンスプールから削除することができます。ライセンスがライセンスプールから削除された場合、ライセンスファイルを再度アップロードすることでアップロードできます。ライセンスファイルがアップデートされると、プールに存在しないライセンスのみがアップロードされます。ライセンスをアクティブ化、非アクティブ化、または削除するには、それぞれ **Activate**、**Deactivate** または **Delete** ボタンをクリックしてください。

使用を希望するライセンスのアクティブ化

Altova 製品へライセンスを割り当て前に、ライセンスをアクティブ化する必要があります。ライセンスがアクティブ化されていることを確認してください。非アクティブの場合、選択して **アクティブ化 (Activate)** してください。

次のステップ

LicenseServer にライセンスファイルをアップロードし、希望するライセンスがアクティブ化されていることを確認した後、以下を行います。

- Altova サーバー製品 ([FlowForce Server](#)、[MapForce Server](#)、[StyleVision Server](#)) を LicenseServer に登録する (ライセンスファイルのアップロード前にこの手順を既に済ませている場合、ライセンスの割り当てを開始することができます。)
- LicenseServer に登録されたAltova 製品に[ライセンスの割り当て](#)を行います。

5.7.6 製品の登録

Altova サーバー製品に**ライセンスの割り当て**る前に、LicenseServer に製品のインストールを登録しなければなりません。Altova サーバー製品から登録がされ、Web UI があるサーバー製品と、コマンドラインのみで動作する製品ではプロセスが異なります。登録を実行するには、LicenseServer がインストールされているマシンのサーバー名または IP アドレスが必要です。

- デスクトップ製品: ソフトウェアのライセンス認証ダイアログを使用して、登録が行われます。
- Web UI を持つサーバー製品: FlowForce Server と MobileTogether Server の登録は、Web UI のセットアップタブまたは製品の CLI により行うことができます。
- Web UI を持たないサーバー製品: MapForceServer、RaptorXML(+XBRL) Server、と StyleVisionServer の登録は、これらの製品の CLI を使用して行います。LicenseServer がインストールされているマシンのサーバー名または IP アドレスが登録のために必要になります。

異なる Altova サーバー製品の登録方法を説明します:

- [Altova デスクトップ製品の登録](#)
- [FlowForce Server の登録](#)
- [MapForce Server の登録](#)
- [MobileTogether Server の登録](#)
- [RaptorXML\(+XBRL\) Server の登録](#)
- [StyleVision Server の登録](#)

Altova デスクトップ製品の登録

Altova LicenseServer に Altova デスクトップ製品を登録するには、以下を行います:

1. メニューコマンド **ヘルプ | ソフトウェアのライセンスの認証** を選択して、製品のソフトウェアライセンス認証ダイアログに移動します。ライセンスの承認は、(i) Altova LicenseServer を使用して、または (ii) キーコードの詳細を入力しておこなうことができます。このドキュメントでは、Altova LicenseServer を使用した場合のライセンスの認証について説明します。
2. LicenseServer を使用して製品のライセンスの認証をおこなうには (ダイアログの下にある) **Altova LicenseServer を使用する** をクリックします (下のスクリーンショットを参照してください)。

3. これによりダイアログが LicenseServer のライセンス認証モードに切り替えられます (下のスクリーンショット参照)。Altova LicenseServer コラボボックスのドロップダウンリストから LicenseServer を選択します。

選択されたLicenseServer への接続が構築されると、製品はすぐに選択されたLicenseServer に登録されます。[クライアント管理タブ](#)内で使用中の製品リストに製品が表示されます。

デスクトップ製品の登録解除

デスクトップ製品の登録を解除するには、LicenseServer の [クライアント管理タブ](#)に移動し、製品のライセンスペイン内の右側にある製品の **製品の登録解除** ボタンをクリックします。

FlowForce Server の登録

このセクション

- [LicenseServer にFlowForce Server を登録する方法](#)
 - [FlowForce Server セットアップページへのアクセス \(Windows\)](#)
 - [FlowForce Server セットアップページへのアクセス \(Linux\)](#)
 - [セットアップページを介してのFlowForce Server の登録](#)
 - [FlowForce CLI を介してのFlowForce Server の登録 \(Windows\)](#)
 - [FlowForce CLI を介してのFlowForce Server の登録 \(Linux\)](#)
 - [次のステップ](#)
-

LicenseServer に FlowForce Server を登録する方法

FlowForce Server のLicenseServer への登録は以下の方法が使用できます:

- [FlowForce Server セットアップページを介して](#)
 - [FlowForce CLI を介して \(Windows\)](#)
 - [FlowForce CLI を介して \(Linux\)](#)
-

FlowForce Server セットアップページへのアクセス (Windows)

FlowForce Server セットアップページへは以下の方法でアクセスできます:

- **スタート** メニューから
スタート | Altova FlowForce Server 2018 | FlowForce Server セットアップページ
- [Altova ServiceController](#) から システムトレイのServiceController アイコンをクリックします。ポップアップしたメニューからAltova FlowForce Web | Setup を選択します。

FlowForce Server セットアップページ(上部スクリーンショット) がポップアップします。

FlowForce Server セットアップページへのアクセス (Linux)

Linux に FlowForce Server をインストールした後、(手順に関しては FlowForce Server ユーザーガイド キュメンテーションを参照してください)。以下のコマンドを使用して FlowForce Web Server をサービスとして開始します:

```
sudo /etc/init.d/flowforcewebserver start
```

FlowForce Server の URL を含んだメッセージがターミナルウィンドウに表示されます:

```
FlowForceWeb running on http://127.0.0.1:3459/setup?key=52239315203
```

アドレスフィールドに URL を入力して、FlowForce Server セットアップページにアクセスするために **Enter** を押します。(下のスクリーンショット)。

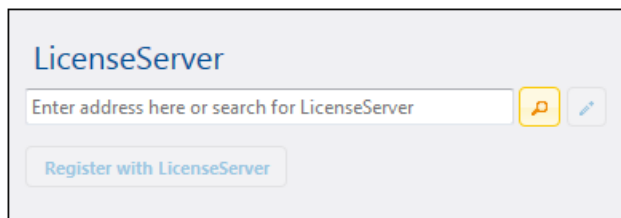
セットアップページを介しての FlowForce Server の登録

セットアップページ(下のスクリーンショット)へのアクセス方法は上記されています? LicenseServer フィールドは Altova LicenseServer を登録するため指定されています。

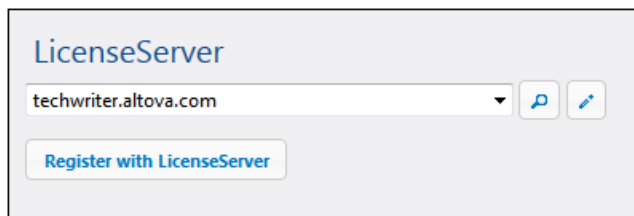


LicenseServer 以下の2つの方法で指定できます。

- 現在ネットワークで利用可能な、つまり現在作動している Altova LicenseServers を検索することができます。この手順は、**Altova LicenseServers 検索** (Search for Altova LicenseServers) ボタンをクリックすることで実行できます(下のスクリーンショットで黄色にハイライトされています)。



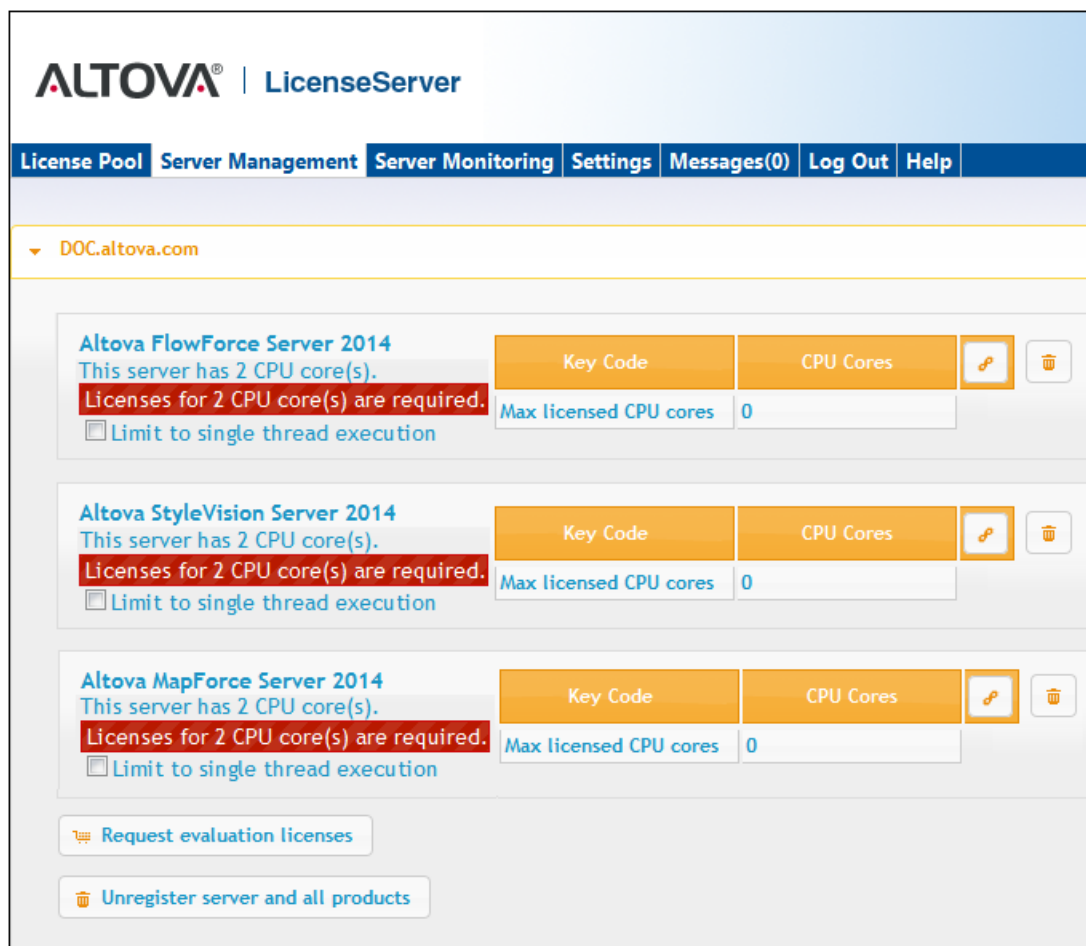
検索によりネットワーク上で使用可能な Altova LicenseServers のリストが返されます。1 つの LicenseServer が選択され、(下のスクリーンショット) 他はコンボボックスのドロップダウンリストで使用可能です。FlowForce ライセンスが保管されている LicenseServer を選択します。



- または、LicenseServer のアドレスを LicenseServer のフィールドに入力します。現在作動する ドロップダウンリスト で使用可能な場合、**手動でアドレスを入力** (Manually Enter Address) ボタンをクリックして、LicenseServer フィールドにアドレスを入力することができます。

LicenseServer を指定した後、**LicenseServer により登録** (Register with LicenseServer) をクリックします。指定された LicenseServer により、サーバーアプリケーションが登録され、LicenseServer の [構成ページのクライアント管理タブ](#) がブラウザで開かれます (下のスクリーンショット)。

✖ LicenseServer 構成ページを表示するためにポップアップを許可しないかもしれません。



上部のスクリーンショットでは、3つの製品がDOC.altova.comのAltova LicenseServerに登録されています。ライセンスの割り当て方法に関しては、次のセクション[登録された製品へのライセンスの割り当て](#)で説明されています。

FlowForce CLI を介しての FlowForce Server の登録 (Windows)

Windows マシンでは FlowForce Server は licenseserver コマンドを使用し、コマンドライン(CLI)を介してネットワーク上の Altova LicenseServer に登録することができます。

FlowForceServer licenseserver Server-Or-IP-Address

例えば、LicenseServer が `http://localhost:8088` で動作している場合、FlowForce Server を以下で登録します。

FlowForceServer licenseserver localhost

FlowForce Server が他のサーバー製品のサブパッケージとしてインストールされている場合、FlowForce Server の登録は自動的に Altova サーバー製品も登録します。FlowForce Server の登録に成功すると、LicenseServer に移動して、FlowForce Server にライセンスを割り当てます。手順は[登録された製品へのライセンスの割り当て](#)のセク

ションに説明されています。

FlowForce CLI を介しての FlowForce Server の登録 (Linux)

Linux マシンでは、FlowForce Server は FlowForce Server CLI の `licenseserver` コマンドを使用して LicenseServer に登録することができます。FlowForce Server はポート権限とともに開始されなければならないことに注意してください。

```
sudo /opt/Altova/FlowForceServer2018/bin/flowforceserver licenseserver
localhost
```

上記コマンドでは、localhost は LicenseServer がインストールされているサーバーの名前です。FlowForce Server 実行可能ファイルの場所は以下の通りです。

```
/opt/Altova/MapForceServer2018/bin
```

FlowForce Server の登録が成功すると、LicenseServer に移動して、FlowForce Server にライセンスを割り当てます。手順は [登録された製品へのライセンスの割り当て](#) のセクションに説明されています。

次のステップ

Altova 製品を LicenseServer に登録した後、以下を行ってください。

1. LicenseServer にまだライセンスファイルをアップロードしていない場合、(前述のセクション [ライセンスのアップロード](#) を参照してください)、ライセンスファイルをアップロードし、アクティブ化したライセンスをチェックします。既に、この手順が済んでいる場合、次のステップ [ライセンスの割り当て](#) で進んでください。
2. LicenseServer に既に登録されている Altova 製品に [ライセンスの割り当て](#) を行ってください。

MapForce Server の登録

このセクション:

- [FlowForce Server からの MapForce Server の登録 \(Windows\)](#)
- [スタンドアロンの MapForce Server の登録 \(Windows\)](#)
- [MapForce Server の登録 \(Linux\)](#)
- [次のステップ](#)

MapForce Server は FlowForce Server の一部として、またはスタンドアロンのサーバー製品としてインストールすることができます。どちらの場合でも、Altova LicenseServer に登録されなければならない。LicenseServer に登録された後のみ、LicenseServer から [ライセンスを割り当てられます](#)。Windows システムでは、MapForce Server が FlowForce Server の一部としてインストールされる場合、FlowForce が登録される際自動的に登録されます。Linux システムでは、MapForce Server が FlowForce Server の後にインストールされる場合、FlowForce Server が登録される際自動的に登録されます。MapForce Server が FlowForce Server の前にインストールされると、両方の製品を個別に登録する必要があります。

FlowForce Server からの MapForce Server の登録 (Windows)

MapForce Server は FlowForce Server にパッケージされており、FlowForce Server がネットワークの Altova LicenseServer に登録されている場合、MapForce Server は自動的に LicenseServer に登録されます。FlowForce Server の登録方法は、ドキュメンテーションの [LicenseServer に FlowForce Server を登録するセクション](#) に説明されています。

登録の後、LicenseServer に移動して MapForce Server ライセンスを MapForce Server に割り当てます。手順は [登録された製品にライセンスを割り当てる](#) セクションに説明されています。

スタンドアロンの MapForce Server の登録 (Windows)

MapForce Server をスタンドアロンパッケージとしてインストールした場合、ネットワークの Altova LicenseServer に登録し、Altova LicenseServer からライセンスを与える必要があります。MapForce Server をコマンドラインインターフェイス (CLI) 介して licenseserver コマンドを使用して登録することができます。

MapForceServer licenseserver Server-Or-IP-Address

例えば、LicenseServer が以下で作動している場合、`http://localhost:8088`、MapForce Server を以下で登録します。

MapForceServer licenseserver localhost

MapForce Server の登録が成功すると LicenseServer に移動して、MapForce Server にライセンスを割り当てます。手順はセクション [登録された製品にライセンスを割り当てる](#) に説明されています。

MapForce Server の登録 (Linux)

Linux マシンでは、MapForce Server を LicenseServer に MapForce Server CLI の licenseserver コマンドを使用して登録することができます。MapForce Server は root 権限とともに開始されなければならないことに注意してください。

**sudo /opt/Altova/MapForceServer2018/bin/mapforceserver licenseserver
localhost**

上記コマンドでは、localhost は LicenseServer がインストールされているサーバーの名前です。MapForce Server 実行可能ファイルの場所は以下の通りです。

/opt/Altova/MapForceServer2018/bin

MapForce Server の登録が成功すると LicenseServer に移動して、MapForce Server にライセンスを割り当てます。手順は [登録された製品へのライセンスの割り当て](#) のセクションに説明されています。

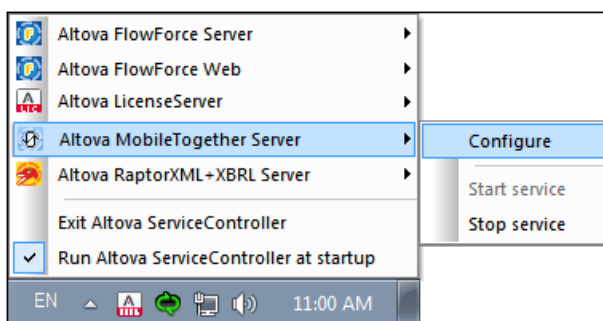
次のステップ

Altova 製品をLicenseServer に登録した後、以下を行ってください。

1. LicenseServer にまだライセンスファイルをアップロードしていない場合、(前述のセクション [ライセンスのアップロード](#) を参照してください)、ライセンスファイルをアップロードし、アクティブ化したいライセンスをチェックします。既に、この手順が済んでいる場合、次のステップ [ライセンスの割り当て](#) に進んでください。
2. LicenseServer に既に登録されているAltova 製品に[ライセンスの割り当て](#)を行ってください。

MobileTogether Server の登録

MobileTogether Server を開始するには システムトレイの **ServiceController** アイコンをクリックします。ポップアップしたメニュー **Altova MobileTogether Server** をポイントし、(下のスクリーンショット参照)、MobileTogether Server サブメニューから **サービスの開始(Start Service)** を選択します。MobileTogether Server が既に動作している場合、サービスの開始(Start Service) オプションは無効化されます。



MobileTogether Server の登録

- MobileTogether Server Web UI の設定タブ: (i) ServiceController を介して、MobileTogether を開始する(前述のポイント参照)。 (ii) 構成ページにアクセスするためのパスワードを入力する。 (iii) 設定タブを選択する (iv) ページ下のLicenseServer ペインに移動する。 LicenseServer 名またはアドレスを入力し、**LicenseServer により登録 (Register with LicenseServer)** をクリックする
- CLI のlicenseserver コマンドを使用する
MobileTogetherServer licenseserver [options] ServerName-Or-IP-Address
 例えば、LicenseServer がインストールされているサーバー名 localhost の場合:
MobileTogetherServer licenseserver localhost

登録に成功した後、LicenseServer の構成ページのサーバー管理ページに移動して、MobileTogether Server にライセンスを割り当てます。

RaptorXML(+XBRL) Server の登録

このセクション

- [RaptorXML\(+XBRL\) Server の登録 \(Windows\)](#)
- [RaptorXML\(+XBRL\) Server の登録 \(Linux\)](#)
- [次のステップ](#)

RaptorXML(+XBRL) Server は LicenseServer が接続されているサーバーマシンにインストールされ、サービスとして開始される必要があります。また、LicenseServer に登録されていなければなりません。登録後のみ LicenseServer から [ライセンスの割り当て](#) を行うことができます。このセクションでは、RaptorXML(+XBRL) Server の LicenseServer での登録方法を説明します。

RaptorXML(+XBRL) Server の登録 (Windows)

RaptorXML(+XBRL) Server をコマンドラインインターフェイスCLI を介し licenseserver コマンドを使用して登録することができます。

```
RaptorXML Server: RaptorXML licenseserver Server-Or-IP-Address
RaptorXML+XBRL Server: RaptorXMLXBRL licenseserver Server-Or-IP-Address
```

例えば、LicenseServer が以下で動作している場合 <http://localhost:8088>、RaptorXML(+XBRL) Server を以下で登録します。

```
RaptorXML Server: RaptorXML licenseserver localhost
RaptorXML+XBRL Server: RaptorXMLXBRL licenseserver localhost
```

RaptorXML(+XBRL) Server の登録に成功すると LicenseServer に移動して、RaptorXML(+XBRL) Server にライセンスを割り当てます。手順はセクション [登録された製品にライセンスを割り当てる](#) に説明されています。

RaptorXML(+XBRL) Server の登録 (Linux)

Linux マシンでは RaptorXML(+XBRL) Server を LicenseServer に RaptorXML(+XBRL) Server CLI の licenseserver コマンドを使用して登録することができます。RaptorXML(+XBRL) Server は root 権限とともに開始されなければならないことに注意してください。

```
sudo /opt/Altova/RaptorXMLServer2018/bin/raptorxmlserver licenseserver
localhost
sudo /opt/Altova/RaptorXMLXBRLServer2018/bin/raptorxmlxbmlserver
licenseserver localhost
```

上記コマンドでは、localhost は LicenseServer がインストールされているサーバーの名前です。RaptorXML(+XBRL) Server 実行可能ファイルの場所は以下の通りです。

```
/opt/Altova/RaptorXMLServer2018/bin
/opt/Altova/RaptorXMLXBRLServer2018/bin
```

RaptorXML(+XBRL) Server の登録に成功すると LicenseServer に移動して、RaptorXML(+XBRL) Server にライセンスを割り当てます。手順はセクション [登録された製品にライセンスを割り当てる](#) に説明されています。

次のステップ

Altova 製品をLicenseServer に登録した後、以下を行ってください

1. LicenseServer にまだライセンスファイルをアップロードしていない場合、(前述のセクション [ライセンスのアップロード](#) を参照してください)、ライセンスファイルをアップロードし、アクティブ化したいライセンスをチェックします。既に、この手順が済んでいる場合、次のステップ [ライセンスの割り当て](#) に進んでください。
2. LicenseServer に既に登録されているAltova 製品に [ライセンスの割り当て](#) を行ってください。

StyleVision Server の登録このセクション

- [FlowForce Server からのStyleVision Server の登録 \(Windows\)](#)
- [スタンドアロンのStyleVision Server の登録 \(Windows\)](#)
- [StyleVision Server の登録 \(Linux\)](#)
- [次のステップ](#)

StyleVision Server はFlowForce Server の一部として、またスタンドアロンのサーバー製品としてインストールすることができます。どちらの場合でも、Altova LicenseServer に登録されなければなりません。LicenseServer に登録された後のみ、LicenseServer から [ライセンスが割り当てられます](#)。Windows システムでは、StyleVision Server がFlowForce Server の一部としてインストールされる場合、FlowForce が登録される際自動的に登録されます。Linux システムでは、StyleVision Server がFlowForce Server の後にインストールされる場合のみ、FlowForce Server が登録される際に自動的に登録されます。

FlowForce Server からの StyleVision Server の登録 (Windows)

StyleVision Server はFlowForce Server にパッケージされており、FlowForce Server がネットワークのAltova LicenseServer に登録されている場合、StyleVision Server は自動的にLicenseServer に登録されます。FlowForce Server の登録方法は、ドキュメンテーションの [LicenseServer にFlowForce Server を登録するセクション](#) に説明されています。

登録の後、LicenseServer に移動してStyleVision Server ライセンスをStyleVision Server に割り当てます。手順は [登録された製品にライセンスを割り当てるセクション](#) に説明されています。

スタンドアロンの StyleVision Server の登録 (Windows)

StyleVision Server をスタンドアロンパッケージとしてインストールした場合、ネットワークのAltova LicenseServer に登録し、Altova LicenseServer からライセンスを与える必要があります。StyleVision Server をコマンドラインインターフェイス(CLI) 介して licenseserver コマンドを使用して登録することができます。

StyleVisionServer licenseserver Server-Or-IP-Address

例えば、LicenseServer が以下で動作している場合、<http://localhost:8088>、StyleVision Server を以下で登録します。

```
StyleVisionServer licenseserver localhost
```

StyleVision Server の登録が成功すると LicenseServer に移動して、StyleVision Server にライセンスを割り当てます。手順はセクション [登録された製品にライセンスを割り当てる](#) に説明されています。

StyleVision Server の登録 (Linux)

Linux マシンでは StyleVision Server を LicenseServer に StyleVision Server CLI の licenseserver コマンドを使用して登録することができます。StyleVision Server は root 権限とともに開始されなければならないことに注意してください。

```
sudo /opt/Altova/StyleVisionServer2018/bin/stylevisionserver licenseserver localhost
```

上記コマンドでは、localhost は LicenseServer がインストールされているサーバーの名前です。StyleVision Server 実行可能ファイルの場所は以下の通りです。

```
/opt/Altova/StyleVisionServer2018/bin
```

StyleVision Server の登録が成功すると、LicenseServer に移動して、StyleVision Server にライセンスを割り当てます。手順は [登録された製品へのライセンスの割り当て](#) のセクションに説明されています。

次のステップ

Altova 製品を LicenseServer に登録した後、以下を行ってください。

1. LicenseServer にまだライセンスファイルをアップロードしていない場合、(前述のセクション [ライセンスのアップロード](#) を参照してください)、ライセンスファイルをアップロードし、アクティブ化しないライセンスをチェックします。既に、この手順が済んでいる場合、次のステップ [ライセンスの割り当て](#) に進んでください。
2. LicenseServer に既に登録されている Altova 製品に [ライセンスの割り当て](#) を行ってください。

5.7.7 登録された製品へのライセンスの割り当て

このセクション

- [ライセンスの割り当ての前に](#)
- [クライアント管理タブ](#)
- [クライアント管理タブ内のアイコン](#)
- [コアとライセンスについてのメモ](#)
- [ライセンスの割り当て](#)
- [LicenseServer からの製品の登録解除](#)

ライセンスの割り当ての前に

Altova 製品にライセンスを割り当てる前に以下を確認してください

- [LicenseServer のライセンスプール](#) に対応したライセンスがアップロードされ、ライセンスがアクティブであること
- Altova 製品がLicenseServer に登録されていること

クライアント管理タブ

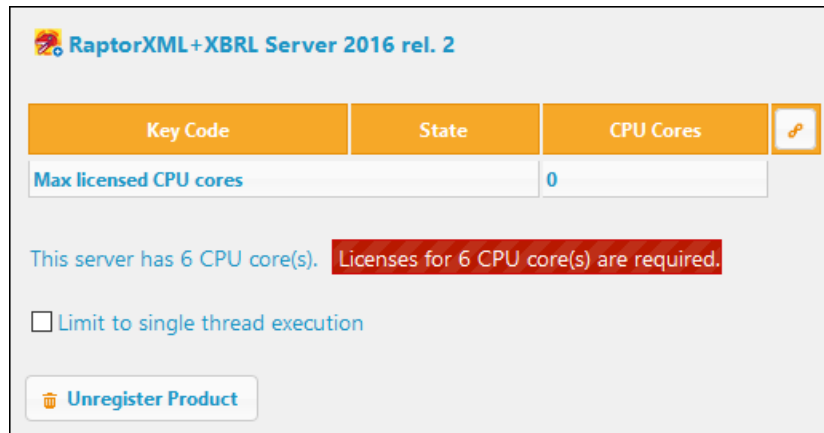
構成ページの [クライアント管理タブ](#) 内でライセンス割り当てられます (下のスクリーンショット)。スクリーンショットは 左側のペイン内に 3つのAltova 製品がLicenseServer に登録されているマシンが1台あることを表示しています。

The screenshot shows the Altova LicenseServer interface. The top navigation bar includes tabs for License Pool, Client Management, Client Monitoring, Settings, Messages(0), Log Out, and Help. The Client Management tab is active, displaying a table of registered clients. The table has columns for Address, User, and Registered Products. One client is listed with Address 'doc-aab' and User 'adoc'. The Registered Products column shows three items: RaptorXML+XBRL Server 2016 rel. 2, MobileTogether Server 2.2, and XMLSpy Enterprise Edition 2016 rel. 3. To the right of the table, there are buttons for 'Request evaluation licenses' and 'Unregister client and all products'. Below the table, a detailed view for the selected client shows the Key Code, State (Active), and CPU Cores (16). It also indicates that 6 CPU cores are required for the licenses. There is a checkbox for 'Limit to single thread execution' and a button for 'Unregister Product'.

クライアント管理タブについての以下の点に留意してください

- 左側のペインで、各製品は、クライアントマシンの名前の下にリストされています。上のスクリーンショットでは、1台のクライアントマシンがリストされています。このクライアントマシンには、3つのAltova 製品がLicenseServer に登録されています。Altova 製品が異なるクライアントマシンでこのLicenseServer に登録されている場合も左側のペインに表示されます。
- 左側のペインで、クライアントマシンを選択すると、マシンに登録されている製品の詳細は、右側のペインに表示されます。個々では、各製品のライセンスの割り当てを編集することができます。

- クライアントマシンに登録されている各 Altova 製品には、自身のキーコードエントリがあり、ライセンスのキーコードを読み取ります。登録されている製品は、**割り当てられたライセンスを編集する** ボタンをクリックし、ライセンスプール内からその製品に使用することのできる必要なライセンスを選択することによりライセンスを割り当てられます (下のアイコンのリストを参照してください)。この手順に関しては、下で更に詳しく説明されています。
- サーバー製品にも、クライアント上でライセンスが動作するために必要なコア数を表示するラインがあります。ライセンスされているコアが必要なコア数より少ない場合、この情報は赤でマークされます (下のスクリーンショット参照)。(ライセンスされる必要のあるコア数は、クライアント上の CPU コアの数で、LicenseServer によりクライアントマシンから取得されます)。



- 単一製品の**複数のバージョン**(例えば StyleVision Server 2013 と StyleVision Server 2014) が1つのコンピュータにインストールされ、インストールが1つのLicenseServerに登録された場合、複数の登録は、クライアント管理タブ内で1つの登録として統合され、1つの登録として表示されます。ライセンスがこの1つの登録に割り当てられる際、この登録により指定される全てのインストールにライセンスが与えられます。しかし、単一インストールの複数のインスタンスは、クライアントマシンで同時に動作することができます。例えば、StyleVision Server 2013 の複数のインスタンスまたは、StyleVision Server 2014 の複数のインスタンスは同時に動作することができますが、StyleVision Server 2013 の1つのインスタンスとStyleVision Server 2014の1つのインスタンスはできません。新しくインストールされたバージョンは動作するために登録されている必要があります。
- Altova サーバー製品の新しいバージョンは、製品のリリース時のLicenseServerの最新バージョンによりのみライセンスを受けることができます。古いAltova サーバー製品はLicenseServerの新しいバージョンで動作することができます。ですから、新しいバージョンのAltova サーバー製品をインストールする際、現在使用しているLicenseServerのバージョンが最新でない場合、古いバージョンのLicenseServerをアンインストールして、最新バージョンをインストールしてください。アンインストールの際、古いバージョンのLicenseServerの登録とライセンス情報はクライアントマシンのデータベースに保存され、新しいバージョンは自動的にインポートされます。(サーバー製品の特定のバージョンに適切なLicenseServerバージョン番号がサーバー製品のインストール中表示されます。サーバー製品と共にこのバージョンを選択することができます。現在インストールされているバージョンは [LicenseServer 構成ページ](#)の下部に表示されます。)

クライアント管理タブのアイコン

-  **割り当てられたライセンスの編集。** 各製品のリストで使用することができます。新しいライセンスを製品に割り当てることのできる、すでに割り当てられたライセンスを編集できる [割り当てられたライセンスの編集](#) がポップアップします。
-  **ライセンスの表示。** 各ライセンスが表示されます。 [License Pool タブ](#)に切り替えができ、選択されたライセンスをハイライトすることによりライセンスの詳細がわかります。
-  **製品の登録解除。** 各製品で利用可能です。(選択されたクライアントマシン上の) 選択された製

品をLicenseServer から削除することができます。

コアとライセンスについてのメモ

Altova サーバー製品へのライセンスは製品マシンで使用可能なプロセッサ コアの数に基づいています。例えば、デュアルコアプロセッサはコアが2 つ、クアッドコアプロセッサはコアが4 つ、ヘキサコアプロセッサはコアが6 つ等々。特定のサーバーマシン上の製品にライセンスされたコアの数は、物理または仮想マシンで、サーバーで使用可能なコア数よりも多くまたは同数である必要があります。例えば、サーバーが8 コア(オクタレコアプロセッサ)の場合、少なくとも8- コアライセンスを購入する必要があります。また、ライセンスを合計してコア数を満たすこともできます。2 つの4- コアライセンスは 8- コアライセンスの代わりにオクタレコアサーバーで使用できます。

大きいCPU コアを持つコンピューターサーバーを使用し、少量を処理する場合、少ないコアを割り当てる仮想マシンを作成し、その数のライセンスを購入することもできます。このようなデプロイは、もちろん、サーバーの全ての利用可能なコアが利用されている場合に比べ、処理スピードが落ちます。

メモ 各 Altova サーバー製品のライセンスは、使用されていないライセンス容量があっても、1 度に1 つのクライアントマシンにのみ使用することができます。例えば 10- コアライセンスが6 CPU コアのクライアントマシンで使用される場合、残りの4 コアライセンスは他のマシンで同時に使用することはできません。

メモ サービスの機能のため、MobileTogether Server Advanced Edition は2つまたは以上のコアを持つマシン上のみで作動します。

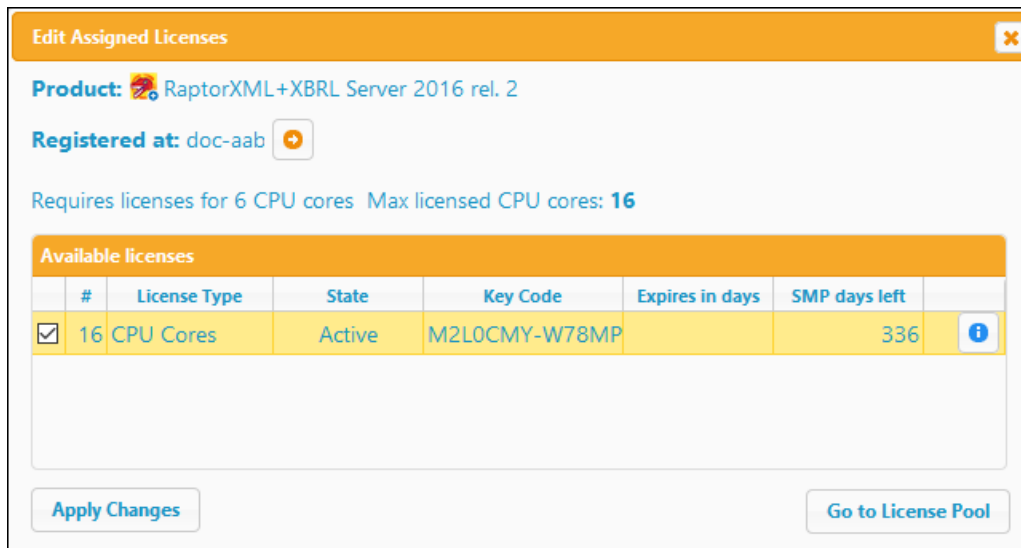
MobileTogether Server ライセンス

MobileTogether Server ライセンスには2つの種類があります。カスタマーは必要に応じてライセンスの種類を選択することができます。

- コアライセンス** サーバードマシンのコア数に基づいてMobileTogether Servers に割り当てられます。上の例を参照してください。上の説明を参照してください。コアライセンスは、無制限の数量のMobileTogether クライアントデバイスによりサーバーへの接続を許可します。しかしながら、単一スレッドの実行「チェックボックスがチェックされている」と1度にMobileTogether Server に接続できるモバイルデバイスは1台です。これは、評価と小さい規模のテストを行う際に役に立ちます。この場合、2台目のモバイルデバイスがMobileTogether Sever に接続される場合、ライセンス2台目が使用できるようになります。最初のデバイスは、接続できないようになり、エラーメッセージが表示されます。
- デバイスライセンス** MobileTogether Server にいつでも接続することができるMobileTogether Client デバイスの最高使用数を指定します。

ライセンスの割り当て

登録されている製品にライセンスを割り当てるには、製品の **割り当てられたライセンスの編集(割り当てられたライセンスを編集する)** ボタンをクリックします。ライセンスの管理 (Manage Licenses) ダイアログがポップアップします (下のスクリーンショット)。

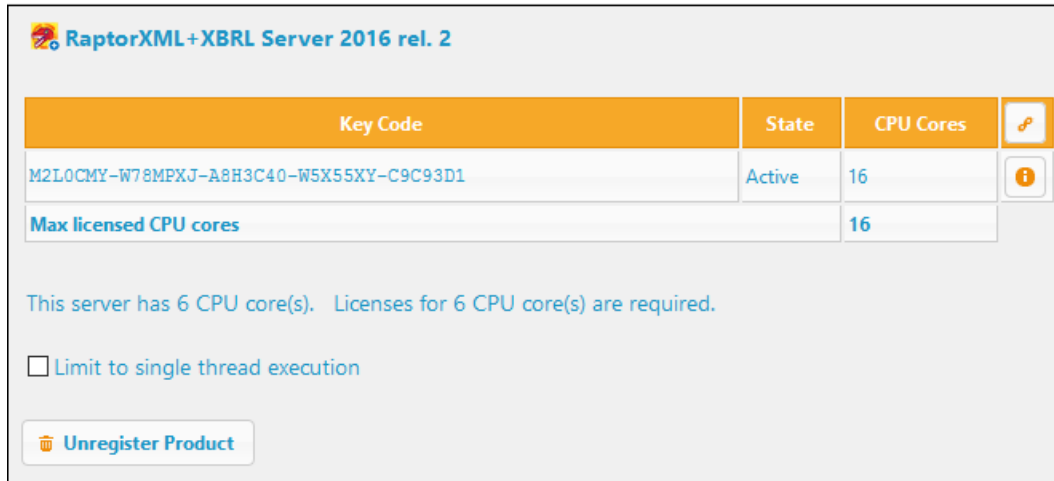


ライセンス管理ダイアログに表示されるライセンスについての以下の点に注意してください！

- ライセンスされる製品はダイアログの上部左にリストされます。上部のスクリーンショットでは、製品は Altova RaptorXML+XBRL Server です。
- サーバーがインストールされているマシン(上のスクリーンショットでは doc-aab) が横にリストされます。
- ダイアログは、ライセンスプールにあるその製品の現在アクティブなライセンスを表示します。スクリーンショットでは、現在アクティブなライセンスである RaptorXML+XBRL Server ライセンスがライセンスプールにあります。LicenseServer は自動的にプール内の製品のために発行された各ライセンスを検知します。
- ライセンスの種類は、コア数ごと(Cores) (MobileTogether Server を含むすべての Altova サーバー製品) またはユーザーごと(Users) (MobileTogether Server のみ) であることができます。ライセンスの種類はライセンスの種類 (License Type) カラムに表示されています。
- 上のスクリーンショット内のライセンスは16 CPU コアライセンスされています。
- Altova サーバー製品がインストールされているサーバーのプロセッサコア数を把握する必要があります。マシンがデュアルコア プロセッサの場合、2-コア (CPU コア数) ライセンスが必要です。サーバー製品の登録に必要なコア数はマシンの名前の下にリストされています。サーバーに割り当てるライセンスはコア数に対して十分有効である必要があります。必要なコア数を達成するためにライセンスを組み合わせることができます。マシンのプロセッサがオクタコア 8 コアの場合、2 つの4 コアライセンスを組み合わせることができます。
- 割り当てられたライセンスの編集ダイアログは、製品の現在アクティブなライセンスのみをリストします。他の Altova 製品のライセンスはリストされません。
- 既に割り当てられたライセンスに関しては、たとえば、ネットワークでの製品の他のインストールは、チェックボックスがチェックされています。ですからチェックされていないライセンスのみが選択できます。
- CPU コア (または MobileTogether Server のためのユーザー数) カラムは、ライセンスに有効な CPU コア数 (または MobileTogether クライアント数) を表示しています。
- ライセンスプールの変更を希望する場合、例えば、ライセンスのアップロード、アクティブ化、非アクティブ化、および削除は **「ライセンスプールへの移動 (Go to License Pool)」** ボタンをクリックしてください。

割り当てを希望するライセンスの選択。ライセンスチェックボックスがチェックされます。また、製品のライセンスされた CPU コア数がダイアログ上部左に最大限ライセンスされた CPU コア (Max licensed CPU コア) とリストされます (上部スクリーンショット参照)。クライアントの製品のライセンスされた CPU コア数を増やしたい場合は更にライセンスを選択することができます。最大限ライセンスされた CPU コアは、この場合、選択されたすべてのライセンスのコア総数です。

ライセンスを選択した後、**「変更を適用」(Apply Changes)** をクリックします。製品に割り当てられたライセンスはクライアント管理タブに表示されます(下のスクリーンショット参照)。以下のスクリーンショットは Altova RaptorXML+XBRL に16-CPU-コアライセンスが割り当てられたことを表示しています。



LicenseServer からの製品の登録解除

LicenseServer により登録された各 Altova 製品は、クライアントマシン名の下側のペイン(製品ライセンス)に表示されており、エントリの下に **製品の登録解除** ボタンがあります(上のスクリーンショット参照)。LicenseServer から製品の登録を解除するため、このボタンをクリックします。ライセンスが製品に割り当てられている場合、割り当ては登録が解除されると停止されます。全ての製品の登録を解除するには、(製品ライセンスペインの右上にある**クライアントと全ての製品の登録を解除する** ボタンをクリックします(このセクションの最初のスクリーンショットを参照してください)。

LicenseServer から製品の登録を解除するには以下を行います:

- **サーバー製品:** サーバー Web UI 内の設定ページに移動します。Web UI がサーバーに存在しない場合、コマンドプロンプトウィンドウを開き、製品の CLI を使用して、製品を登録します。各サーバー製品のための手順は以下で説明されています: [Register FlowForce Server](#)、[Register MapForce Server](#)、[Register MobileTogether Server](#)、[Register StyleVision Server](#)、と [Register RaptorXML\(+XBRL\) Server](#)。
- **デスクトップ製品:** 製品の [ソフトウェアのライセンス認証ダイアログ](#) **Help | ソフトウェアのライセンス認証** (Help | Software Activation) により、LicenseServer モードからライセンス承認を切り替えることができます。Altova LicenseServer ファイルから登録する LicenseServer を選択します。製品は登録され、LicenseServer のクライアント管理タブに登録された製品のリストに表示されます。

LicenseServer に登録された各 Altova 製品はクライアント管理タブにクライアントマシン名の下にリストされ、**登録解除(Unregister)** アイコンがペインの下にあります(上のスクリーンショット参照)。このアイコンをクリックして製品の登録を解除します。ライセンスが製品に割り当てられている場合、製品の登録が解除されると割り当ては終了します。全ての製品の登録を解除するには、クライアント管理タブの下にある **クライアントとすべての製品の登録解除(Unregister Client and All Products)** ボタンをクリックします(このセクションの最初のスクリーンショットを参照してください)。

製品を再登録する場合、**割り当てられたライセンスを編集する** (Edit Assigned Licenses) ボタンをクリックします。

5.8 構成ページ レファレンス

LicenseServer 構成ページはLicenseServer (Web UI) の管理者インターフェイスです。このページによりLicenseServer の管理とLicenseServer により登録されたAltova 製品([FlowForce Server](#)、[MapForce Server](#)、[StyleVision Server](#)、[RaptorXML\(+XBRL\) Server](#)) へのライセンス供与を行うことができます。LicenseServer 構成ページはWeb ブラウザーで閲覧できます。構成ページの開き方は以下のセクションで説明されています: [LicenseServer 構成ページの開き方\(Windows\)](#) と [LicenseServer 構成ページの開き方 \(Linux\)](#) および [LicenseServer の構成ページを開く\(macOS\)](#).

このセクションは構成ページのユーザーレファレンスが構成ページのタブにより整理されています:

- [License Pool](#)
- [クライアント管理](#)
- [クライアントの監視](#)
- [設定](#)
- [メッセージ ログアウト](#)

LicenseServer でのライセンスの割り当てについてのステップバイステップの手順は [ライセンスの割り当て方法](#) セクションを参照してください。

5.8.1 ライセンスプール

このセクション

- [ライセンスのアップロード](#)
- [ライセンスの状態](#)
- [ライセンスのアクティブ化、非アクティブ化、および削除](#)
- [ライセンスプール\(License Pool\) タブのアイコン](#)
- [ライセンスの情報](#)
- [デスクトップ製品のライセンスに関するメモ](#)
- [コアライセンスについてのメモ](#)

ライセンスプール(License Pool) タブは、LicenseServer で現在使用することができるライセンスに関する情報を表示します(下のスクリーンショット参照)。ライセンスファイル、このページの **アップロード(Upload)** ボタンを使用して、LicenseServer にアップロードされると、ライセンスファイル内に含まれている全てのライセンスがLicenseServer 上のライセンスプールに置かれます。ライセンスプールページは、ですから、上で現在使用することができる全てのAltova 製品ライセンスの概要を、これらのライセンスの詳細と共に提供します。このページでは、更にライセンスプールにライセンスをアップロードできるだけでなく、選択されたライセンスを認証、認証の解除、または削除することができます。

ALTOVA® | LicenseServer

License Pool

Client Management

Client Monitoring

Settings

Messages(0)

Log Out

Help

Licenses

☐	Status	Name	Company	Product	Edition	Version	Key Code	Bundle ID	Start Date	End Date	Expires in days	SMP days left	#	License Type	Clients
				All Products ▾	All ▾	All ▾									
☐	Active		Altova GmbH	DatabaseSchema Architect	Enterprise Edition	2015 rel. 4	GWS36BI-	{D5FC74C	2015-06	-	-	355	50	Installed User	0/50 users
☐	Active	Altova Document	Altova GmbH	FlowForce Server		2015 rel. 4	9FJUP0P-	-	2015-05	-	-	328	8	CPU Cores	1/50 machines
☐	Active		Altova GmbH	MapForce	Enterprise Edition	2015 rel. 4	BCEB4BI-	{D5FC74C	2015-06	-	-	355	50	Installed User	0/50 users
☐	Active	Altova Document	Altova GmbH	MapForce Server		2015 rel. 4	23A8TT1-	-	2015-05	-	-	328	8	CPU Cores	1/50 machines
☒	Active	Altova Document	Altova GmbH	RaptorXML+X		2015 rel. 4	M2L0CMY-	-	2015-05	-	-	328	16	CPU Cores	running assigned
☐	Active	Altova Document	Altova GmbH	RaptorXML Server		2015 rel. 4	847AXW4-	-	2015-05	-	-	328	16	CPU Cores	
☐	Active		Altova GmbH	SchemaAgent		2015 rel. 4	GWVBWBI-	{D5FC74C	2015-06	-	-	355	50	Installed User	0/50 users

Activate

Deactivate

Delete

Upload License File

Browse...

No files selected.

Upload

ライセンスのアップロード

(株式会社 Altova から Altova サーバー製品に与えられた `altova_licenses` ファイル)をアップロードするには、**参照(Browse)** ボタンをクリックします。ライセンスファイルを参照し、選択します。**アップロード(Upload)** をクリックして、ライセンスファイルに含まれている全てのライセンスをライセンスプールにプールすると、ライセンスプールページにライセンスが表示されます(下のスクリーンショット)。

ライセンスの状態

ライセンスの状態の値は以下の通りです:

- **アクティブ化**: ライセンスが LicenseServer のライセンスプールにアップロードされると、サーバーはライセンスに関連したデータを altova.com マスターライセンスサーバーに検証、認証、与えられたライセンスをアクティブ化するために送信します。これは、Altova ライセンス使用許諾契約書への順守を確認するためが必要です。通常 30 秒から数分かかる。初回アクティブ化と認証トラザクション中、インターネットの接続スピードとネットワークの交通量にもよりますが、ライセンスの状態は**アクティブ化 (Activating...)** と表示されます。
- **失敗した検証**: altova.com マスターライセンスサーバーへの接続が確立しなかった場合、プール内のライセンスの状態は**失敗した検証 (Failed Verification)** と表示されます。これは起こり得ることですので、インターネットの接続とファイアウォールのルールを確認して、LicenseServer が altova.com マスターライセンスサーバーと通信できるように確認してください。
- **アクティブ**: ライセンスが認証されてアクティブ化されると、状態は**アクティブ (Active)** に変更されます。
- **非アクティブ**: ライセンスが検証されたが、ネットワークの他の LicenseServer に存在する場合、状態は**非アクティブ (Inactive)** と表示されます。非アクティブ状態は、管理者がライセンスプール内でのライセンスを手動で非アクティブ化に設定した際におこります。
- **保留**: ライセンスの開始の日付が未来の日付である場合、ライセンスは**保留**として表示されます。00:00 時に有効化にステータスを変更されます。この状態は、製品に割り当てることができ、現在のライセンスの有効期限が切れた場合でも、製品に対するライセンスが継続されることを保証します。新規のライセンスへの変更は、スムーズな変換であり、クライアントプロセスを実行する必要はありません。
- **ブロックされた**: ライセンスの認証に問題がある場合、ライセンスは**ブロックされた (Blocked)** と表示されます。また altova.com マスターライセンスサービスが、このライセンスを使用する許可を与えていない場合も表示されます。これはライセンスの過剰使用、またはコンプライアンスの問題などのため、のライセンス使用許諾の違反になる可能性があります。問題を解決すると、ライセンスが削除、再アップロード、再度アクティブ化します。追加情報に関しては下記を参照してください。

これらの状態は以下のテーブルにまとめられています:

状態	意味
アクティブ化 Activating...	アップロードする際、ライセンスの情報は altova.com に検証のために送信されます。アップデータされた状態を確認するためにブラウザを更新してください。検証とアクティブ化は数分かかります。
失敗した検証 Failed Verification	altova.com への接続が確立しませんでした。接続を確立し、サーバーを再開するか (Activate) ボタンを使用してライセンスをアクティブ化します。
アクティブ Active	検証に成功し、ライセンスはアクティブ化されました。
非アクティブ Inactive	検証はお成功しましたが、ライセンスがネットワークの他の LicenseServer に存在します。ライセンスは Deactivate ボタンにより非アクティブ化することができます。
保留中 Pending	保留中のライセンスには、開始と終了の日付が存在し、開始日にアクティブに切り替えられます。製品に割り当てることが出来、ライセンスの有効期限が切れる前に製品のライセンスの自動更新をおこなうことができます。

ブロックされた Blocked	検証が成功しませんでした。ライセンスは無効でブロックされています。 Altova サポート に連絡してください。ライセンスをブロックしている問題が解決されると、ライセンスを削除、再ロード、またはライセンスをアクティブに設定することができます。ライセンスが更新される都度、新規の検証を開始するAltova マスターサーバーに通信します。再度アップロードを行わない場合、ライセンスの検証は、計画されているAltova マスターサーバーとの通信まで保留になり、同日に発生しない場合があります。
--------------------	---

- ✖️ ライセンスがaltova.com に検証のため送信された後、アップデートされた状態を確認するためにブラウザを更新する必要があります。検証とアクティブ化は数分かかります。
- ✖️ altova.com への接続が確立しない場合、状態は失敗した検証 (Failed Verification) と表示されます。接続を確立した後、への接続が確立しませんでした。接続を確立し、サーバーを再開する (**Activate**) ボタンを使用してライセンスをアクティブ化します。
- ✖️ ライセンス状態が非アクティブまたはブロックされたと表示されている場合、ステータスを説明したメッセージがメッセージログに追加されます。

製品のインストールにはアクティブな、または 保留されているライセンスのみを割り当てることができます。非アクティブなライセンスはアクティブ化されるか、またはライセンスプールから削除することができます。ライセンスがライセンスプールから削除された場合、ライセンスファイルを再度アップロードすることでアップロードできます。ライセンスファイルがアップデートされると、プールに存在しないライセンスのみがアップロードされます。ライセンスをアクティブ化、非アクティブ化、または削除するには、それぞれ **Activate**、**Deactivate** または **Delete** ボタンをクリックしてください。

altova.com のマスターライセンスサーバーへの接続

Altova LicenseServer は、ライセンスに関連したデータを検証と認証し、Altova ライセンス使用許諾契約書への継続的な遵守を確認するため altova.com のマスター Licensing Server と通信する必要があります。この通信はHTTPS を介して、ポート443 を使用して行われます。altova.com のマスター Licensing Server との最初の検証の後、Altova LicenseServer がaltova.com と5日間 (= 120 時間)、再接続できない場合、Altova LicenseServer はAltova LicenseServer に接続してAltova ソフトウェア製品を使用することを許可しません。

Altova マスターサーバーへの接続損失は[Altova LicenseServer の構成ページのメッセージ \(Messages\) タブ](#)にログされます。更に、管理者は、altova.com への接続が失われた場合、自動的に警告の電子メールを送信するようにAltova LicenseServer を構成することができます。電子メールの設定の変更は、[構成ページの設定 タブ](#)で行うことができます。

ライセンスのアクティブ化、非アクティブ化、および削除

アクティブなライセンスは、ライセンスを選択して **非アクティブ化 (Deactivate)** をクリックすることで非アクティブ化することができます。使用されていないライセンスはアクティブ化 (**Activate** ボタン) または 削除 (**Delete** ボタン) することができます。ライセンスが削除された場合、ライセンスプールから除去されます。削除されたライセンスはライセンスファイルをライセンスプールにアップロードすることで、再度追加することができます。ライセンスが再アップロードされた場合、ライセンスプールに存在しないライセンスのみがライセンスプールに追加されます。既にライセンスプールに存在するライセンスは再度追加されません。

ライセンスプール (License Pool) タブのアイコン

- 📦 Altova MissionKit  デスクトップ製品ライセンスがMissionKitの一部である場合、Altova デスクトップ製品名の横に表示されます。次を参照してください: [デスクトップ製品のライセンスに関するメモ](#)。

-  割り当てられたクライアントの表示。割り当てられたライセンスのクライアント列内に表示されます。クライアントの登録されている製品のライセンスを管理する [クライアント管理](#) タブに移動します。
-  実行中のクライアントの表示。現在さぶ中のソフトウェアに割り当てられているライセンスのクライアント列内に表示されます。ソフトウェアを差込しているクライアントマシンの [クライアントの監視](#) に移動します。ここで選択されたクライアントと登録されたソフトウェアが表示されます。
-  情報の表示。割り当てられていないライセンスのクライアント列内に表示されます。ユーザーの人数、ライセンスがライセンスバンドルの一部である等のライセンスに関する情報を表示します。

ライセンス情報

次のライセンス情報が表示されます:

- 状態 以下の値であることができます: アクティブ化 | 失敗した検証 | アクティブ | 非アクティブ | ブロックされた。次を参照してください: [ライセンスの状態](#)。
- 名前、会社 ライセンスの名前と会社名です。この情報は 購入の際に提供された情報を基にしています。
- 製品、エディション、バージョン ライセンスされている製品のバージョンとエディションです。各列の一番上は、ライセンスをカテゴリ別にフィルタリングするコンボボックスです。
- キーコード、バンドルID: 製品のロックを解除するライセンスキーです。単一の Altova MissionKit バンドル内の全ての製品は、バンドルID同じを有しています。バンドルされていない製品には、バンドルID は存在しません。
- 開始日、終了日: ライセンスの有効期限を示します。有効期限の無いライセンスには、終了日がありません。
- 有効期限日数、SMP (残りの日数): ライセンスの有効期限が切れるまでの日数。ライセンスされている各購入には、特定の日数の間有効なサポート & メンテナンスパッケージが付随します。SMP 列は、有効な SMP 日数を表示しています。
- #、ライセンスの型: カラム内にリストされている許可されているユーザー数またはCPU コ数。許可がユーザーまたはコア与えられるかは、ライセンスの型カラムに表示されています。Altova MobileTogether Server 製品の場合、ライセンスは MobileTogether Server に接続されているクライアントデバイスの数に基づいています。つまりサーバーの **ユーザー数**。その他の Altova サーバー製品では、ライセンスは **CPU コ数**のみをベースに割り当てられています (下を参照)。Altova デスクトップ製品の場合、ライセンス **ユーザー** の数をベースに割り当てられます。 [デスクトップ製品のライセンスに関するメモ](#) を参照してください。
- クライアント: この列は [MobileTogether Server ライセンス](#) と [デスクトップ製品 ライセンス](#) のためのみのエントリです。非 MTS [サーバー製品のライセンス](#) のためのエントリは存在しません。 [MobileTogether Server device ライセンス](#) のために、ライセンスが割り当てられているかを表示しています。この列は、デスクトップ製品のために、列は、マシンの台数とユーザーの人数を下記に説明されるように表示します。

デスクトップ製品: マシンの台数 とユーザーの人数

- マシンの台数は、与えられたライセンスでソフトウェアを実行することできるライセンスされたマシンの台数を表します。例えば、7/10 マシンは、ソフトウェアインスタンスを10台のマシンで使うことができ、現在7台のマシンでソフトウェアのために使用されていることを意味します。 [割り当てられているクライアントを表示 \(Show Assigned Client\)](#) ボタンをクリックし、 [クライアント管理](#) タブに移動し、クライアントマシンのライセンスの詳細を確認します。
- ユーザーの人数は、許可されているユーザーの総数内の現在のユーザーの数を表しています。現在作動しているライセンスされたソフトウェアのインストールのみが数えられます。例えば、3/10 users は、使用を許可されている10名のユーザー中3名のユーザーが現在ライセンスを使用していることを意味します。ライセンスされているソフトウェアのインストールが現在実行中の場合、 [現在作動中のクライアント \(Show Running Client\)](#) ボタンをクリックし、 [クライアントの監視](#) タブを開き、ネットワーク上のクライアントマシンで作動中の Altova 製品の詳細を確認します。
- ユーザーの人数 と マシンの台数 は共に、現在のライセンスの許容量と与えることできるライセンスの使用状況についての情報を表します。例えば [インストールされているユーザーライセンス](#) のマシンの台数が、7/10 であり、ユーザーの人数が3/10 の場合、以下を意味します: (i) 製品 ソフトウェアは、10台のマシンにライセンスを与えることができます。 (ii) ソフトウェアは、7台のマシンにライセンスを与えました。 (iii) ライセンスを与えられた7台のソフトウェアのうち3台が現在作動中です。

ライセンスの割り当ての解除

マシン上のソフトウェアインストールからライセンスの割り当てを解除するには、[クライアント管理](#) タブに移動します。割り当てを解除するマシンとソフトウェアを選択します。**割り当てされたライセンスを編集する** ボタンをクリックして、ライセンスの割り当てを解除し、**変更の適用** (Apply Changes) をクリックします。

デスクトップ製品のライセンスに関するメモ

ユーザーライセンスには3つの種類があります。

- **インストールされているユーザー**: ライセンスがソフトウェアをインストールする台数分購入されます。例えば、10台分のユーザーインストールライセンスを購入すると、10台までのマシンにソフトウェアをインストールして使用することができます。各ライセンスを与えられているマシンでは、同時に複数のソフトウェアのインスタンスを開始することができます。各「インストールされているユーザー」のためのライセンスは、そのマシン上で使用される製品を意味します。
- **同時に使用するユーザー**: この種類のライセンスは、同時に使用するユーザーの人数の10倍のコピーの台数にソフトウェアをインストールすることのできるライセンスです。すべてのインストールは、同じ物理ネットワーク上に存在しなくてはなりません。ソフトウェアは、同時に使用するユーザーの人数に対して許可されている数のみを使用することができます。例えば、同時に100台のユーザーのために100個のライセンスを購入したとします。この場合、ソフトウェアは200台までのコンピュータに同じ物理ネットワーク上でインストールすることができます。20台のコンピュータ上で使用することができます。同時に使用するユーザー ライセンスを異なる物理ネットワーク上で使用する場合、各ネットワークのために個別のライセンスを購入する必要があります。同時に使用するユーザーのライセンスを複数のネットワークで使用することはできません。
- **名前の与えられたユーザー**: 名前の与えられているユーザーライセンスは、それぞれ5台のマシンまで、ソフトウェアをインストールすることができます。しかしながら、ライセンス内で名前が挙げられているユーザーのみがソフトウェアを使用することができます。このライセンスを使用すると、ソフトウェアが**1つのインスタンスのみ**を使用すると仮定される場合、ユーザーは異なるマシンで作業することができます。

Altova MissionKit ライセンスに関するメモ

[Altova MissionKit](#) は、Altova デスクトップ製品のパッケージです。Altova MissionKit ライセンスは、MissionKit パッケージ内で、各デスクトップ製品のための個別のライセンスから構成されています。これら個別の製品ライセンスには異なる一意のキーコードが存在しますが、同一のMissionKit ハンドルID を有します。Altova MissionKit ライセンスをライセンスプールにアップロードすると ([Altova MissionKit](#)  が横に表示され) MissionKit を構成する各製品の個別のライセンスがライセンスプールに表示されます。これらの製品ライセンスの1つを特定のユーザーに割り当てると、MissionKit ハンドル内の他の全ての製品のライセンスもこのユーザーに割り当てられます。この結果、この特定のMissionKit ハンドル内の他の製品を他のユーザーに割り当てることはできません。

ライセンスのチェックアウト

ライセンスが製品マシン上に保管されるよう、ライセンスをライセンスプールから30日間チェックアウトすることができます。これにより、オフラインで作業することが可能になります。これはとても役に立ちます。Altova LicenseServer にアクセスできない環境(例えば、旅行中にAltova製品がインストールされたラップトップコンピュータで作業する場合など)が挙げられます。ライセンスはチェックアウトされていますが、LicenseServer は、ライセンスが使用中と表示し、ライセンスは他のマシンで使用することはできません。ライセンスはチェックアウトの期間が終わると自動的にチェックインされた状態に戻します。または、チェックアウトされたライセンスはソフトウェアのライセンスの認証ダイアログのボタンを使用して**チェックイン**することができます。ライセンスをチェックアウトするには、Altova デスクトップ製品のヘルプメニューに移動し、**ソフトウェアのライセンスの認証**を選択します。詳細に関してはAltova製品のマニュアルを参照してください。

コアとライセンスについてのメモ

Altova サーバー製品へのライセンスは製品マシンで使用可能なプロセッサコアの数をベースとしています。例えば、デュアル

コアプロセッサはコアが2 つ、クアッドコアプロセッサはコアが4 つ、ヘキサコアプロセッサはコアが6 つ等々。特定のサーバーマシン上の製品にライセンスされたコアの数は、物理または仮想マシンで、サーバーで使用可能なコア数よりも多くまたは同数である必要があります。例えば、サーバーが8 コア（オクタレコアプロセッサ）の場合、少なくとも8- コアライセンスを購入する必要があります。また、ライセンスを合計してコア数を満たすこともできます。2 つの4- コアライセンスは 8- コアライセンスの代わりにオクタレコアサーバーで使用できます。

大きいCPU コアを持つコンピューターサーバーを使用し、少量を処理する場合、少ないコアを割り当てる仮想マシンを作成し、その数のライセンスを購入することもできます。このようなデプロイは、もちろん、サーバーの全ての利用可能なコアが利用されている場合に比べ、処理スピードが落ちます。

✖ 各 Altova サーバー製品のライセンスは、使用されていないライセンス容量があっても、1 度に1 つのクライアントマシンでしか使用することができません。例えば 10- コアライセンスが6 CPU コアのクライアントマシンで使用される場合、残りの4 コアライセンスは他のマシンで同時に使用することができません。

✖ サービスの機能のため、MobileTogether Server Advanced Edition は2つまたは以上のコアを持つマシン上のみで作動します。

MobileTogether Server ライセンス

MobileTogether Server ライセンスには2つの種類があります。カスタマーは必要に応じてライセンスの種類を選択することができます。

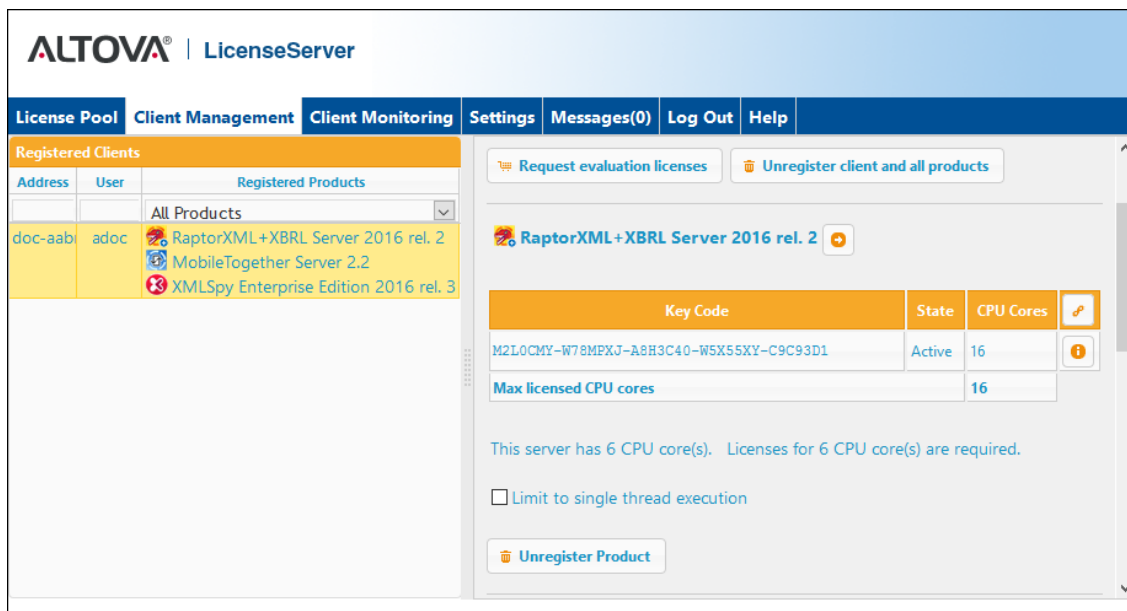
- **コアライセンス** サーバーマシンのコア数をベースとして MobileTogether Servers に割り当てられます。上の例を参照してください。上の説明を参照してください。コアライセンスは、無制限の数量の MobileTogether クライアントデバイスによりサーバーへの接続を許可します。しかしながら、単一スレッドの実行「チェックボックス」がチェックされていると1度に MobileTogether Server に接続できるモバイルデバイスは1台です。これは、評価と小さい規模のテストを行う際に役に立ちます。この場合、2台目のモバイルデバイスが MobileTogether Sever に接続される場合、ライセンス2台目が使用ようになります。最初のデバイスは、接続できないようになり、エラーメッセージが表示されます。
- **デバイスライセンス** MobileTogether Server にいつでも接続することのできる MobileTogether Client デバイスの最高使用数を指定します。

5.8.2 クライアント管理

このセクション

- [クライアント管理タブ内のアイコン](#)
- [製品のリスト内のライセンスの管理](#)
- [ライセンスの割り当て](#)
- [単一スレッドの実行](#)
- [異なる名前の下での1つのクライアントメン](#)
- [評価ライセンスのリクエスト](#)
- [製品の登録解除](#)

「クライアント管理」(Client Management) タブ(下のスクリーンショット)は2つのペインに分割されています:



- **登録されているクライアント** 左側のペインは [LicenseServer に登録されている](#) Altova 製品を少なくとも1つテーブルに表示します。このようなメンは、登録されているクライアントと呼ばれます。各登録されているクライアントは、左側のペインに登録されている全ての商品をリストします。LicenseServer に製品を登録する方法は [製品の登録](#) で説明されています。このペイン内の表示は、ペインの列の上にフィルターを入力することによりフィルターできます。
- **製品のライセンス** これは右側のペインです。登録されているクライアントが左側のペインで選択されると(登録されているクライアント) クライアントの登録されている製品のライセンスに関する情報が右側のペインに表示されます。各登録されている製品のライセンスを管理することができます(この点については下で説明されています)。

クライアント管理タブ内のアイコン



割り当てられたライセンスの編集。各製品のリストで使用することができます。新しいライセンスを製品に割り当てることできる。すでに割り当てられたライセンスを編集できる [割り当てられたライセンスの編集](#) がポップアップします。

-  ライセンスの表示。各ライセンスが表示されます。[License Pool タブ](#)に切り替えがで、選択されたライセンスをハイライトすることによりライセンスの詳細がわかります。
-  製品の登録解除。(選択されたクライアントマシン上の) 各製品で利用可能です。選択された製品をLicenseServer から削除することができます。[製品の登録解除](#)を参照してください。クライアントとその全ての製品の登録解除を行うには、ペイン上の **クライアントとその全ての商品の登録を解除する**(Unregister client and all products) をクリックしてください。

製品のリストペイン内のライセンスの管理

右側の製品のライセンスペインでは、以下を行うことができます。

- 割り当て、割り当ての解除、製品のライセンスの変更: 製品の **割り当てられたライセンスを編集する** (Edit Assigned Licenses) ボタンをクリックして行います。次を参照してください: [ライセンスの割り当て](#)。各サーバー製品には、クライアント上で製品を動作するためにライセンスされるべき必要なCPU コア数が表示されています。ライセンスされているコアが必要なコア数より少ない場合、情報は赤でマークされています(ライセンスされる必要があるCPU コア数は、そのクライアント上のCPU コアの数で、LicenseServer によりクライアントマシンから取得されます)。
- 単一コア: クライアントの単一コアを使用するためのサーバー製品のセットアップ: 次を参照してください: [単一スレッドの実行](#)。
- LicenseServer を製品から登録解除する: 製品の **製品の登録解除** ボタンを使用します。次を参照してください: [製品の登録解除](#)。

ライセンスの割り当て

登録されている製品にライセンスを割り当てるには、その製品の **割り当てられたライセンスを編集する** (Edit Assigned Licenses) ボタンをクリックしてください。これは、**割り当てられたライセンスを編集する** ダイアログを表示します(下のスクリーンショット)。

Edit Assigned Licenses

Product:  RaptorXML+XBRL Server 2016 rel. 2

Registered at: doc-aab 

Requires licenses for 6 CPU cores Max licensed CPU cores: 16

Available licenses

#	License Type	State	Key Code	Expires in days	SMP days left	
☒	16 CPU Cores	Active	M2L0CMY-W78MP		336	

Apply Changes

Go to License Pool

割り当てるライセンスを選択し、**変更の適用**(Apply Changes) をクリックします。ライセンスは、その製品に割り当てられ、クライアント管理タブの製品のライセンスタブ内に表示されます(下のスクリーンショット参照)。

Key Code	State	CPU Cores
M2L0CMY-W78MPXJ-A8H3C40-W5X55XY-C9C93D1	Active	16
Max licensed CPU cores		16

This server has 6 CPU core(s). Licenses for 6 CPU core(s) are required.

☐ Limit to single thread execution

[Unregister Product](#)

単一スレッドの実行

ライセンスプール内で、製品ライセンスが、1つのコアのためにのみ有効な場合、複数のコアを持つマシンが1つのコアのライセンスに割り当てられることができます。このような場合、マシンはその製品を単一のコアで動作します。ですから、処理は、(複数のコアのみで可能な)複数のスレッドが使用できないため遅くなります。製品はそのマシン上で単一のスレッドモードで実行されます。

単一コアのライセンスを複数のコアマシンに割り当てるときは、その製品のために単一スレッドの実行に制限チェックボックスをチェックします。

MobileTogether Server (MTS) の場合、MTS コアライセンスのために単一スレッドの実行が選択されている場合、MobileTogether Server に接続することのできるモバイルデバイスが1台です。2台目のデバイスが MobileTogether Server に接続されると、ライセンスが引き継がれます。最初のデバイスが接続することができなくなり、このためエラーメッセージが表示されます。

異なる名前で使用される1つのクライアントマシン

クライアントマシンが度以上 LicenseServer に登録されている場合、クライアント管理タ内で複数の名前が表示される可能性があります。これは、複数のエントリが表示されるという意味です。これは、マシンが異なるホスト名で再登録された場合発生します。

追加ライセンスが同じマシンに異なる名前に登録されないよう確認してください。(製品のライセンス ペインの右上にある **クライアントと全ての製品の登録を解除する** ボタンを使用して余計なクライアントマシンの登録を解除してください。また、同じライセンスが同じマシンに複数回割り当てられるライセンスの競合が発生する場合があります。ですので、これらのシチュエーション(冗長ライセンスと単一ライセンスの複数回の割り当て)を回避するために、単一クライアントマシンの複数回のエントリは、登録解除されることを奨励します。

クライアント管理タ内で取られるマシン名の例です:

- ドメイン名を持つホスト名 (完全修飾されたドメイン名、FQDN) 例: "win80-x64_1.my.domain.com" または "Doc3.my.domain.com"。これはドメイン情報を持つ (または持たない) マシンのホスト名が LicenseServer に登録するために使用される licenseserver CLI コマンドの引数として与えられた場合に発生します。例: <AltovaServerProduct> licenseserver Doc3. これは以下を含む FQDN を作成します: Doc3.my.domain.com.

FQDN は、また localhost が Windows 7 と 10 システム上でホスト名として与えられた場合に生成されます。

- ドメイン名を持たないホスト名。例 "win80-x64_1" または Doc3"。これは、Windows 8 システム上で localhost がマシン名として与えられた場合、発生します。
- localhost. 一部の場合、localhost は、マシン名として表示されます。

✖ Windows マシンに Altova サーバー製品をインストール中、マシンが自動的に LicenseServer に登録される場合、localhost がインストーラマシン名として使用されます。

VPN を介して LicenseServer へ接続

クライアントマシンが仮想プライベートネットワーク (VPN) サービスを介してネットワークに接続する場合、クライアントマシンは、動的に IP アドレスを割り当てられ、接続の都度、異なるマシンとして識別されるようになります。この結果により発生する問題を解決方法については [ネットワーク情報](#) を参照してください。

評価ライセンスのリクエスト

30-日間無料の評価ライセンスをクライアントにインストールされている LicenseServer に登録されている Altova 製品のために取得することができます。ペインの右上にある **評価ライセンスのリクエスト (Request Evaluation Licenses)** ボタン (製品のリцен

製品の登録解除

LicenseServer に登録されている各 Altova 製品が右側のペイン (製品のリцен

LicenseServer から登録の解除を行うには、以下を参照します:

- **サーバー製品:** サーバー製品の Web UI 内の設定ページに移動し、サーバー製品に Web UI が存在しない場合は、コマンドプロンプトを開き、製品の CLI を使用して登録します。各製品のための手順は以下で説明されています: [FlowForce Server の登録](#)、[MapForce Server の登録](#)、[MobileTogether Server の登録](#)、[StyleVision Server の登録](#)、と [RaptorXML\(+XBRL\) Server の登録](#)。
- **デスクトップ製品:** 製品の [ソフトウェアのライセンス認証 ダイアログ](#) **Help | ソフトウェアのライセンス認証 (Help | Software Activation)** により LicenseServer モードからソフトウェアの認証に切り替えます。Altova LicenseServer フィールド内から製品を登録する LicenseServer を選択します。製品は LicenseServer のクライアント管理タブ内の登録された製品リスト内に表示されます。

詳細に関しては、次のセクションを参照してください: [登録された製品へのライセンスの割り当て](#)。

5.8.3 クライアントの監視

クライアントの監視 タブにより選択されたクライアントマシンの概要を確認することができます。タブには以下が表示されます:

チェックアウトされているクライアント

(サーバー製品ではなく) XMLSpy または MapForce などの Altova デスクトップ製品, のエンドユーザーは LicenseServer に登録されているライセンスをチェックアウトすることができます。エンドユーザーのマシンが一定の期間オフラインであることが想定される場合、この機能が使用されます。LicenseServer からライセンスをマシンがオフラインである一定の期間チェックアウトすることができます。この期間内で、エンドユーザーは Altova デスクトップ製品を LicenseServer に通信を取ることなく使用し続けることができます。現在チェックアウトされているライセンスとユーザーは、この見出しと共にリストされます。

✖ エンドユーザーは、Altova デスクトップ製品のソフトウェアのライセンスの認証ダイアログ(**Help | Software Activation**)によりライセンスをチェックアウトすることができます。

実行中のクライアント

現在クライアント上で実行されている Altova 製品のリストです。製品の複数のインスタンスが実行されている場合、これらのインスタンスがリストされています。

Running Clients								
Product	Edition	Version	User	Address	State	Failover	Last seen (seconds ago)	
RaptorXML+XBRL Serv		2016 rel. 2	DOBRA	doc-aab	Running		8	
XMLSpy	Enterprise Editio	2016 rel. 3	adoc	doc-aab	Running		11	

✖ [Failover LicenseServers](#) は、v2015rel3 または以降であるクライアントアプリケーションと作動します。(Altova MobileTogether Server の場合、バージョン1.5 または以降)。古いクライアントにはプラグが立てられません。

✖ [フェールオーバー LicenseServers](#) は、v2015rel3 または以降であるクライアントアプリケーションと作動します。(Altova MobileTogether Server の場合、バージョン1.5 または以降)。古いクライアントにはプラグが立てられません。

クライアントの監視タブ内のアイコン

- ライセンスの表示。製品のインスタンスに表示されます。 [License Pool](#) タブに切り替えができ、選択された製品のインスタンスがハイライトされることによりライセンスの詳細がわかります。
- クライアントの管理。各製品のインスタンスに表示されます。 [クライアント管理](#) タブに切り替えができ、選択された製品のインスタンスをハイライトします。

5.8.4 設定

このセクション

- [フェールオーバー LicenseServer 設定](#)
- [ネットワーク設定](#)
- [電子メールの設定の変更](#)
- [その他の設定](#)

設定 タブに関しては下で説明されています。次を設定することができます:

- **LicenseServer をシャットダウンするまでの待ち時間。** シャットダウンは、通常サーバーのメンテナンスのために実行されます。シャットダウンする時間は、Altova デスクトップ製品を実行中のクライアントの作業を減らすために使用することができます。選択されたシャットダウンタイムは、シャットダウンの最長の時間です。デスクトップ製品を起動するクライアントに LicenseServer が接続されていない場合、LicenseServer は即時シャットダウンされます。シャットダウンまでの待ち時間は、**シャットダウン** をクリックすると開始されます。シャットダウンをキャンセルするには、**シャットダウンの中断** をクリックします。LicenseServer のシャットダウン中に、クライアントの作動を有効化するには、**フェールオーバー LicenseServer** を構成してください。
- プライマリ LicenseServer が使用できなくなった場合、2番目の LicenseServer が、プライマリ LicenseServer から引き継ぐよう構成することができます。この2番目の LicenseServer は、**フェールオーバー LicenseServer** と呼ばれます。この2番目の LicenseServer は、**フェールオーバー LicenseServer** この設定の指定方法はここから確認することができます。
- この2番目の LicenseServer にログインするためのパスワード。希望するパスワードを入力し、**パスワードの変更** (Change Password) をクリックします。
- Altova への接続をテストするには、**Altova への接続をテストする** (Test Connection to Altova) をクリックします。接続をテストする前に (ペインの下に **保存** (Save) ボタンをクリックして) 新しい設定を保存する必要がありますことに注意してください。Altova への接続をテストする (Test Connection to Altova) ボタンは、テスト中は無効化されており、テストが完了すると有効化されます。
- ウェブベースの構成ページ (Web UI) のためのネットワーク設定は (存在する場合) インターネットに接続するために使用されるプロキシサーバー、およびライセンスサービスの使用のためです。これらの設定に関しては下のネットワーク設定で説明されています。
- 電子メールサーバー設定と LicenseServer に関する重要な事項が発生した場合に電子メールが送信される宛先です。これらの設定に関しては下の [電子メールの設定の変更](#) で説明されています。
- 設定を変更した後、ペインの下に **保存** をクリックします。変更された設定は、保存されるまで効果が適用されません。

フェールオーバー LicenseServer 設定

プライマリ LicenseServer が使用不可能になった場合、プライマリ LicenseServer から第 2 LicenseServer への LicenseServer 切り替えを構成することができます。この第 2 LicenseServer は **フェールオーバー LicenseServer** と称されます。

Failover LicenseServer Settings

To reduce the risk of an unavailable LicenseServer you can configure a second LicenseServer as a backup or "Failover LicenseServer".

In the event that the Primary LicenseServer becomes unavailable a Failover LicenseServer can take over.

LicenseServer Mode

☐ Primary LicenseServer
☒ Failover LicenseServer

Please note: The Failover LicenseServer periodically synchronizes all licenses, registered clients and license assignments from the Primary LicenseServer. Whenever a Failover LicenseServer takes over from a Primary LicenseServer any changes to these items made on the Failover LicenseServer during this period will be lost as soon as the Primary LicenseServer regains control. Other settings such as Proxy Server and Mail settings are independently set in each server and are not synchronized.

This is a Failover LicenseServer for the LicenseServer at kubu6.altova.com

Last seen 2/5/2015, 11:56:04 AM

LicenseServer をフェールオーバーLicenseServer と設定するには、以下をおこないます。

1. インストールセグメントの指示に従いLicenseServer をインストールします。
2. LicenseServer のモードを、対応するラジオボタンを選択して、フェールオーバーLicenseServer に設定します。(上のスクリーンショットを参照)。(デフォルトでは、LicenseServer モードはプライマリLicenseServer に設定されています。)
3. 表示されるプライマリLicenseServer を検索ダイアログ(下のスクリーンショット)にフェールオーバーLicenseServer によりバックアップされるプライマリLicenseServer を入力します。手順は以下の方法で行うことができます: (i) **「LicenseServers の検索」(Search for LicenseServers)** をクリックして、コンボボックス内で検索されたLicenseServer リストからバックアップするLicenseServer を選択します。(ii) **「手動でアドレスを入力」(Manually Enter Address)** をクリックして、バックアップするLicenseServer のアドレスを入力します。プライマリLicenseServer を入力して、**「手動でLicenseServer へ接続」(Connect to Primary LicenseServer)** をクリックします。

Find the Primary LicenseServer

To configure this LicenseServer as a Failover LicenseServer...

Step 1: Find or enter the address of a Primary LicenseServer
 Step 2: Connect to it.

Enter address here or search for a LicenseServer

Connect to Primary LicenseServer

4. 確認ダイアログが表示され、現在のLicenseServer を選択されたプライマリLicenseServer のフェールオーバーLicenseServer として設定するか問われます。確認すると、インストールされたライセンスと登録されたクライアントが削除されます。続行する場合は **「はい」** をクリックします。続行を確認することは、インストールされたライセンスを削除し、現在のLicenseServer から登録されたクライアントの登録を解除することに注意してください。

フェールオーバーLicenseServer が構成されると、プライマリLicenseServer とフェールオーバーLicenseServer の双方に対するモードに関する通知が構成ページの上に表示されます。下のスクリーンショットで、最初にフェールオーバーLicenseServer が、次にプライマリLicenseServer が表示されています。



以下の点に注意してください。

- フェールオーバーLicenseServer が構成された後に、定期的にプライマリからのすべてのライセンス登録されたクライアント、使用許諾契約を同期化します。プライマリが使用不可能になると、フェールオーバーがLicenseServer の役割を引き継ぎます。プライマリが再び使用可能になると、プライマリがフェールオーバーを引き継ぎます。フェールオーバーに加えられたライセンスに関連する変更は、プライマリが管理を再び開始すると失われます。
- フェールオーバーLicenseServer は、2015 rel 3以降、(Altova MobileTogether Server の場合は、v 1.5 または以降) のバージョンのクライアントのみにライセンスを提供します。プライマリLicenseServer (下のスクリーンショット) の [クライアント管理タブ](#) で古いクライアントはフラグされます。フェールオーバーLicenseServer 機能を使用する場合は、クライアントのアプリケーションを2015 rel 3 以降にアップグレードするか、または 後に行ってください。(Altova MobileTogether Server の場合は、v 1.5 または以降)

ライセンスのチェックアウト

デスクトップのライセンスをライセンスプールからAltova デスクトップ製品がインストールされているマシンにチェックアウトするように選択することができます。これを許可すると、LicenseServer から取得されたクライアントは、このライセンスをチェックアウトし、この設定が指定する期間モニターされることはありません。チェックアウトのための最長期間は30 日です(これにより(旅行中など) LicenseServer へのアクセスがない場合でも、クライアントがデスクトップ製品の使用を継続することができます)。Altova デスクトップアプリケーションの **ヘルプ | ソフトウェアの認証** コマンドを使用してクライアントはチェックアウトすることができます。

ライセンスのチェックアウト後、[クライアントのモニター](#) タブのチェックアウトされたクライアントのセクションに移動されます。使用中と考えられ、ネットワーク上の他のクライアントにより使用されることはできません。

ネットワークの設定

管理者はLicenseServer 構成ページおよびLicenseServer にポイントされるネットワークアクセスを指定することができます。

Web UI

Changing these settings will cause the LicenseServer to restart and any currently running and licensed applications will be shut down!

Configure the host addresses where the web UI is available to administrators.

☒ All interfaces and assigned IP addresses
☐ Only the following hostname or IP address:
Ensure this hostname or IP address exists or LicenseServer will fail to start!

Configure the port used for the web UI.

☐ Dynamically chosen by the operating system
☒ Fixed port
Ensure this port is available or LicenseServer will fail to start!

Proxy Server

Configure the proxy server connection details if a proxy server is needed to communicate with Altova's servers.

Hostname
Port Number If the port number is left blank the default port 1080 will be used.
User Name
Password Leave the user name and password blank if no authentication is required.

License Service

Configure the host addresses where the LicenseServer service is available to clients.

☒ All interfaces and assigned IP addresses
☐ Local only (localhost)
☐ Only the following hostnames or IP addresses:
Ensure the hostnames or IP addresses exist or LicenseServer will fail to start!

- **Web UI:** 許可されたIP アドレスのすべてのインターフェイス マシンのIP アドレス 固定アドレス ポート動的に計算されるか固定されるかできます。これにより広範囲のIP-アドレスポート設定が許可されます。デフォルトのポート設定は**8088**です。
- **プロキシ サーバー (v1.3 以降使用可能):** プロキシサーバーがインターネットに接続する際使用される場合、プロキシサーバーの詳細はプロキシサーバーページに入力する必要があります(上部スクリーンショット参照)。これらのフィールドはプロキシサーバーが使用時のみ記入される必要があります。プロキシサーバーを使用するために LicenseServer を構成するには、プロキシサーバーのホスト名と必要であれば、ポート番号を入力します。プロキシサーバーが認証を必要としない場合、ユーザー名とパスワードのフィールドは空白にしておくことができます。
- **License サービス** がインストールされているマシンは1つまたは複数のネットワークインターフェイスから、複数または一つのネットワークに接続することができます。それぞれのネットワークで、License Server マシンはホスト名とIP アドレスにより検出されます。License Service 設定により、どのネットワークライセンスサービスを使用することができるか知ることができます。localhost オプションは、ローカルマシンのみでのサービスを許可します。ホスト名またはおよびIP アドレスをリストする場合、スペースを使用せず、コンマのみでリストを区切ります。(例: hostname1, IPAddress1, hostname2)。サービスのポート番号は **35355** に固定されています。

デフォルトでは、これらの設定はLicenseServer とLicenseServer が接続されているネットワークの構成ページへの制限のないアクセスを許可します。LicenseServer または、構成ページへのアクセスを制限したい場合は、適切な設定

を入力して **保存(Save)** をクリックしてください。

接続テスト(上部参照) 実行して設定が正しいか確認してください。

メール通知の設定

重要な LicenseServer イベントが発生した場合、警告メールが指定された電子メールに送信されます。Altova LicenseServer は、altova.com サーバーに接続されている必要があります。接続が24*5 時間(5 日間)途切れた場合、LicenseServer はライセンスを許可しません。この結果、LicenseServer にライセンスされたAltova 製品との作業セッションが失われる可能性があります。管理者に接続が破損していることを通知するには、指定されている電子メールアドレスに警告メールを送信しておきます。

接続エラー状態を管理者に通知するために、通知メールを電子メールアドレスに送信することができます。管理者の電子メールアドレスに通知メールを送信する通知メールペイン(下のスクリーンショット参照) に設定を入力します。

Alert Mail

Configure email settings for communication with administrator.

SMTP Host 127.0.0.1

SMTP Port 25

User authentication myusername

User password *****

From mylicserver@altova.com

To myadmin@altova.com

Send Test Mail

Miscellaneous

☐ Show hint how to receive evaluation licenses for a server product

☒ Send a warning email if contact with a running product is lost.

Save

SMTP ホストおよびSMTP ポートは電子メール通知が送信される電子メールサーバーのアクセスの詳細です。ユーザー認証(User Authentication) とユーザーパスワード(User Password) は電子メールサーバーにアクセスするためのユーザーの資格情報です。From フィールドに電子メールの送信者の電子メールアドレスを入力します。To フィールドは受信者の電子メールアドレスを入力します。

完了すると **保存 (Save)** をクリックしてください。メール通知の設定タブを保存した後、電子メール通知が altova.com への接続エラーなどの重大な出来事が起きた際に指定されたアドレスに送信されます。このようなエラーの際

は[メッセージタブ](#)にも記録されますので、メッセージタブで確認することもできます。

その他の設定

評価ライセンスの受け取りとデプロイのヒントの表示

構成ページ下部のこのボックス(上のスクリーンショット参照) をチェックすることにより 簡単な評価ライセンスを評価しデプロイする簡単な説明が表示されます。

作動している製品とのコンタクトエラーが発生した場合に警告電子メールを送信する

ライセンスが作動している製品とのコンタクトエラーが発生した場合、From アドレスから警告メッセージが送信されます。

5.8.5 メッセージ、ログアウト

メッセージ(Messages) タブはLicenseServer のライセンスプール内のライセンスに関連したすべてのメッセージを表示します。各メッセージには **削除(Delete)** があり 特定のメッセージを削除することができます。

ログアウト(Log Out) タブはログアウトボタンとして機能します。タブをクリックすることにより ログインマスクが表示されます。

5.9 パスワードのリセット

LicenseServer パスワードを忘れた場合、コマンドラインインターフェイスから `passwordreset` コマンドを使用してパスワードをデフォルトにリセットすることができます。

1. コマンドラインウィンドウを開く
2. LicenseServer アプリケーションまたは実行可能ファイルがインストールされているディレクトリに変更する
3. 次のコマンドを入力する `licenseserver passwordreset`
これによりLicenseServer 管理者のパスワードをdefault に設定します
4. 管理者にパスワードdefault を使用して、ログインすることができます。

Index

A

Altova LicenseServer,
(LicenseServer を参照してください), 86
開始 ,17
接続設定 ,75
登録 ,75

Altova ServiceController, 95

F

FlowForce Server,
LicenseServer に登録 ,110
FlowForce Server を LicenseServer に登録 ,110

H

HTTP と HTTPS ポート,
サーバー管理者のための ,75
モバイルクライアントのための ,75
HTTP トリガーの設定 ,39

L

LicenseServer,
Altova LicenseServer を参照してください ,17
FlowForce Server を登録 ,110
Linux へのインストール ,92
macOS へのインストール ,94
MapForce Server を登録 ,114
MobileTogether Server の登録 ,116
StyleVision Server を登録 ,118
Windows へのインストール ,91
デスクトップ製品を登録する ,109
のインターフェイス ,125
ライセンス割り当てのステップ ,96
開始 ,97
構成ページ ,125

接続設定 ,75
設定 ,137
登録 ,75

LicenseServer への VPN 接続 ,88

LicenseServer 構成ページ,
(構成ページ参照), 99, 102, 104

LicenseServer へ MobileTogether Server を登録 ,116

M

MapForce Server,
LicenseServer に登録 ,114
MapForce Server を LicenseServer に登録 ,114
Mobile クライアント,
の情報 ,44
MobileTogether Server,
LicenseServer へ登録 ,116
インストール ,10
セットアップ ,10
ライセンス ,10
開始 ,19
使用方法 ,6
MobileTogether Server のバックアップ ,45
MobileTogether Server の復元 ,45
MobileTogether Server 概要 ,4

S

ServiceController, 95
SSL 暗号化 ,11, 21
SSL 証明書 ,75
StyleVision Server,
LicenseServer に登録 ,118
StyleVision Server を LicenseServer に登録 ,118

W

Webブラウザ ,
ソリューションの実行の有効化 ,75

Z

アクティブディレクトリログイン ,75

キャッシュ ,

の設定 ,73

作成 ,73

キャッシュ設定 ,75

クライアントの IP アドレス ,88

クライアントのホスト名 ,88

クライアントポート ,75

クライアントマシンの監視 ,136

クライアントユーザーリスト ,69

クライアント管理ペイン ,132

サーバーアクション ,

のログ ,71

サーバーアクションのログ ,71

サーバーアドレス ,75

サーバーサービスのためのトリガー ,

HTTP トリガーの設定 ,39

タイマートリガー ,35

タイマーのトリガーの設定 ,37

ファイルシステムトリガー設定 ,38

管理 ,35

サーバーセッションのタイムアウト ,75

サーバーの統計 ,40

サーバーフォルダー ,

の管理 ,52

の構造 ,52

サーバー管理タブ ,120

サーバー管理者ポート ,75

サーバー上のソリューションディレクトリ ,75

サーバー側のソリューションの作業ディレクトリ ,75

サービス ,

HTTP トリガー ,39

タイマーのトリガー ,37

トリガーの管理 ,35

ファイルシステムトリガー ,38

構成の概要 ,35

シミュレーション設定 ,75

タイマーのトリガーの設定 ,37

デスクトップ製品 ,

デスクトップ製品を登録する ,109

デスクトップ製品を LicenseServer に登録する ,109

デフォルトのパスワード ,99

ネットワーク情報 ,

VPN を使用した接続 ,88

とクライアントの IP アドレス ,88

接続のプロシージャ ,88

ネットワーク設定 ,137

パーミッション ,52

パスワード ,

ドメインの有効化 ,75

開始のデフォルト ,99

パスワードのリセット ,144

パスワードポリシー ,

メンバーの割り当て ,66

作成 ,66

パスワードをリセットする ,144

ファイルシステムトリガー設定 ,38

ブラウザー ,

ソリューションの実行の有効化 ,75

ポート ,

サーバー管理者、http と https ,75

モバイルクライアント http と https ,75

ホスト設定 ,75

メッセージ ,143

モバイルクライアントポート ,25, 75

ユーザー ,29

ロールの割り当て ,59

管理 ,59

削除 ,59

新規作成 ,59

ユーザーライセンス ,

の管理 ,69

ユーザーログイン ,

ドメイン特有のパスワード ,75

ユーザードメインのインポート ,75

ライセンス ,

アップロード ,106, 126

割り当て ,120, 132

管理 ,132

ライセンスのアップロード ,106, 126

ライセンスの割り当て ,120

ライセンスプール ,106, 126

レポート ,

ユーザーの特権の ,68

特権の ,68

ロール ,29

メンバーの割り当て ,63

作成 ,63

特権の定義 ,63

ログアウト ,143

ログ設定 ,75

ワークフロー ,52

暗号化 ,21

管理者インターフェイス ,125

管理者ポート,25

更新 ,90

構成ページ ,125

(Linux) の URL, 102

(macOS) の URL, 104

Linux で開く,102

macOS で開く,104

Windows で開く,99

の URL, 99

作業ディレクトリ ,75

製品とクライアントの登録の解除 ,132

設定 ,75, 137

通知電子メール ,137

統計 ,

ソリューションの使用 ,40

特権 ,29

の詳細なリスト,31

評価ライセンス ,132